

東京大学大学院総合文化研究科博士学位論文

ユートピア都市の書法
——クロード=ニコラ・ルドゥの建築思想
【図版集】

小澤 京子

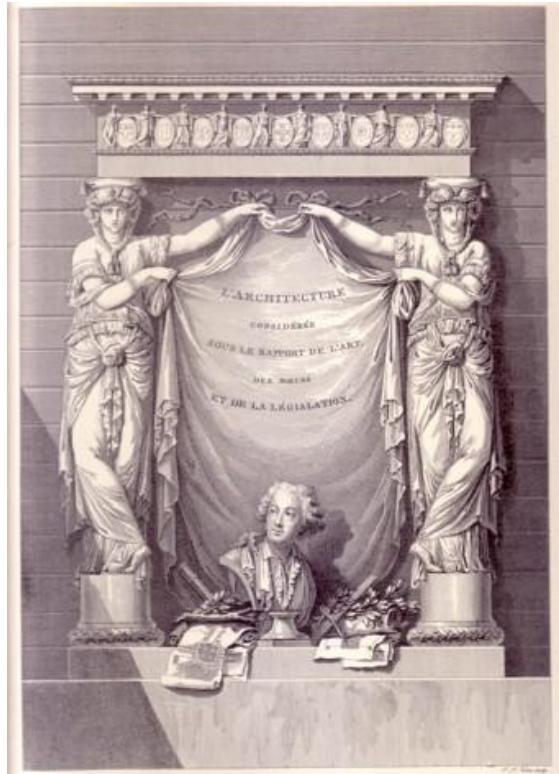
【図0-1】アントワーヌ=フランソワ・カレに帰属
『建築家クロード=ニコラ・ルドゥとその娘アデライド』1782年頃
パリ、カルナヴァレ美術館
コンパスの先は、アルケ=スナン王立製塩所の正門グロットの平面図を指している



【図0-2】ルドゥ、アルケ=スナンの王立製塩所、1779年竣工、鳥瞰図



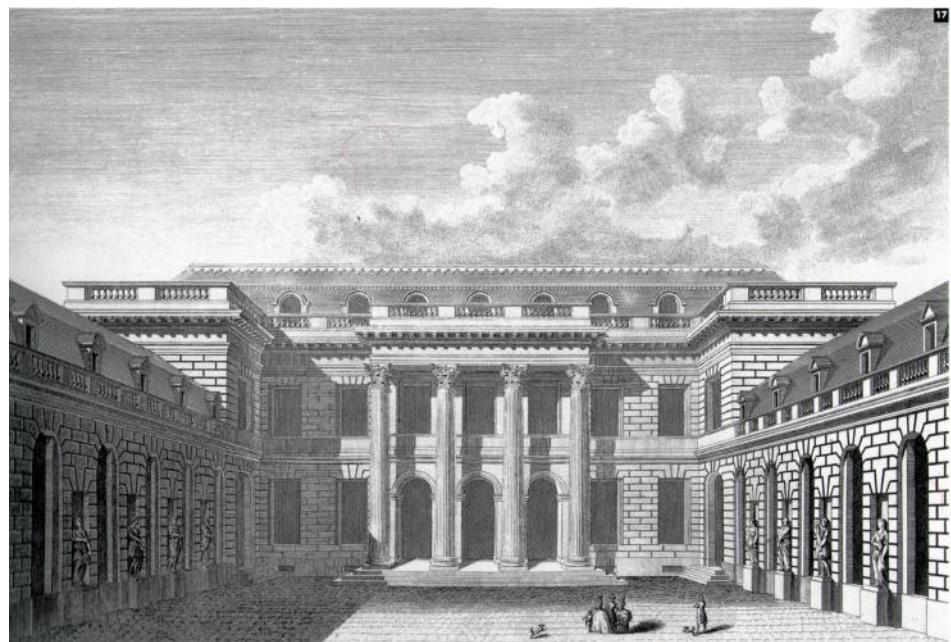
【図0-3】 ルドゥ著、C.N.ヴァラン彫版、『建築論』(1804年刊行)フロンティスピース、1789年



【図0-4】 ルドゥ設計、カフェ・ミリテールの内装、1762年、パリ、カルナヴァレ美術館



【図0-5】ルドウ(スリエ彫版)「ユゼスの邸館の立面透視図」
ラメ版『ルドウの建築論』1847年所収(pl. 154)



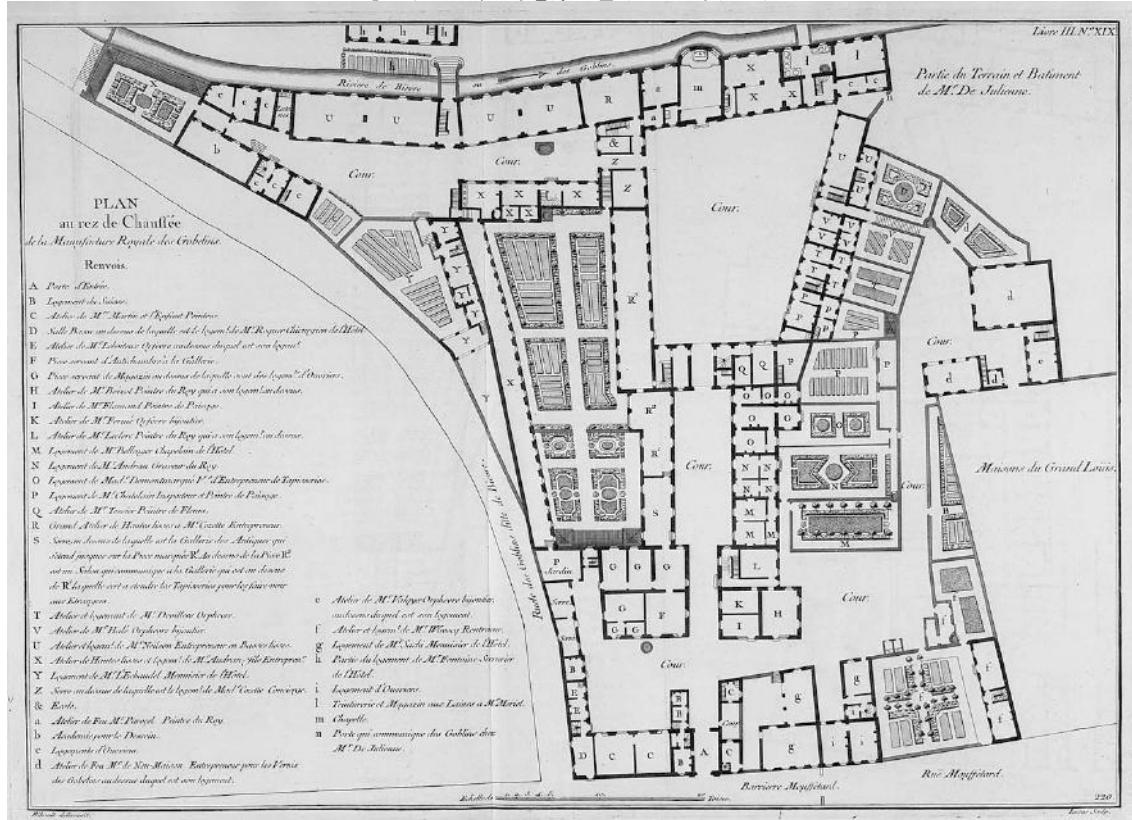
【図0-6】ルドウ(ドラガルデット彫版)「ショッセ・ダンタンのギマール嬢の邸館」
ラメ版『ルドウの建築論』1847年所収(pl. 176)



【図0-7】ルドウ設計、ルーヴル宮殿の別邸、1771-74年
制作者・制作年未詳、ブリティッシュ・ライブラリー所蔵



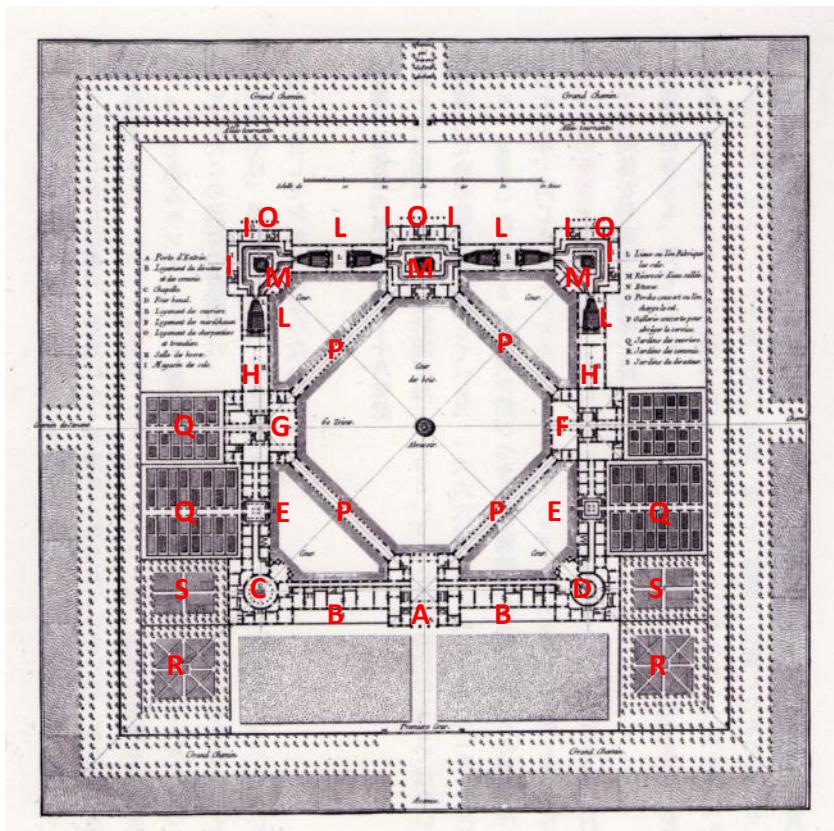
【図0-8】 ジャック=フランソワ・ブロンデル「王立ゴブラン工場の描写」
『フランス建築』第2巻(1952年)より



【図0-8】「王立ゴブラン工場の一階の平面図」配置

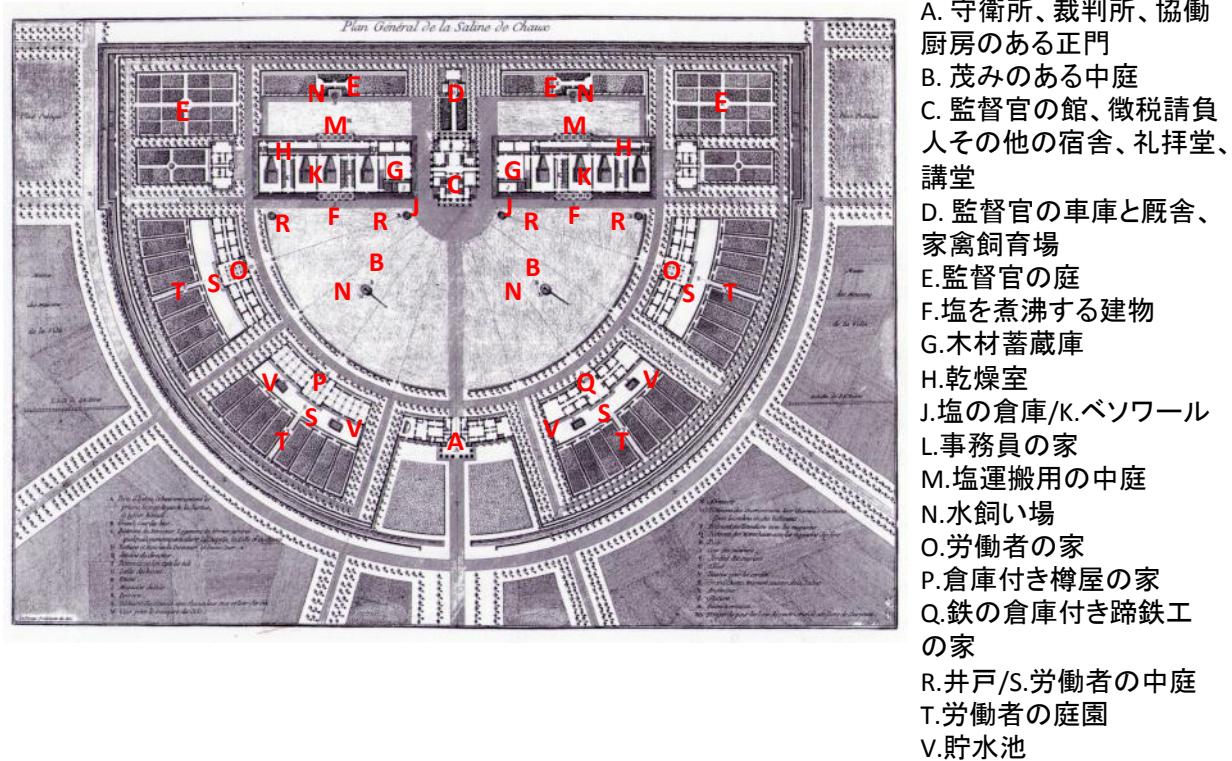
- A. 入場門
- B. 守衛の住居
- C. マルタン夫人と児童画家(l'Enfant Peintres)のアトリエ
- D. 邸館の外科医ロジャーの住居を上階に戴く衛兵詰め所(Salle Basse)
- E. 彫金師ルボワテュのアトリエと住居
- F. 待合室からギャラリーにまで使用できる部屋
- G. 工場労働者住居を上階に戴く、倉庫(店舗?)に供される部屋
- H. 国王の画家ボアズのアトリエ、上階に住居
- I. 風景画家フラマンのアトリエ
- K. 彫金・宝石細工職人フォルメのアトリエ
- L. 国王の画家ルクレールのアトリエ、上階に住居
- M. 邸館の礼拝堂管理司祭ベランジェの住居
- N. 国王の版画化オードランの住居
- O. タピスリーの第5請負業者(entrepreneur)ド・モンマルケ夫人の住居
- P. 視察官・風景画家シャトレンの住居
- Q. 花の画家トシエのアトリエ
- R. 業者コゼットの大アトリエ
- S. 上階に古遺物ギャラリーを戴く温室
- T. 彫金師ドヴィエのアトリエ、上階に住居
- V. 彫金師・宝石細工職人アレのアトリエ
- U. バス・リス(タピスリーの種類)業者ネイルソンのアトリエと住居
- X. オート・リスのアトリエと業者の息子オドランの住居
- Y. 邸館の建具屋レショーデルの住居
- Z. 上階にコンシェルジュ、コゼット夫人の住居と学校を戴く温室
- a. 国王の画家パロセルの窯付きアトリエ
- b. 素描のアカデミー
- c. 労働者の住居
- d. ゴブランの釉薬の請負業者のド・ヌーメゾンの窯付きアトリエと住居
- e. 彫金師・宝石細工職人ヴァレイエのアトリエと住居
- f. Rentreieurワヴォラックのアトリエ、住居
- g. 邸館の建具屋ザシの住居
- h. 邸館の鍵屋フォンテーヌの住居部分
- i. 労働者の住居
- l. マリエル氏の羊毛染色工房とその店舗
- m. 礼拝堂
- n. ド・ジュリアン氏へとゴブランを運ぶ門

【図0-9】ルドウ(スリエ彫版)「王立製塩所第一案」『建築論』1804年所収
(図中の赤字追記は筆者による)

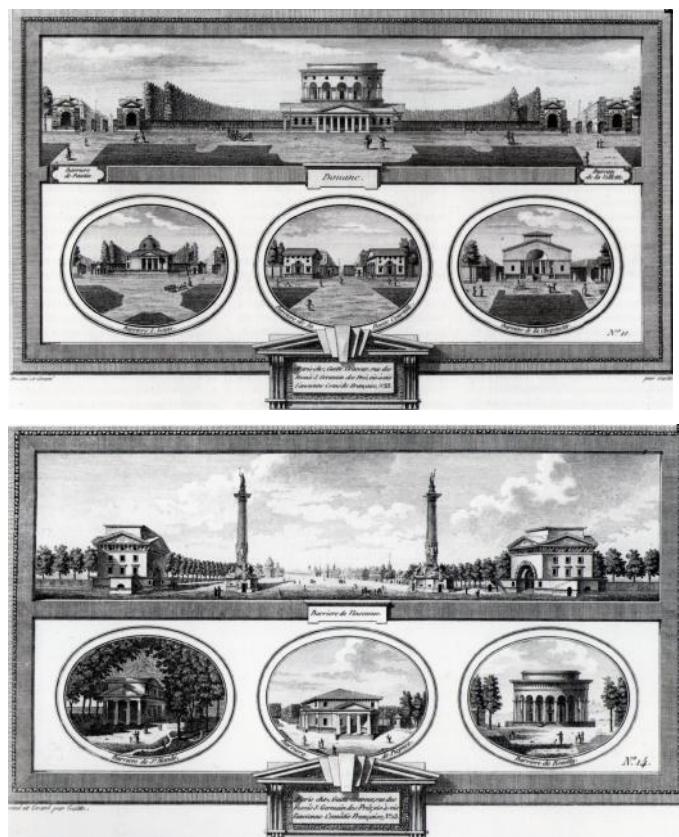


- A. 正門
- B. 工場長の館
- C. 礼拝堂
- D. 共同の竈
- E. 労働者の宿舎
- F. 蹄鉄工の宿舎
- G. 大工の宿舎
- H. 倉庫
- I. 塩の倉庫
- L. 製塩の場所
- M. 塩水の貯水池
- N. 乾燥室
- O. 塩を積み出す屋根付きポーチ
- P. 効率化のための屋根付き回廊
- Q. 労働者の庭
- R. 事務員の庭
- S. 工場長の庭

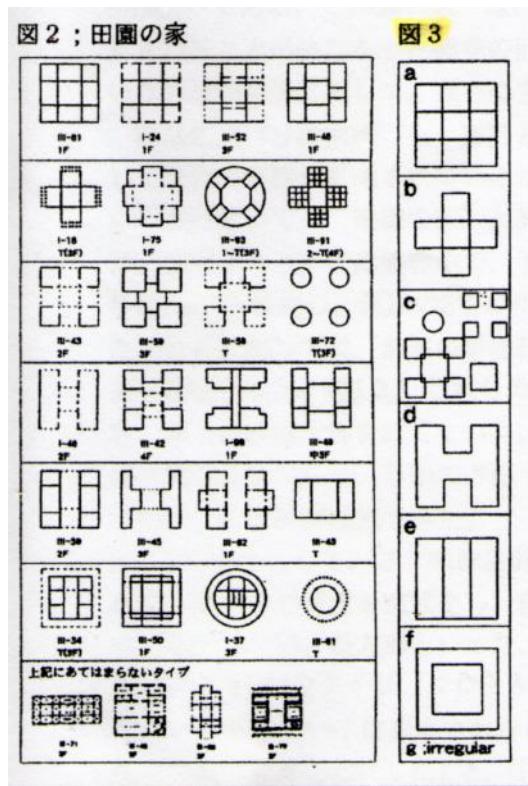
【図0-10】 ルドウ(スリエ彫版)「王立製塩所の実現された平面図」『建築論』1804年所収
(図中の赤字追記は筆者による)



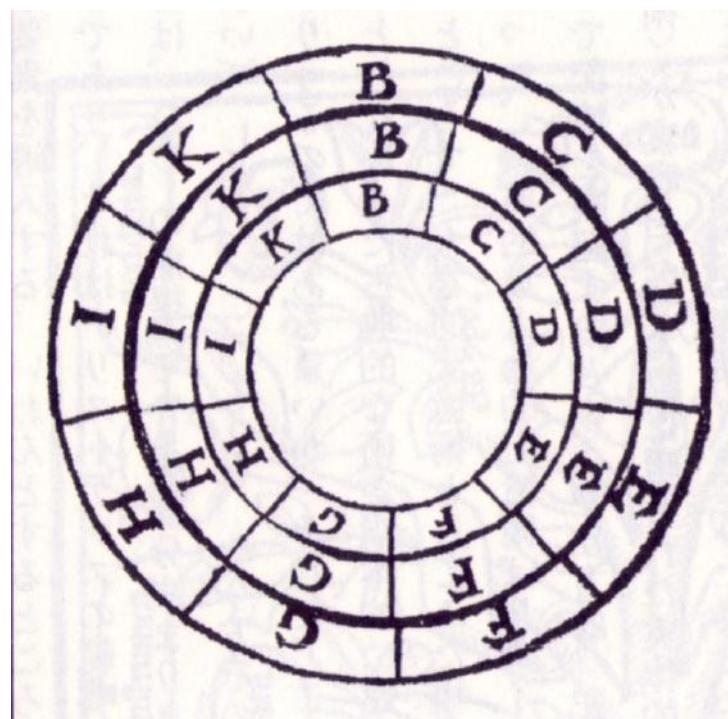
【図0-11】 ルドウ設計(ゲット彫版)「パリの徵税市門」年代未詳、カルナヴァレ美術館



【図1-1】清水いづみ・鶴沢隆作成、ルドウ設計の建築平面計158点から導出された6種類のプロトタイプ(右)と、158点に含まれる主要作品20点の平面図のダイアグラム(左)、1997年



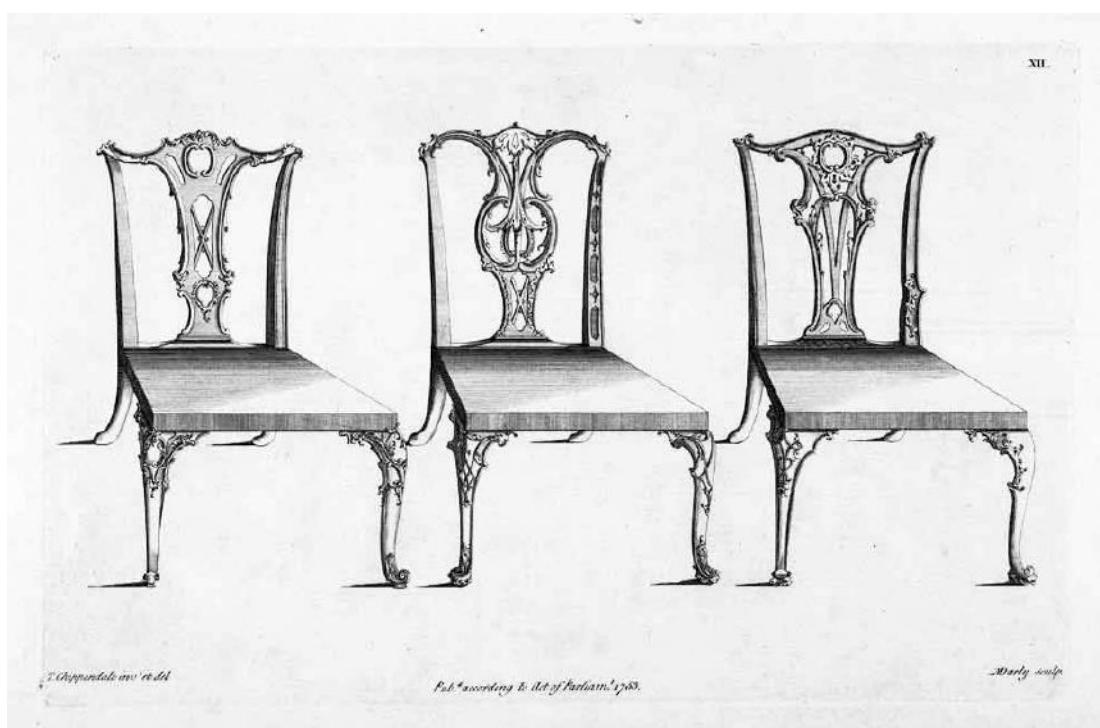
【図1-2】ルルス「小さき術」より組み合わせ図(ルルスの円盤)



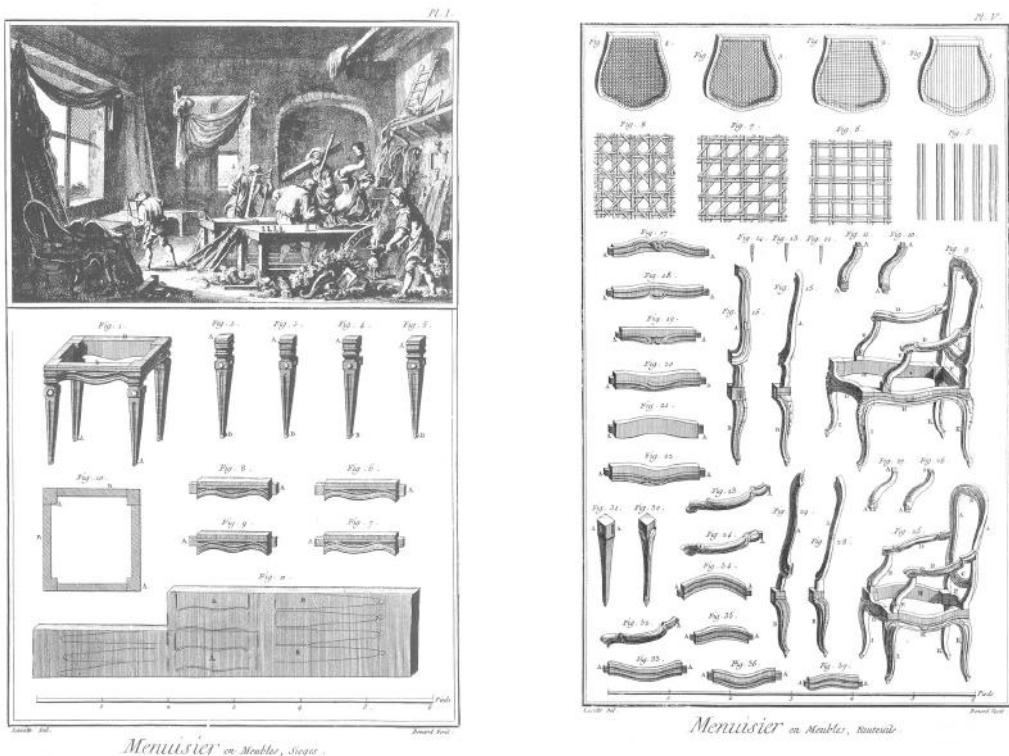
【図1-3】 ベルヴェデーレのトルソ、A.D.1世紀、バチカン、ピオ・クレメンテ美術館



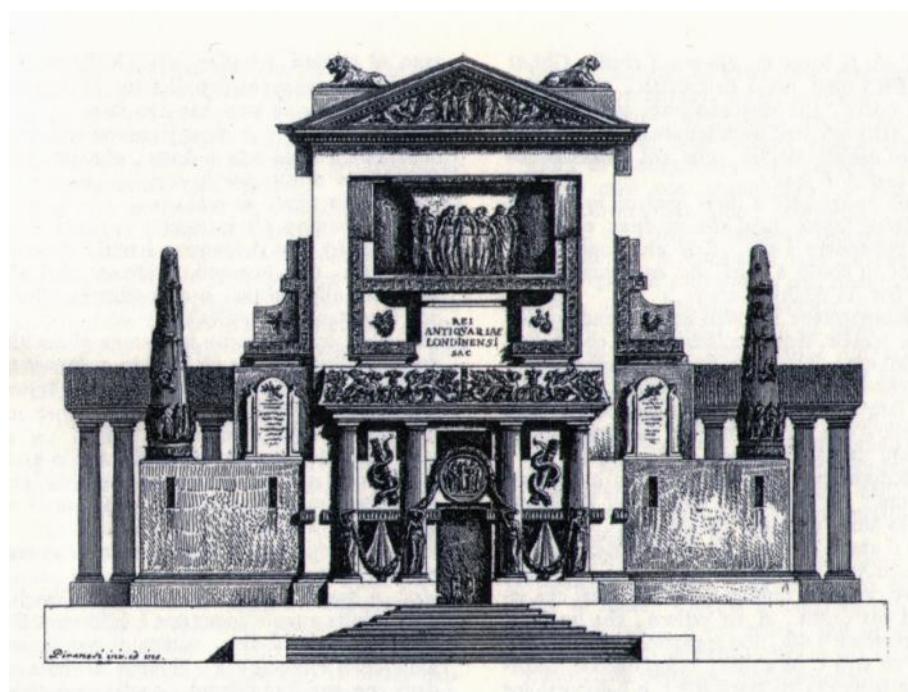
【図1-4】 トマス・チッペンデイル『紳士とキャビネット制作職人のための指針』1754年
「部分」の自律性と交換可能性への意識が顕在化する



【図1-5】ディドロ、ダランペール『百科全書』図絵、1769年
家具製作職人のアトリエと肘掛け椅子作成の各段階



【図1-6】G.B.ピラネージ『建築に関する所感』(1765年) 扉絵



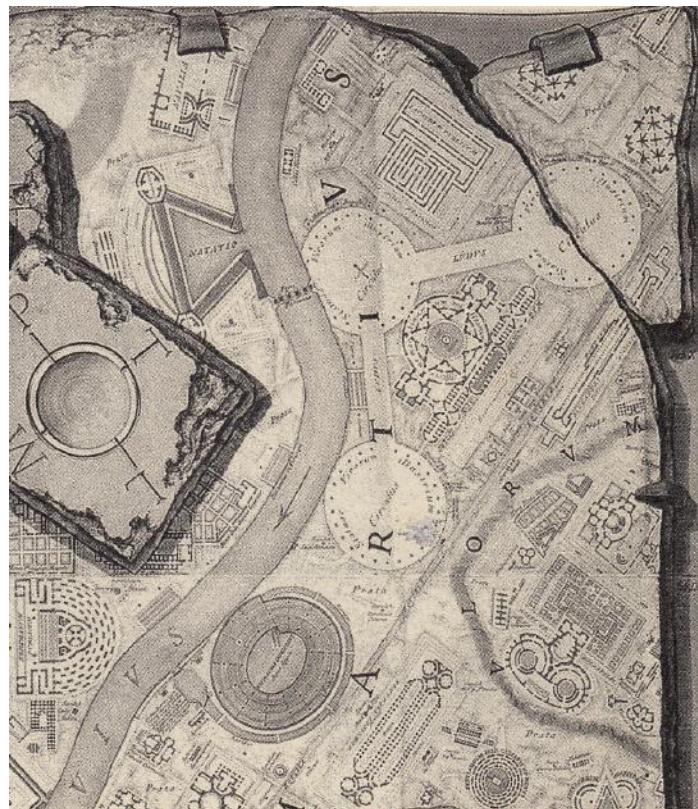
【図1-7】 G.B. ピラネージ設計、サンタ・マリア・デル・プリオラート聖堂祭壇



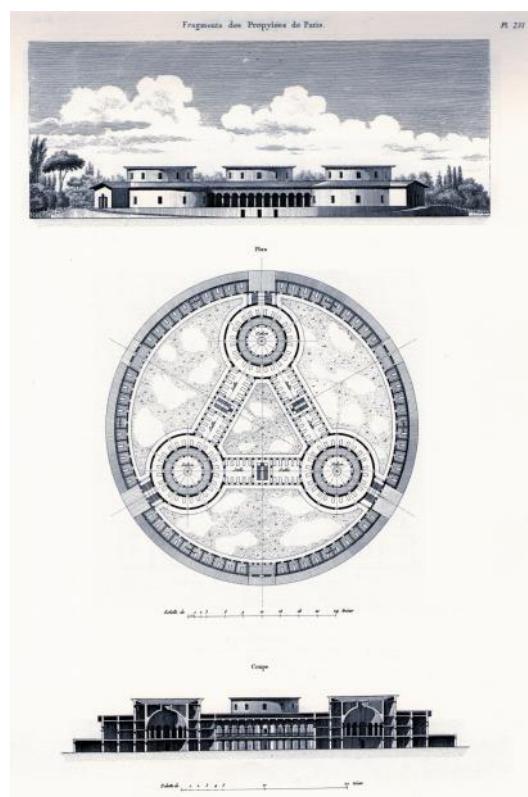
【図1-8】 G.B. ピラネージ《イクノグラフィア》
『古代ローマのカンプス・マルティウス』1762年所収



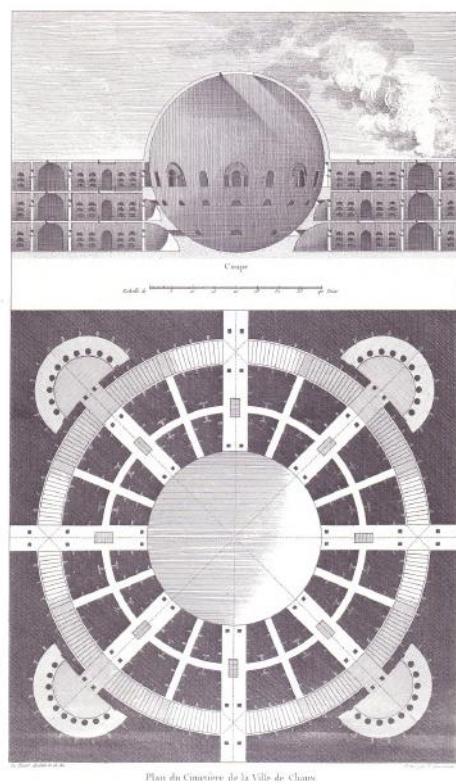
【図1-9】G.B.ピラネージ《イクノグラフィア》部分図
『古代ローマのカンプス・マルティウス』1762年所収



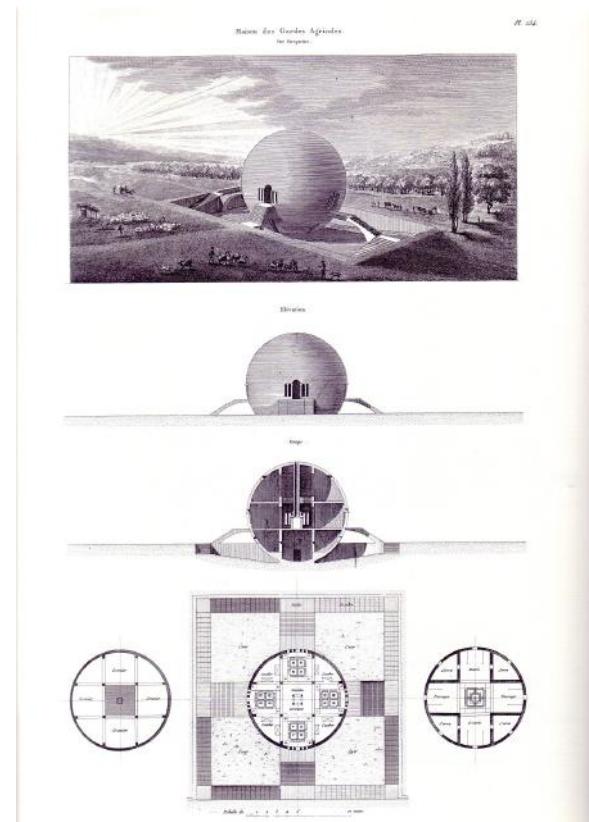
【図1-10】ルドゥ設計「パリの市門の抜粋」
ラメ版『ルドゥの建築論』1847年所収



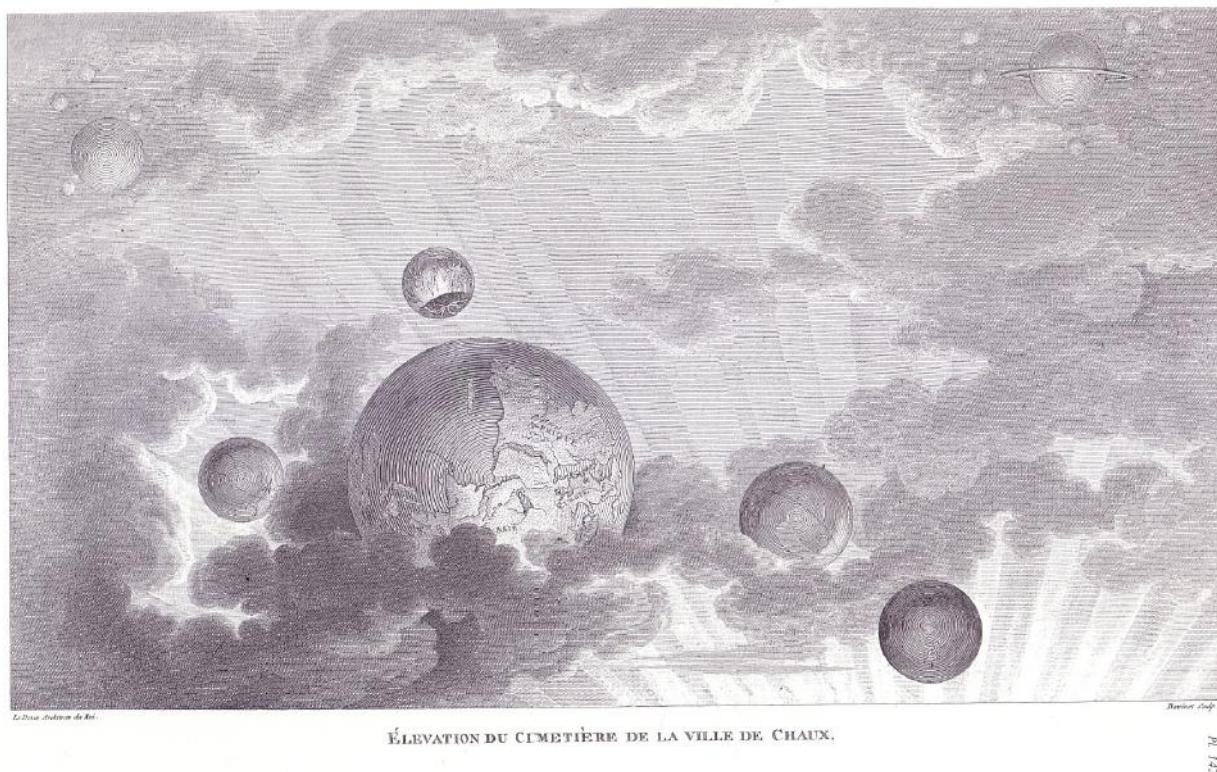
【図1-11】ルドウ(ラナゾネット彫版)「ショーの都市の墓地、断面図、平面図」
『建築論』1804年



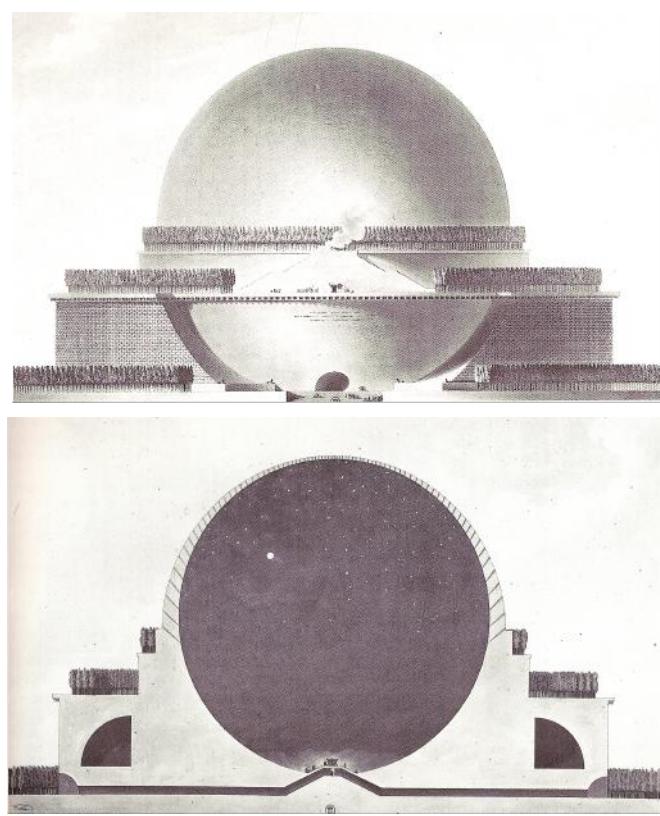
【図1-12】ルドウ(ヴァン・マエル彫版)「農地管理人の家」
ラメ版『ルドウの建築論』1847年所収



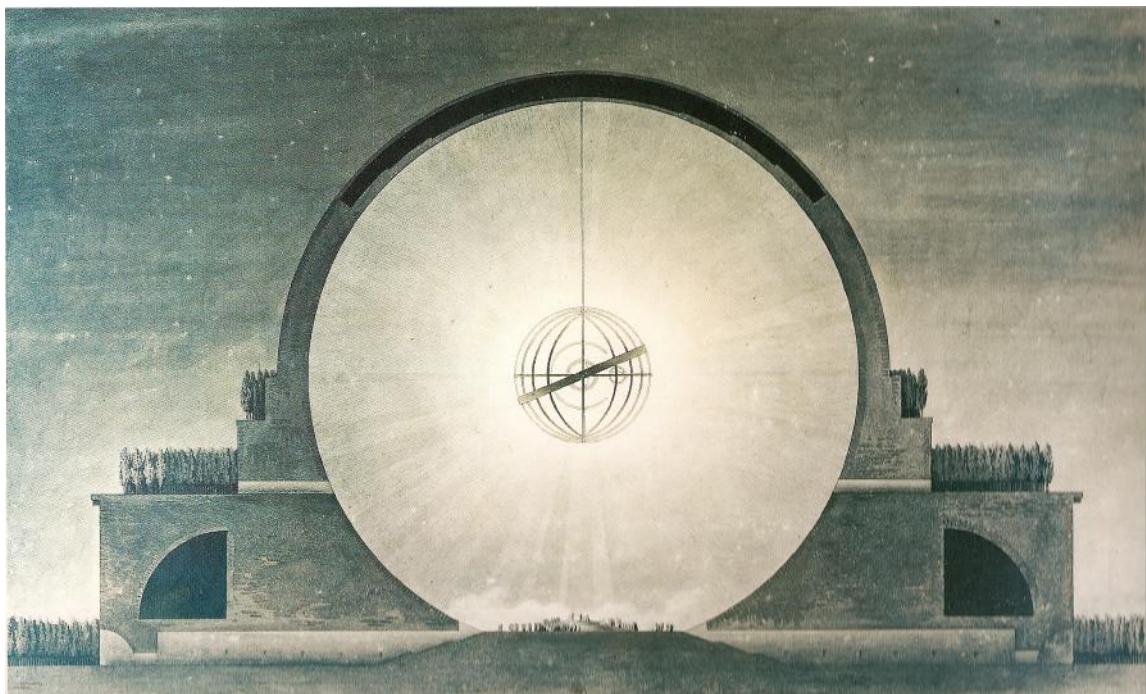
【図1-13】 ルドウ(ボヴィネ彫版)「ショーの都市の墓地、立面図」
『建築論』1804年



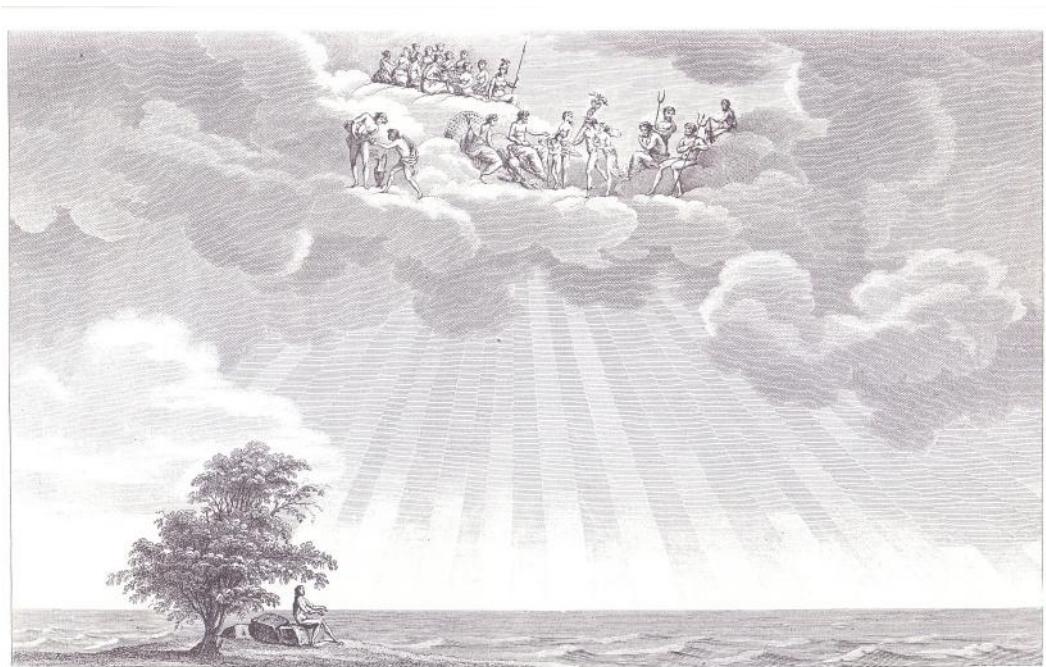
【図1-14】 ブレ「ニュートンのセノタフ」1784年
上:立面図／下:断面図(夜の場面)



【図1-15】 ブレ「ニュートンのセノタフ」1784年、昼の場面

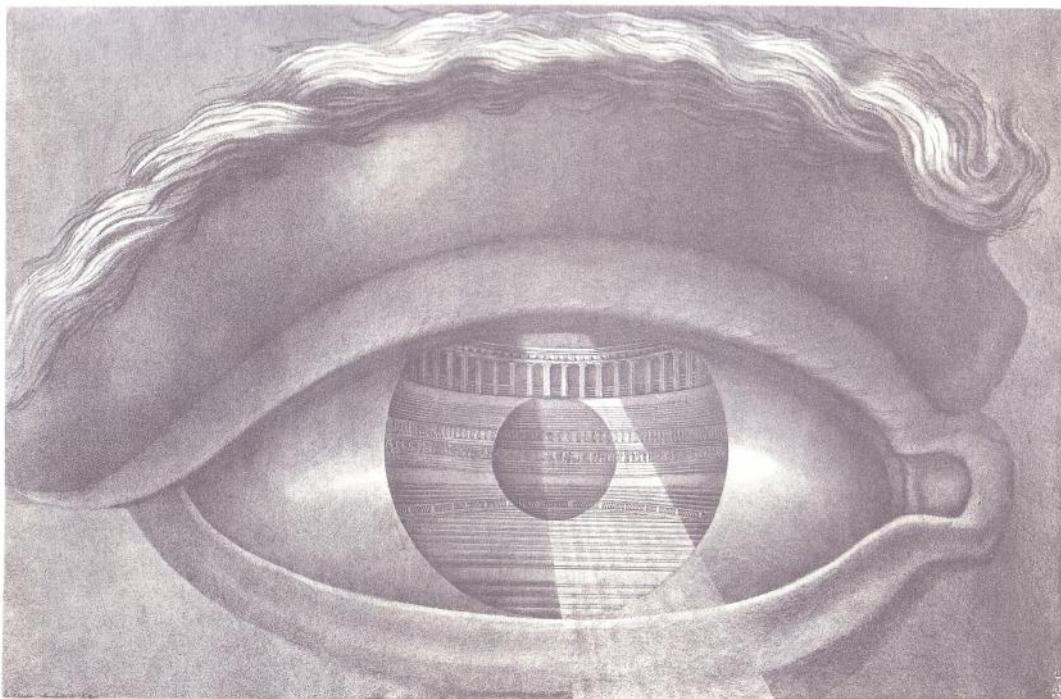


【図1-16】 ルドウ(彫版未詳)「貧者の家」『建築論』1804年所収



L'ABRI DU PAUVRE

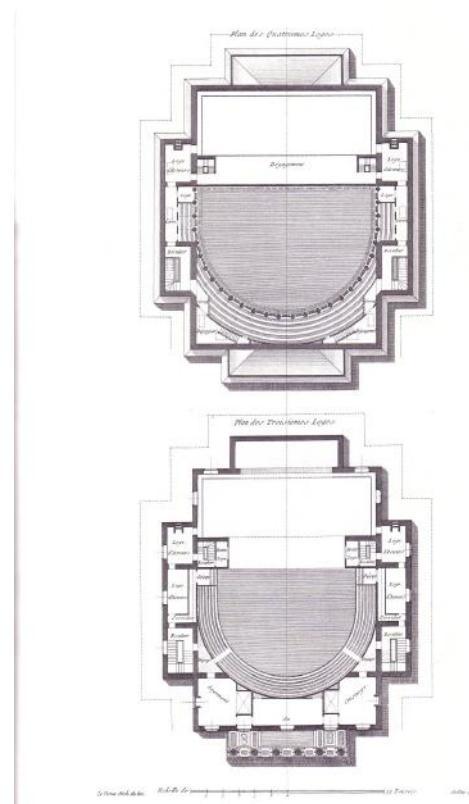
【図1-17】 ルドウ案(彫版未詳)「ブザンソンの劇場への一瞥」『建築論』1804年所収



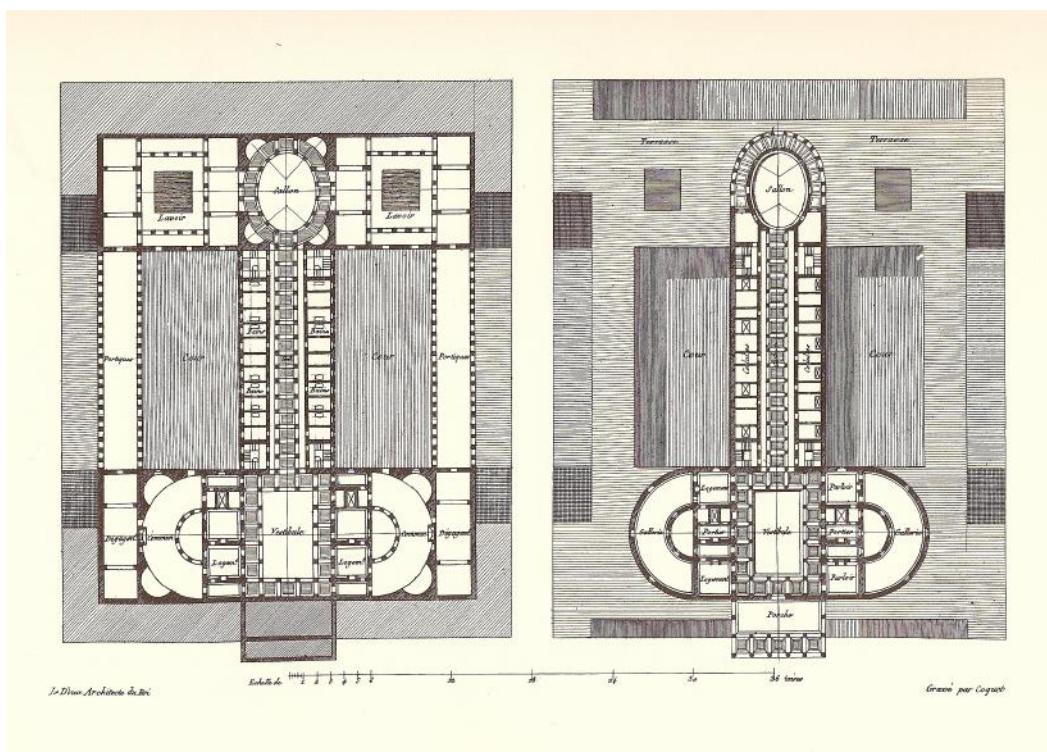
【図1-18】 ルドウ(デュピュイ彫版)「シヨーの製塩所一帯の地図」
『建築論』1804年所収



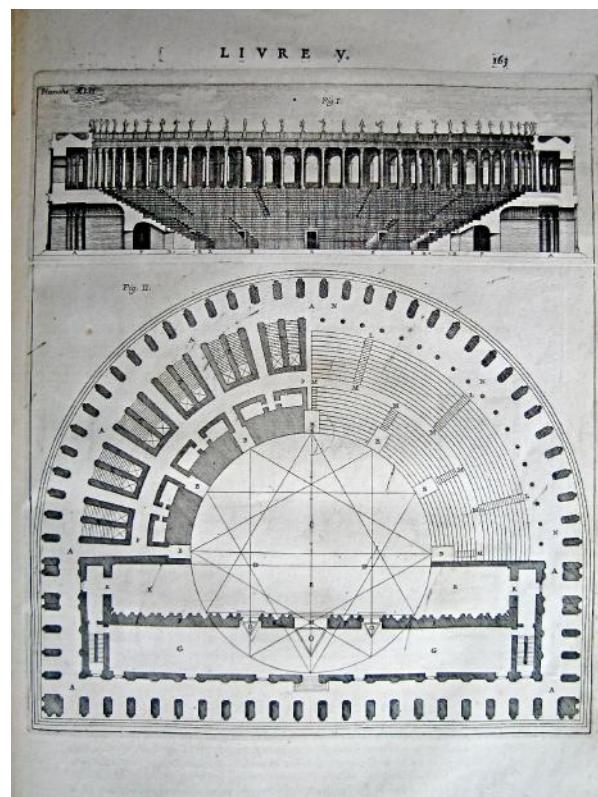
【図1-19】ルドウ(スリエ彫版)「ブザンソンの劇場、4階席と5階席の平面図」
『建築論』1804年所収



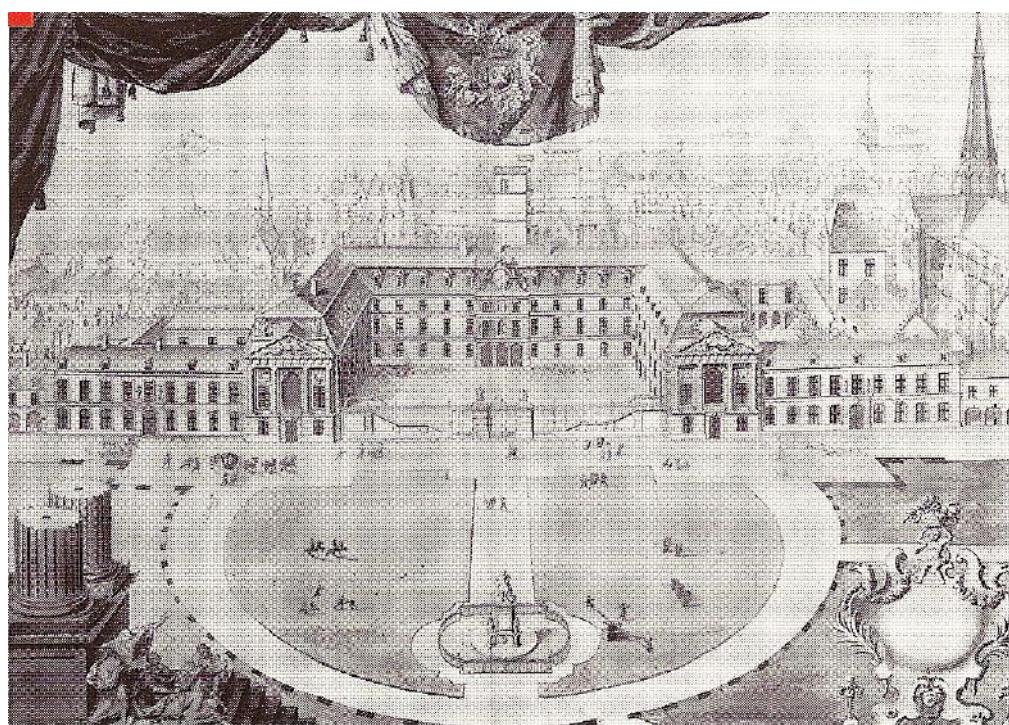
【図1-20】ルドゥ(コケ彫版)「オイケマ、ギリシアのモニュメントの断片」
『建築論』1804年所収



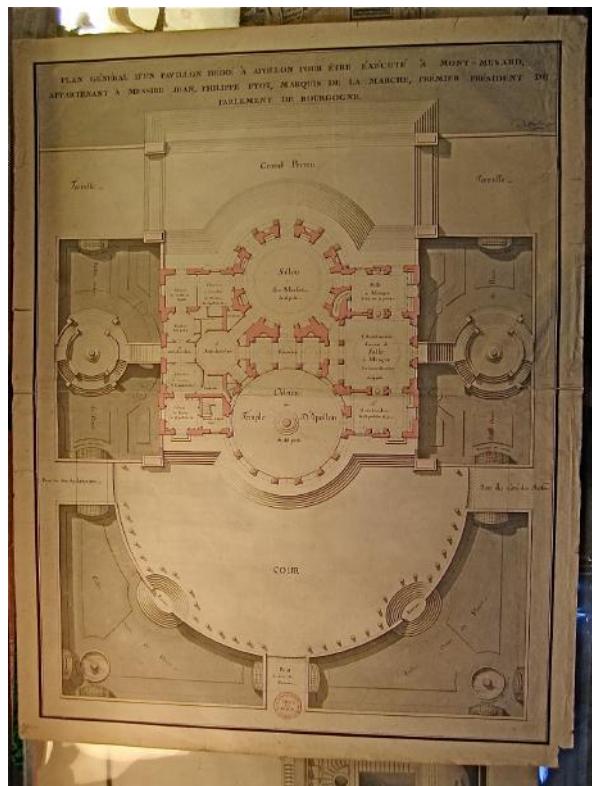
【図1-21】クロード・ペロー「古代ローマ劇場の復元図」
『ウィトルウィウスの建築十書』1673年所収



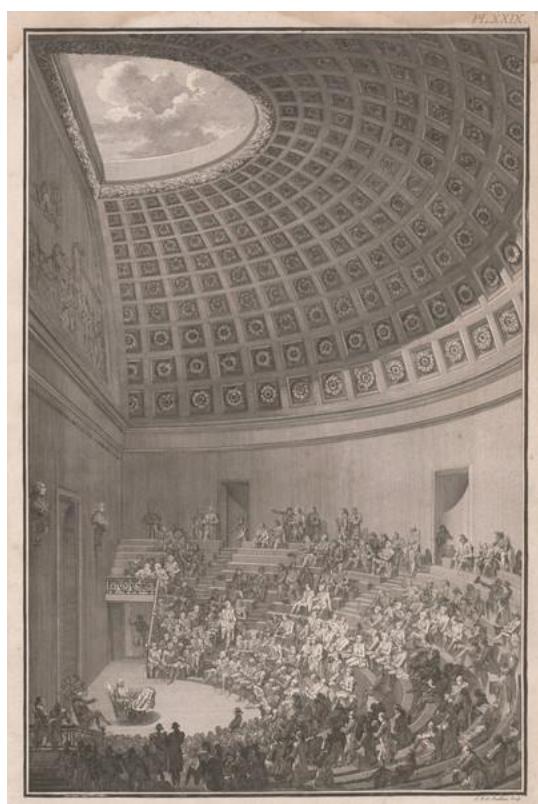
【図1-22】ジュール・アルドゥアン=マンサール「ディジョンの市庁舎のための計画案」1688年



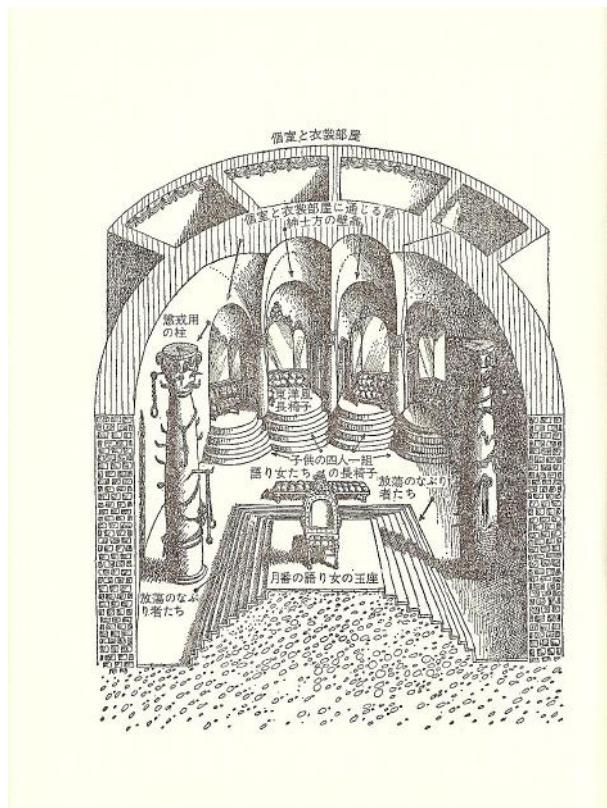
【図1-23】 シャルル・ド・ヴァイ「モンミュザール城のアポロン神殿のための平面配置図」
年代未詳



【図1-24】 ジャック・ゴンドゥアン(クロード=ルネ=ガブリエル・ブーロー彫版)
《外科医学校の描写》1780年



【図1-25】 ラモン・アレジャンドロ「ソドム百二十日』シリング城の集会の間の想像図】



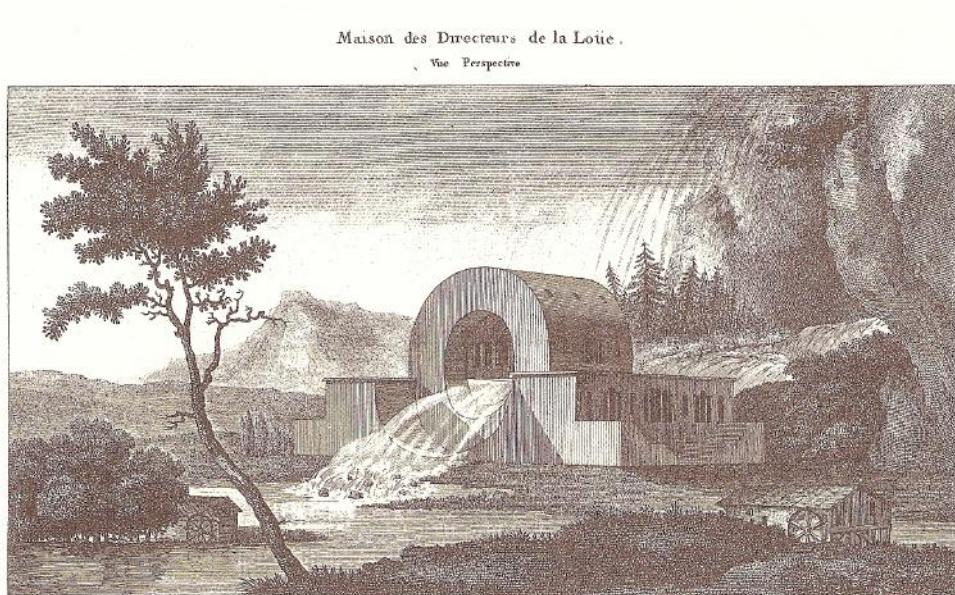
【図1-26】 ルドウ設計、アルケ=スナンの王立製塩所、塩水煮沸所の外壁の装飾



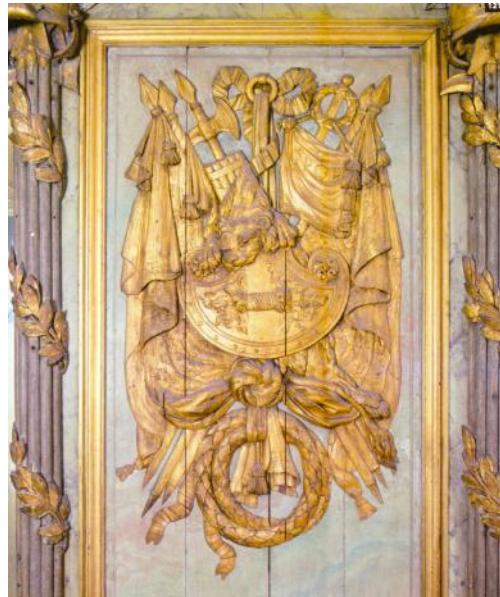
【図1-27】 ルドウ設計、アルケ=スナンの王立製塩所正門のグロット



【図1-28】 ルドウ(ヴァン・マエルとマイエ彫版)「ルー河の水源監視人の家」
『建築論』1804年所収



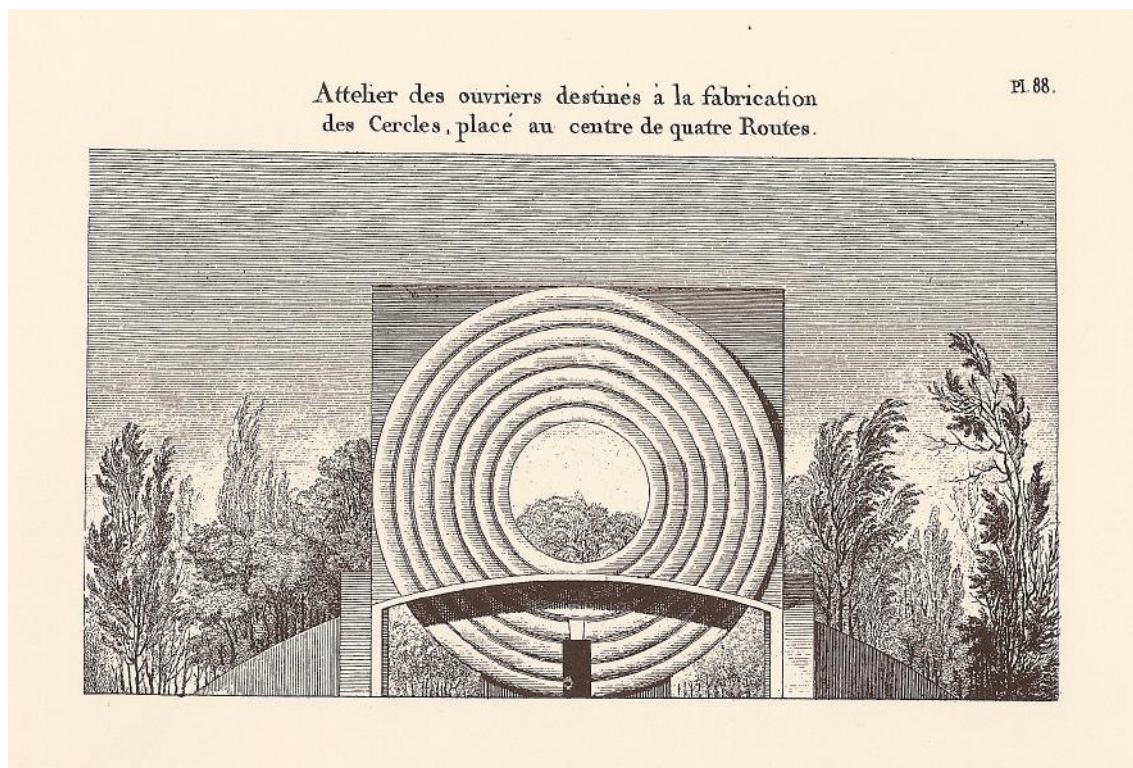
【図1-29】ルドウ設計、カフェ・ミリテールの壁面装飾、1762年、パリ、カルナヴァレ美術館
左:ヘラクレスの持物、ネメアのライオンの皮(力)とユピテルの雷(勇気と迅速さ)をあしらった盾
が中央に配されている
右:メドゥーサの頭部を飾るアテネの盾(神聖な力による庇護と不可侵)と、ヘラクレスの棍棒
(力)



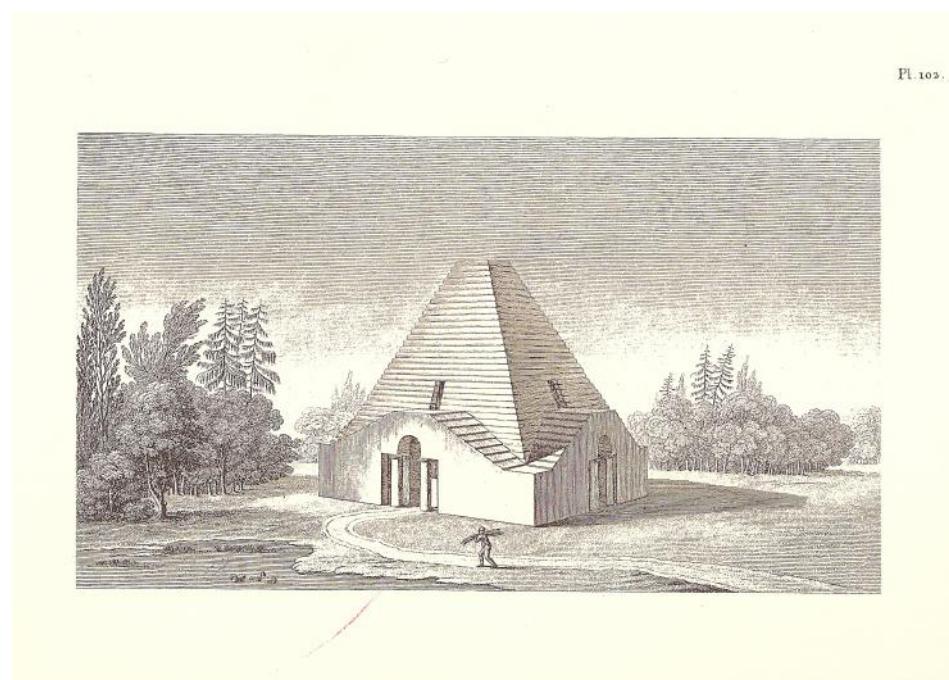
【図1-30】ルドウ設計、ジョセフ・メティヴィエとジャン=バティスト・ボワトンによるレリーフ、
ユゼスの邸館の応接間、1767年



【図1-31】ルドウ(彫版未詳)「樽のタガ職人の仕事場」『建築論』1804年



【図1-32】ルドウ(彫版未詳)「樵夫の家」『建築論』1804年

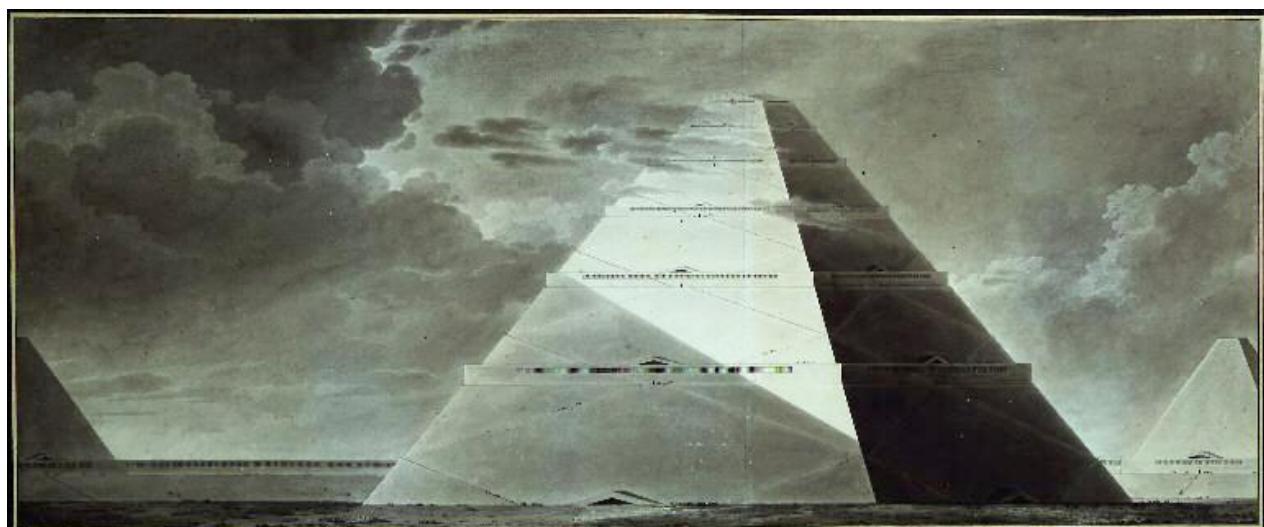


【図1-33】 ジャン=ジャック・ルクー「家畜小屋」1777-1814年



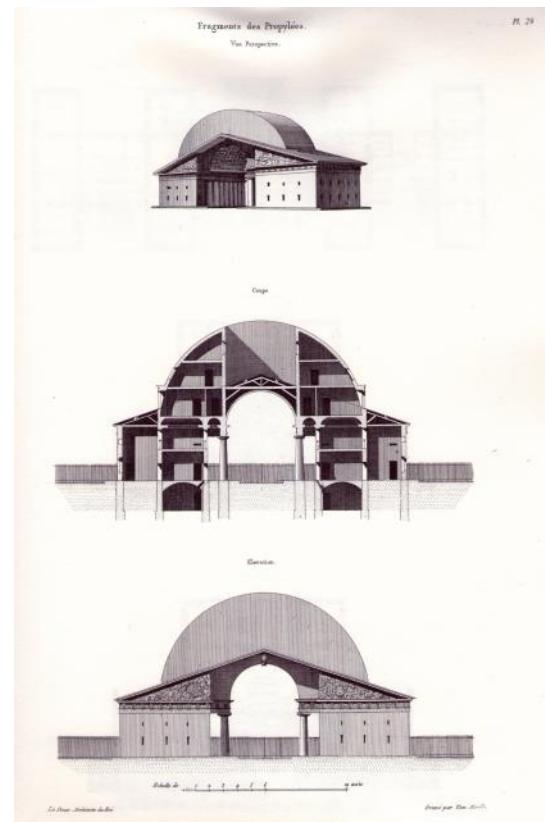
Source gallica.bnf.fr / Bibliothèque nationale de France

【図1-34】 ブレ「エジプト風のセノタフ」1781-1793年



Source gallica.bnf.fr / Bibliothèque nationale de France

【図1-35】 ルドゥ(ヴァン・マエル彫版)「パリの徵税市門」ラメ版『ルドゥの建築論』1847年所収
古代ギリシア神殿風のペディメントを貫いて、中央にパラディアン・モティーフが配される



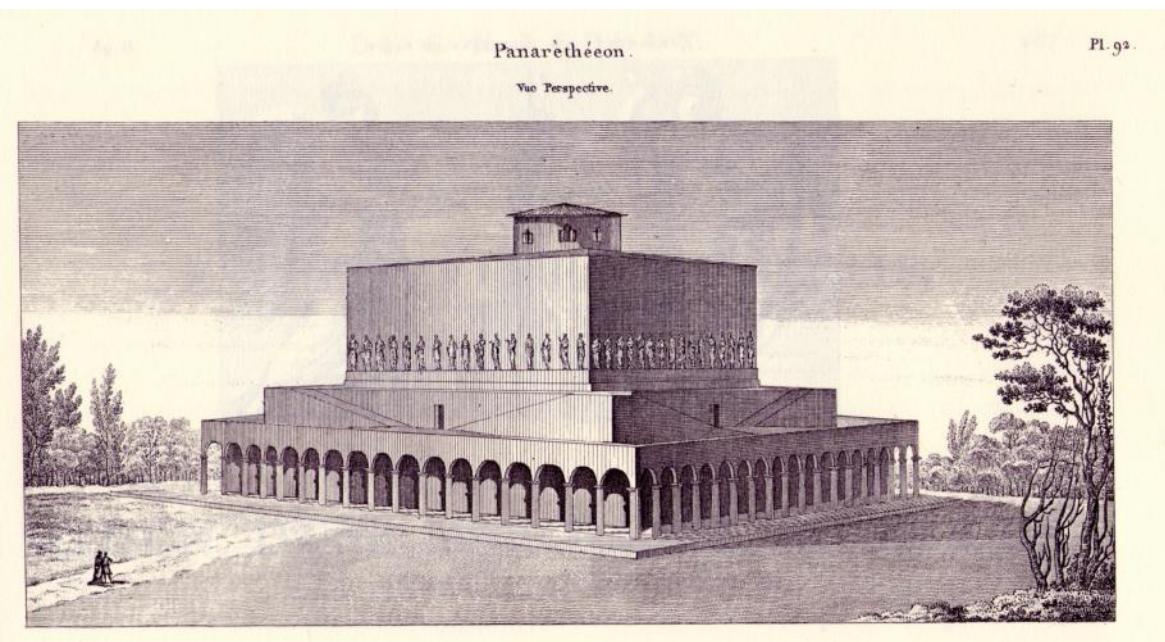
【図1-36】 ルドゥ(彫版未詳)「パリの徵税市門」 ラメ版『ルドゥの建築論』1847年所収
古代ギリシア風の柱頭とペディメント(三角破風)



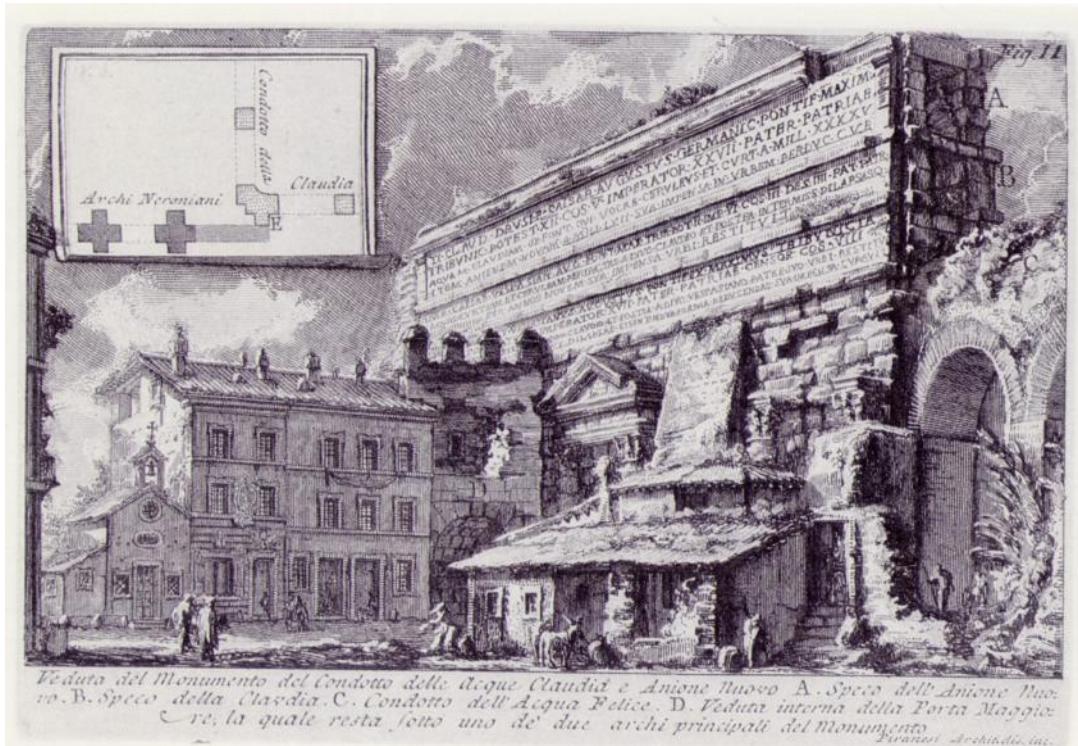
【図1-37】 ルドウ設計、ダンフェール・ロシュローの市門



【図1-38】 ルドウ(ヴァン・マエル彫版)「パナレテオン(諸美德の神殿)」『建築論』1804年所収
美德の擬人化たる彫像が建築物を装飾する



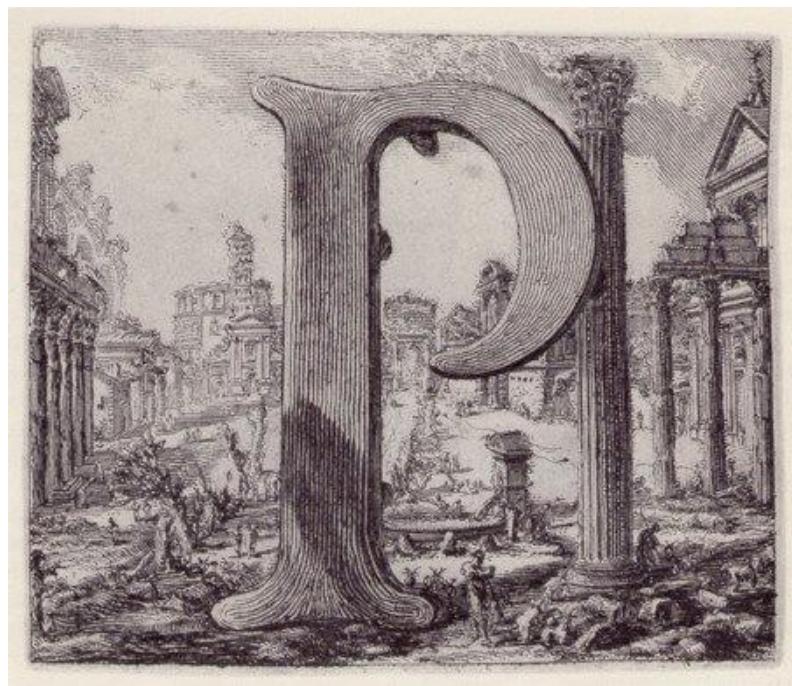
【図1-39】G.B.ピラネージ「アカラ・クラウディアとアニオ・ヌオーヴォの水道管遺跡」
『ローマの古代遺跡』第1巻、1753年所収
過剰なまでの「文字」の精確さ



【図1-40】 G.B. ピラネージ《カンポ・ヴァッチーノの眺め》1772年



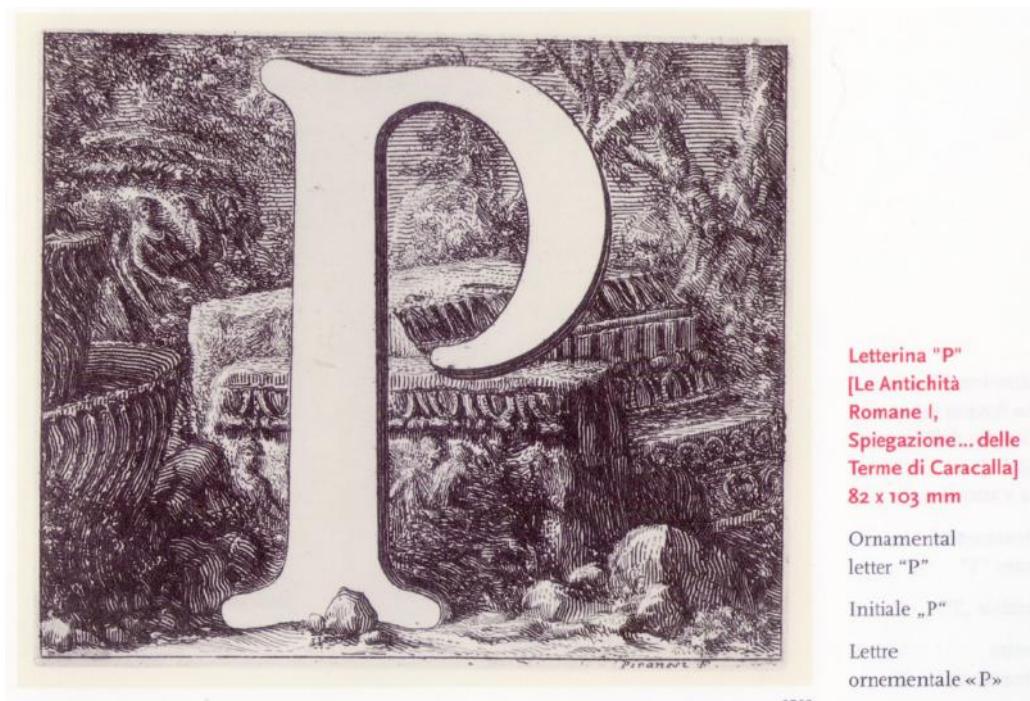
【図1-41】 G.B. ピラネージ、装飾文字P



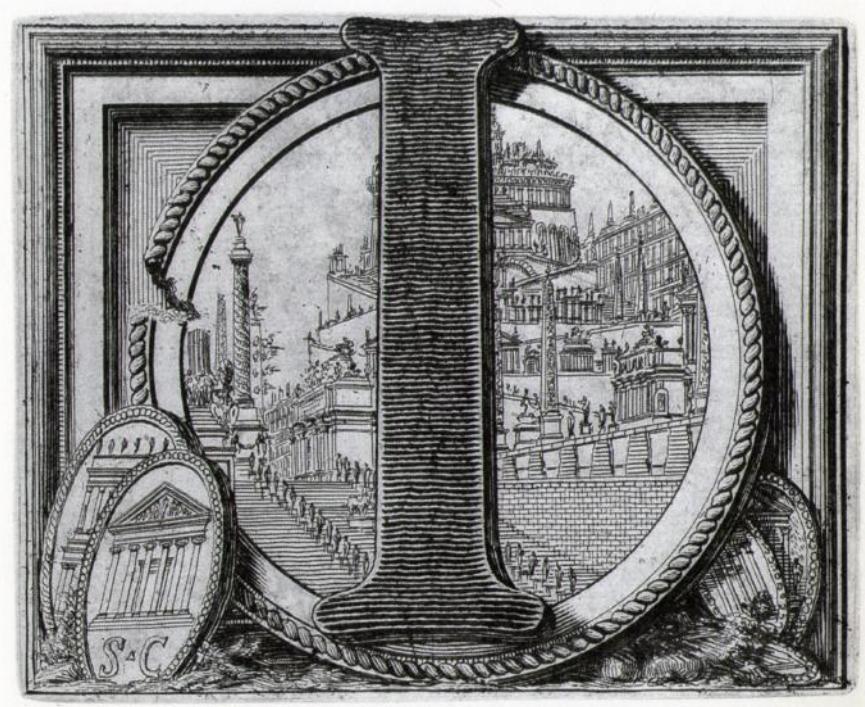
【図1-42】 アタナシウス・キルヒヤー『シナ図絵』1667年より



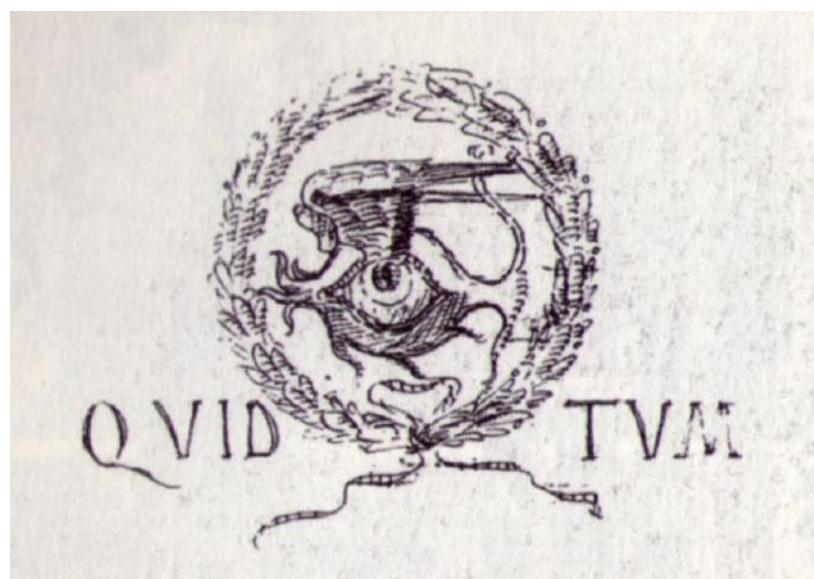
【図1-43】 G.B. ピラネージ、装飾文字P



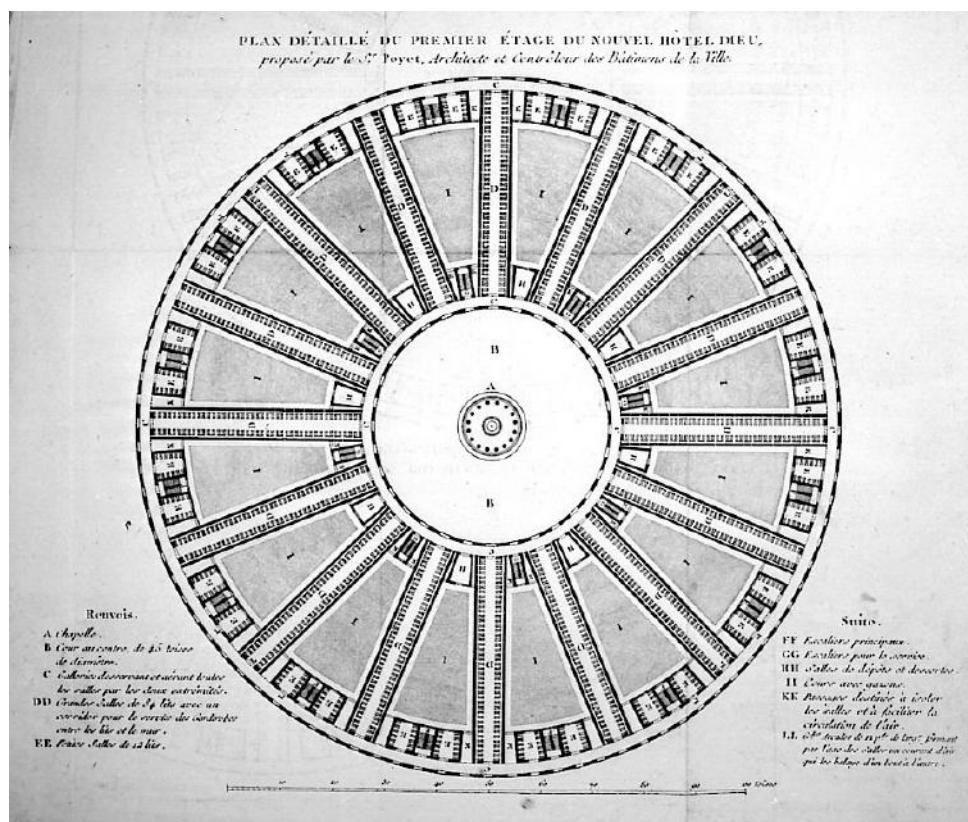
【図1-44】 ピラネージ、装飾文字I



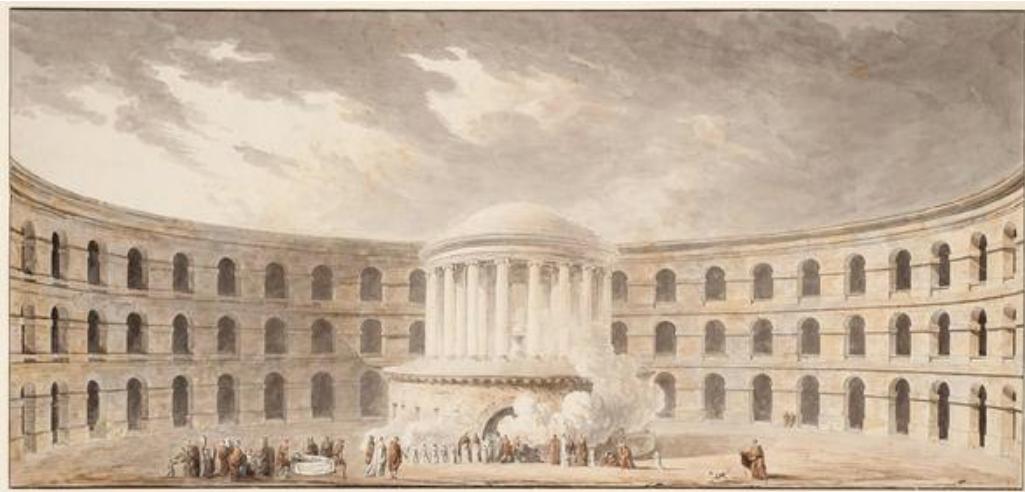
【図1-45】アルベルティによるエンブレム「翼のある眼」



【図1-46】ベルナール・ポワイエ「オテル・デュー」計画案、1785年



【図1-47】ポワイエ「オтель・デューの計画案、中庭の透視図」1785年
中央には礼拝堂が配される



【図1-48】マルキ・ド・サド「諸芸術の家」1782年頃(ムラデン・コズル作成のダイアグラム)

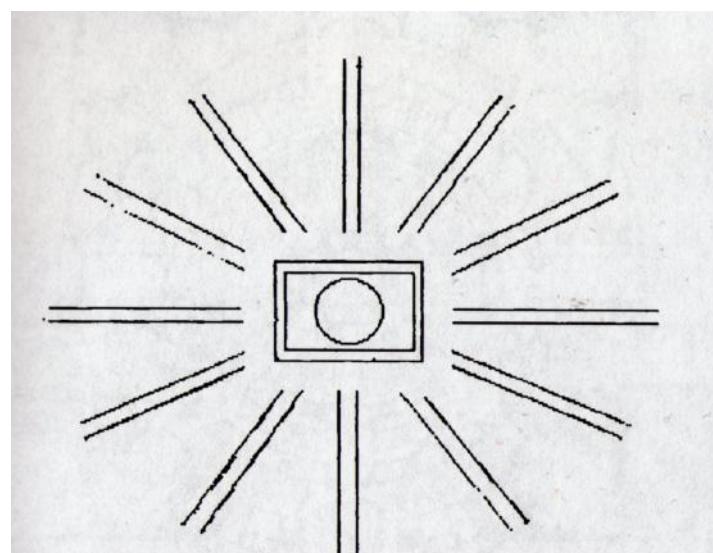
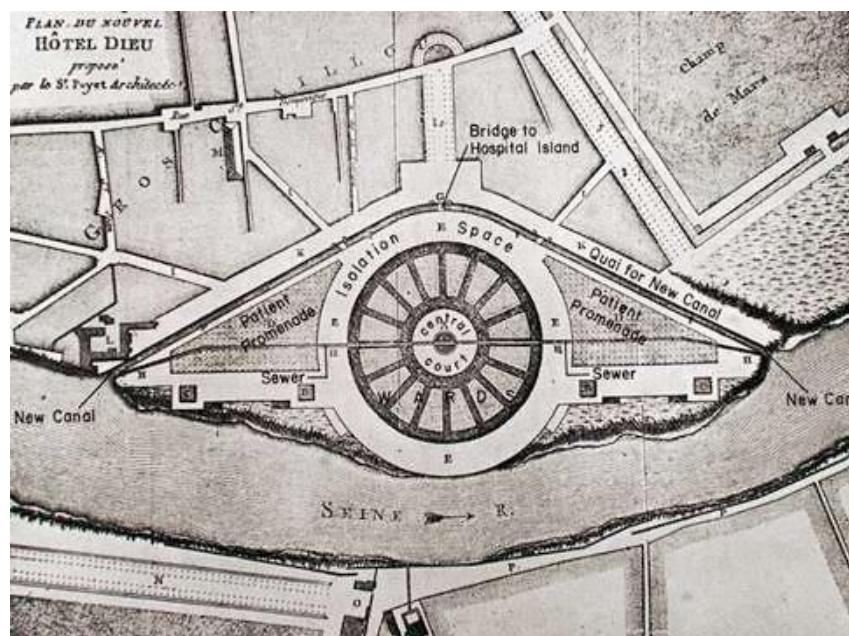
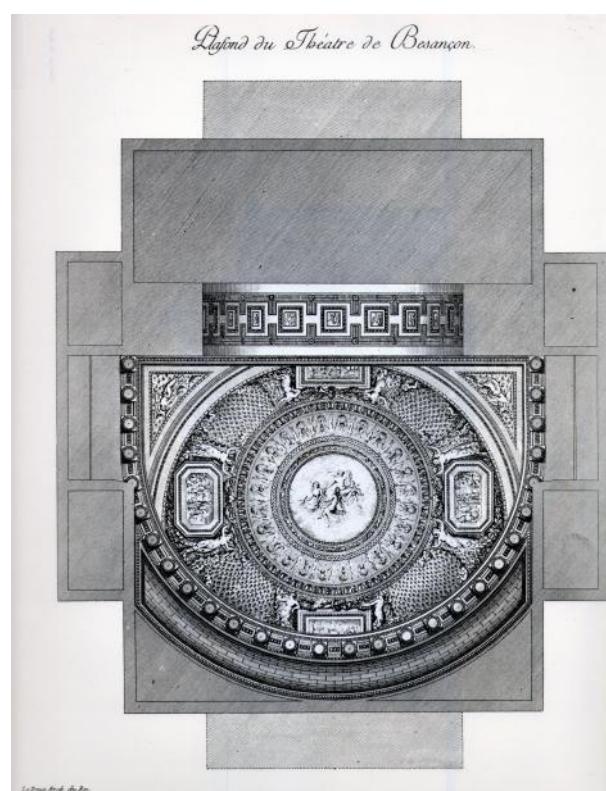


Figure 1. Diagramme du plan de *La Maison des arts*.

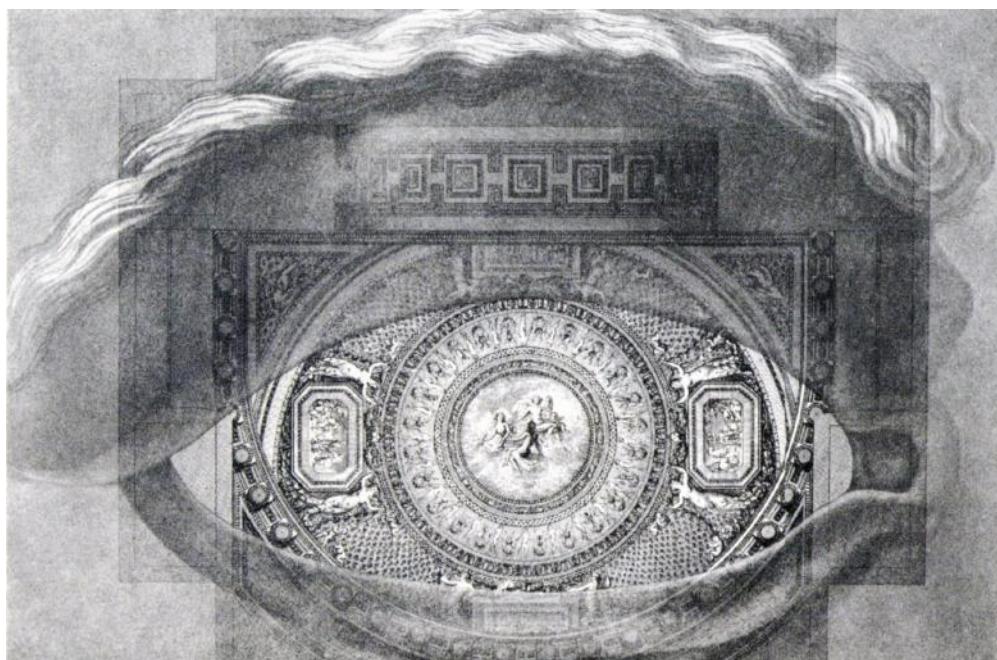
【図1-49】 ポワイエ、オテル・デューの平面図



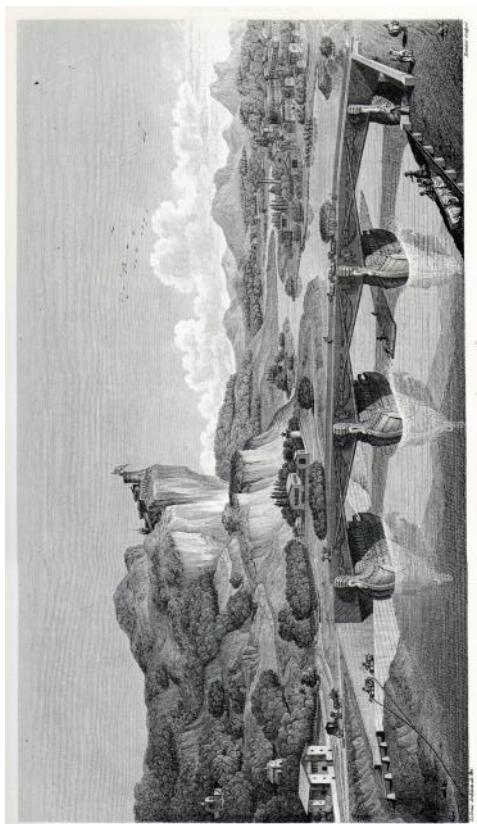
【図1-50】 ルドウ(彫版未詳)「ブザンソンの劇場の天井画」『建築論』1804年



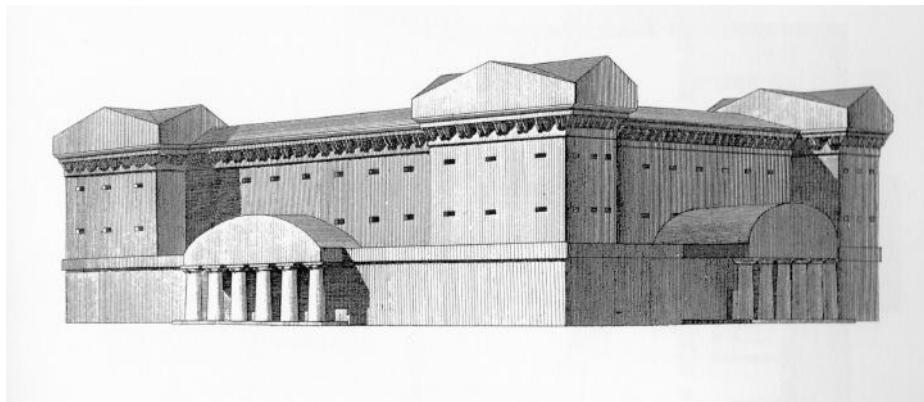
【図1-51】 エル=コーリー作成、「ブザンソンの劇場への一瞥」と「ブザンソンの劇場の天井画」の合成画像



【図1-52】 ルドウ(ボヴィネ彫版)「ルー河に掛かる橋の透視図」『建築論』1804年
(書籍に挿入された通りの向き)



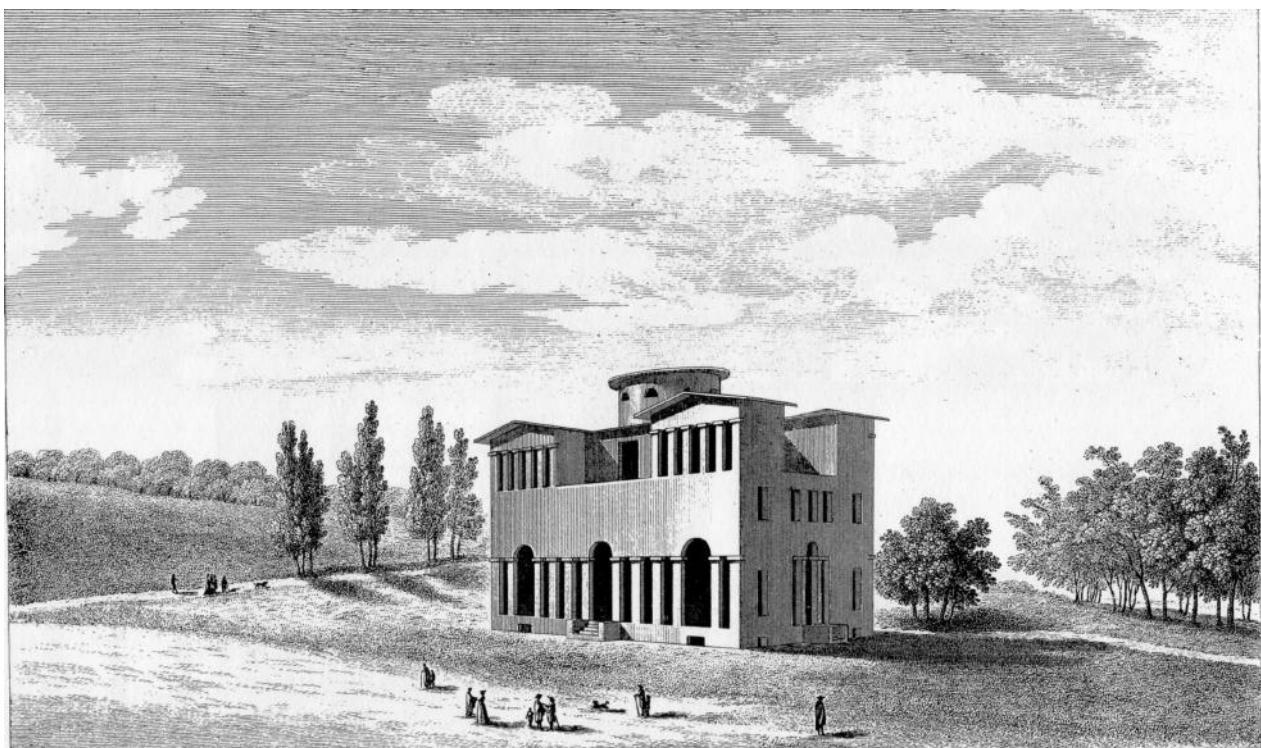
【図2-1】 ルドウ(彫版未詳)「エクスの監獄」ラメ版『ルドウの建築論』1847年



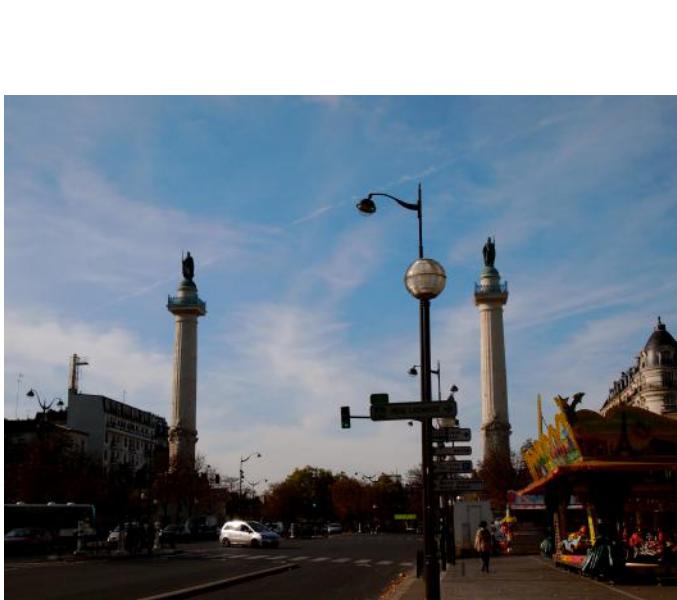
【図2-2】 アドルフ・ロース「ミヒヤエル広場の建築(通称ロース・ハウス)」1911年



【図2-3】 ルドウ(コケ彫版)「田舎の家」『建築論』1804年



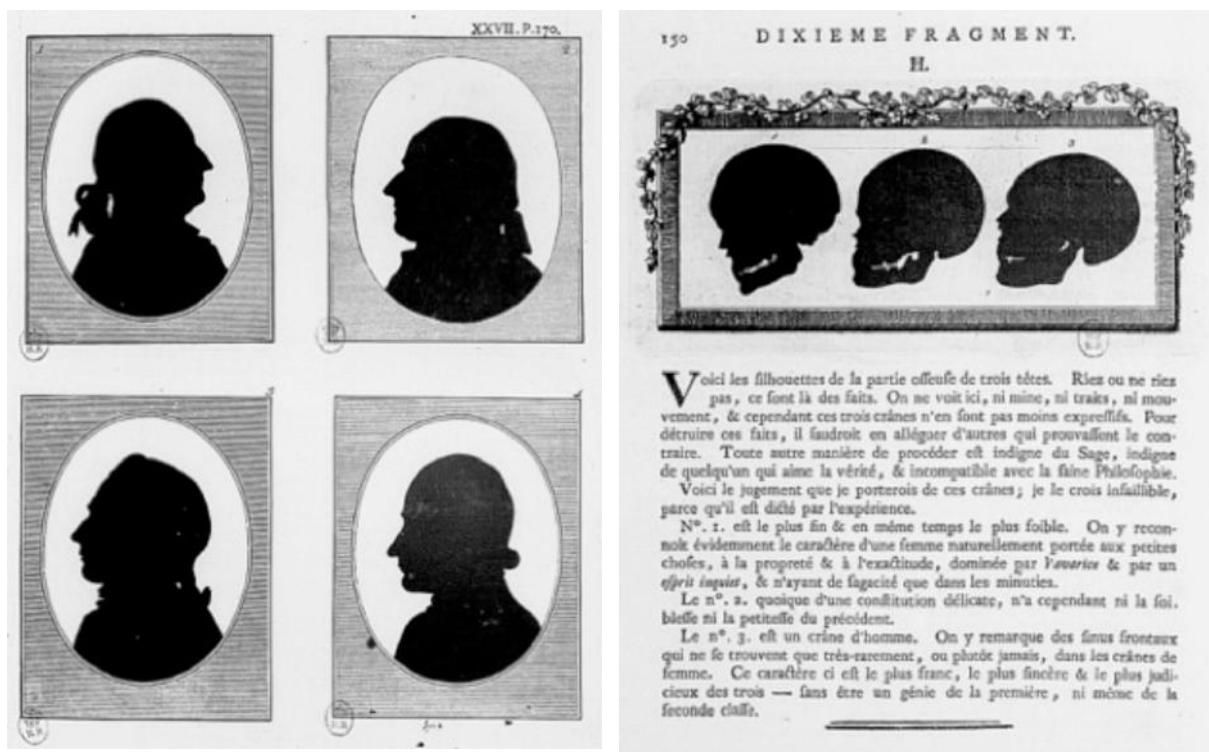
【図2-4】 ルドウ設計、ナシオンの徵税市門



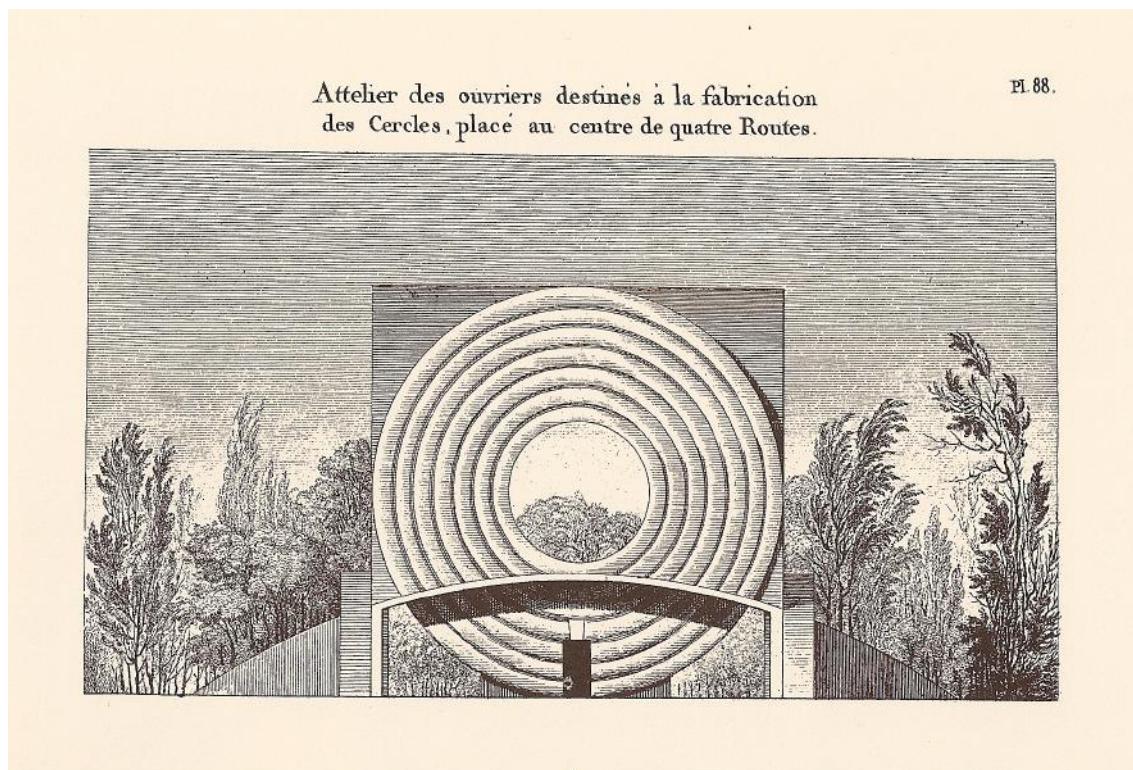
【図2-5】 シャルル・ル・ブラン(B.ピカール彫版)「激しい恐怖」
『一般と個別の表情に関する講義』1698年



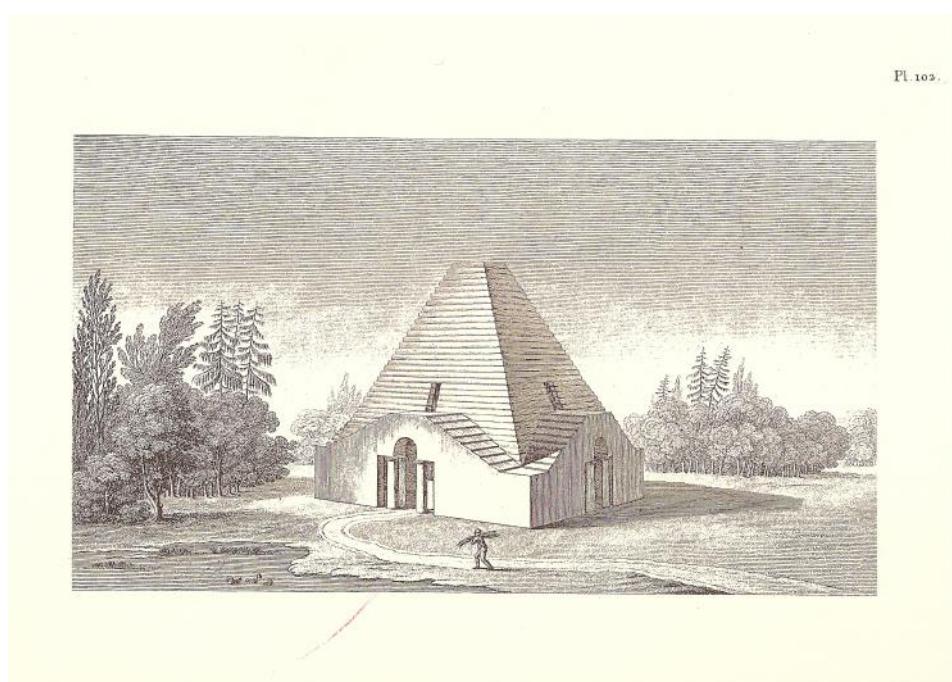
【図2-6】 ヨハン・カスパル・ラファターによる横顔のシルエット『観相学断章』1781-1803年



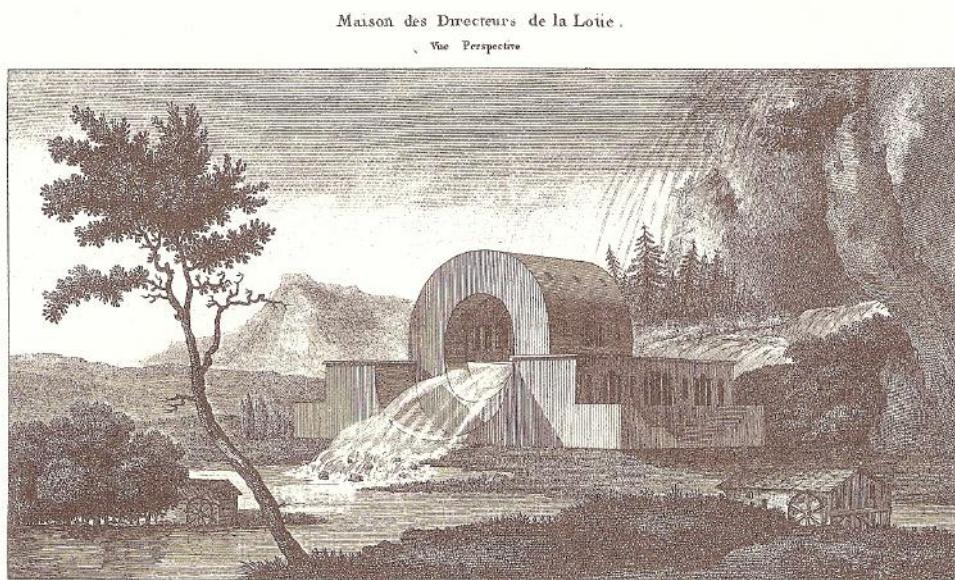
【図2-7】ルドウ(彫版未詳)「樽のタガ職人の仕事場」『建築論』1804年



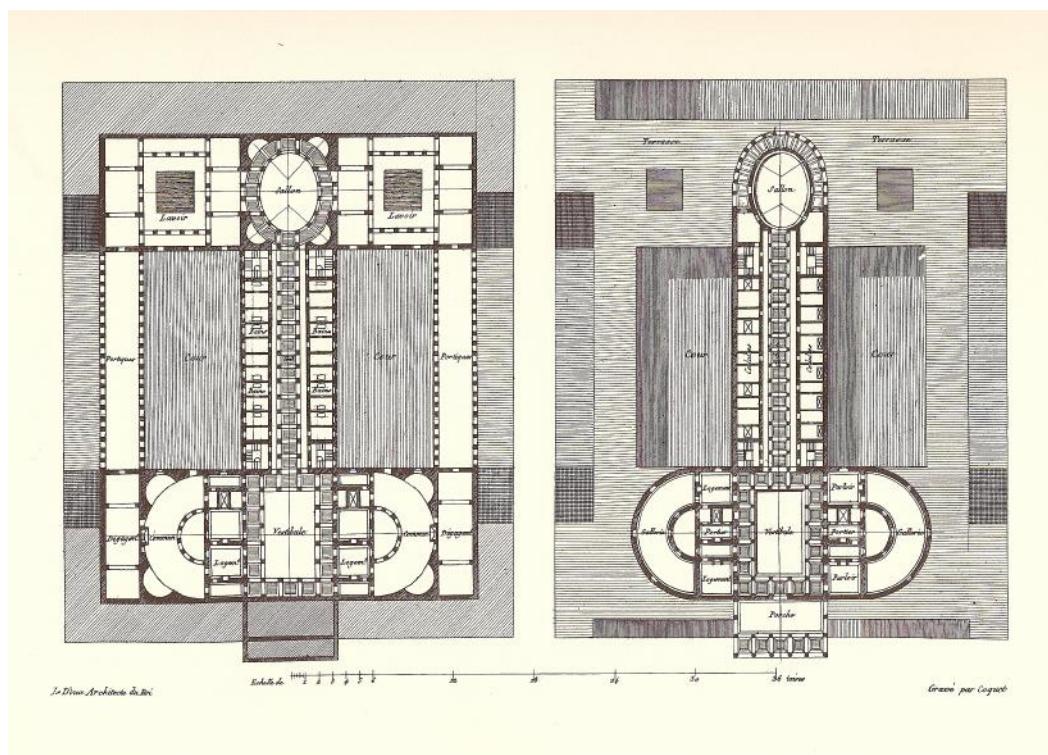
【図2-8】 ルドウ(彫版未詳)「樵夫の家」『建築論』1804年



【図2-9】 ルドウ(ヴァン・マエルとマイエ彫版)「ルー河の水源監視人の家」
『建築論』1804年所収



【図2-10】 ルドウ(コケ彫版)「オイケマ、ギリシアのモニュメントの断片」
『建築論』1804年所収

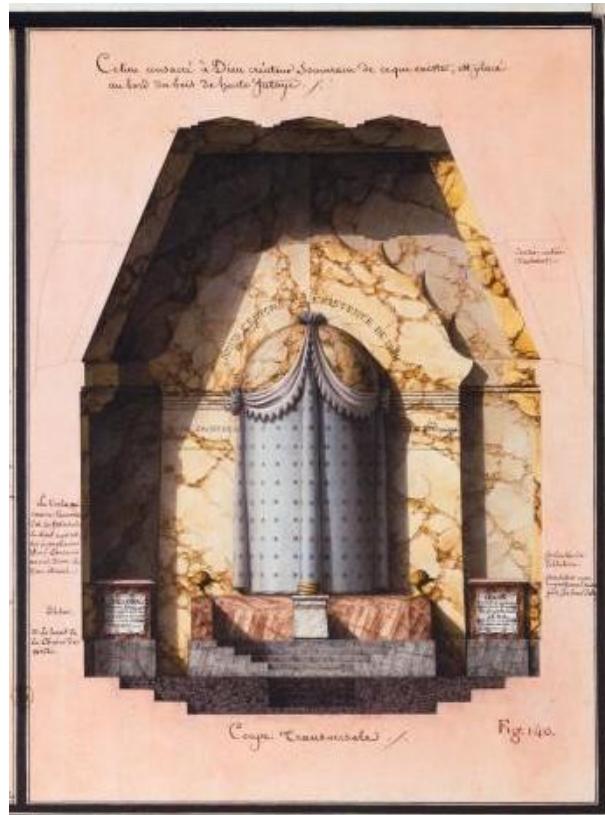


【図2-11】 ジャン=ジャック・ルクー「家畜小屋」1777-1814年



Source gallica.bnf.fr / Bibliothèque nationale de France

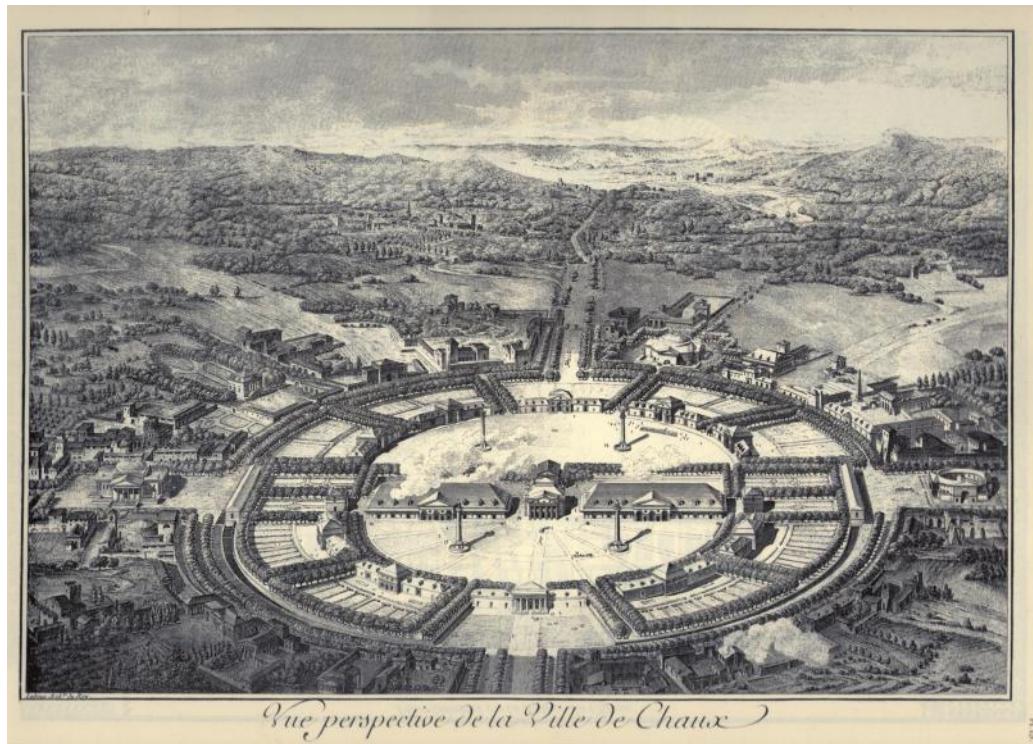
【図2-12】 ルクー「神に捧げられた場所」1777-1814年
上部のマニュスクリプトには「造物主(Dieu créateur)に捧げられたこの場所……」とある



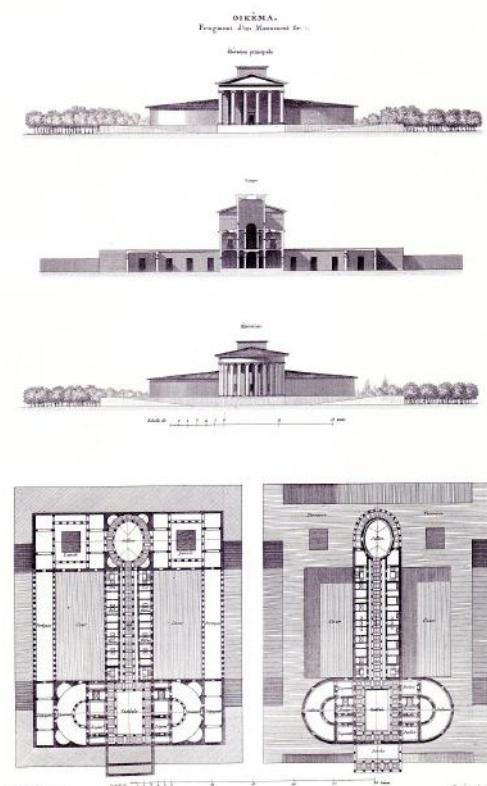
【図2-13】 パリ自然史博物館に収められた自然史上の「モンストル」の模型と標本



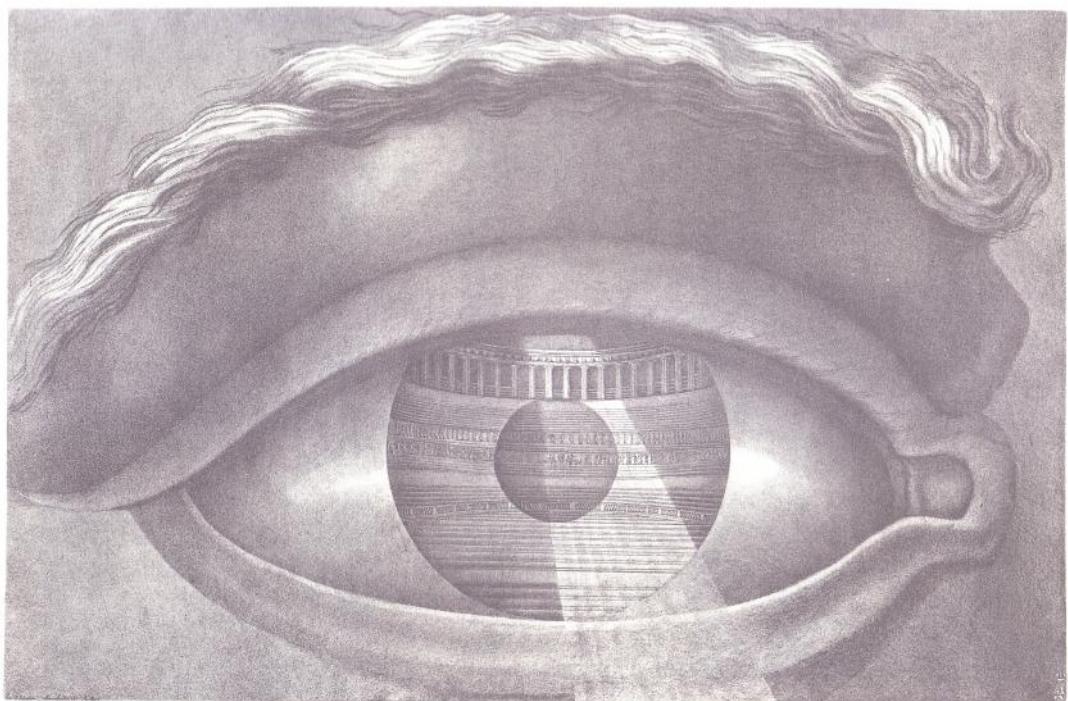
【図3-1】 ルドウ(ベルトー彫版)「ショーの街の透視図」『建築論』1804年



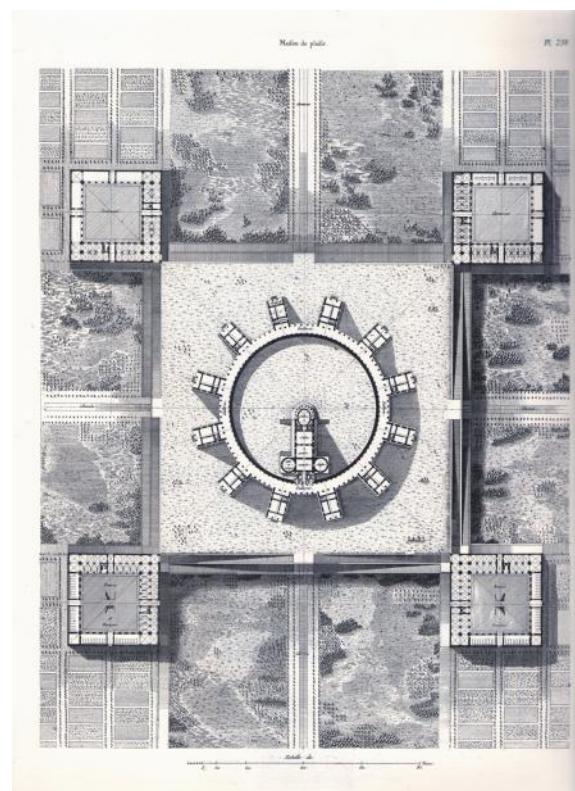
【図3-2】 ルドウ(コケ彫版)「オイケマ、ギリシアのモニュメントの断片」
『建築論』1804年所収



【図3-3】 ルドウ案(彫版未詳)「ブザンソンの劇場への一瞥」『建築論』1804年所収



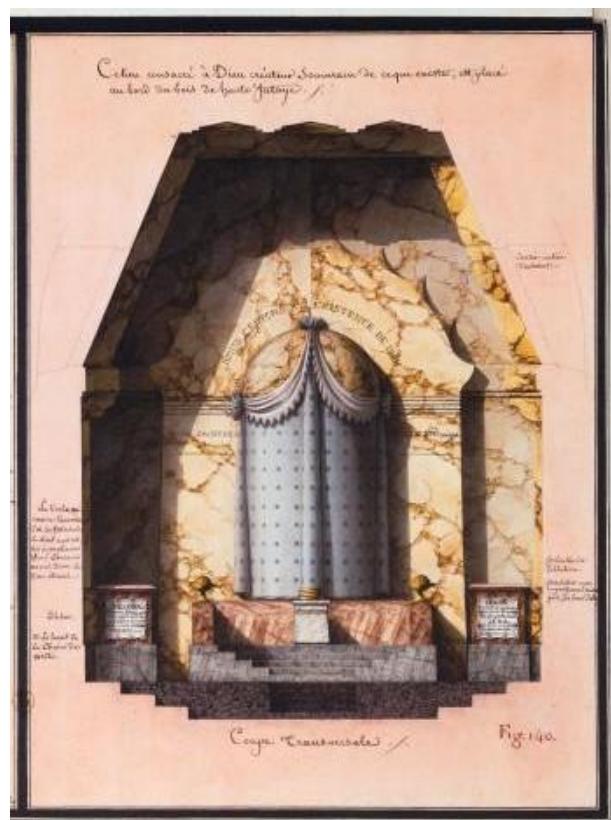
【図3-4】 ルドウ(彫版未詳)「快楽の家」、ラメ版『ルドウの建築論』1847年



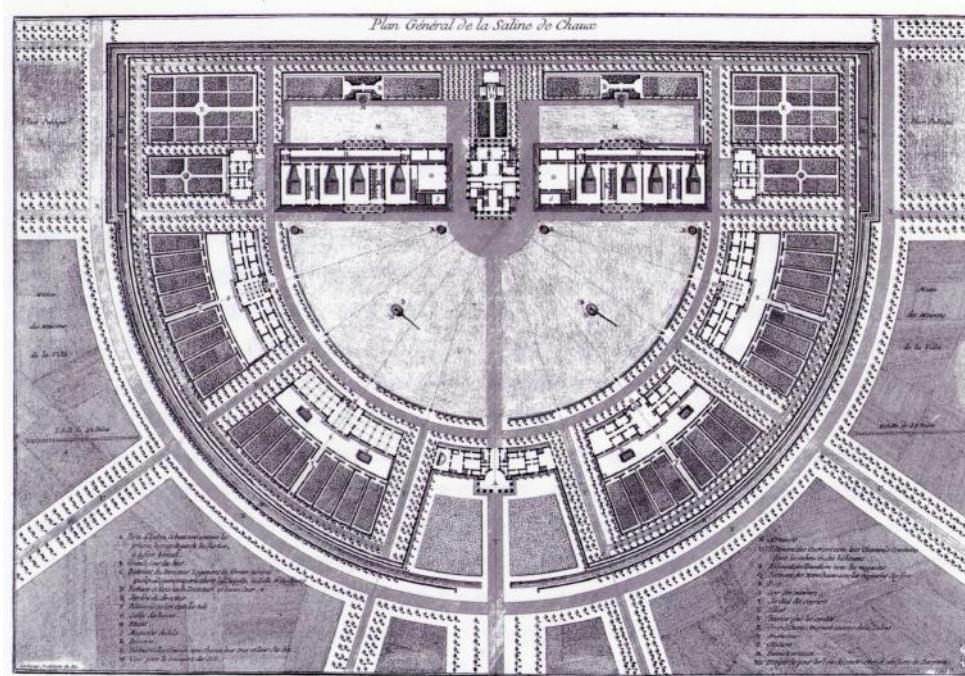
【図3-5】ニコラ・プッサン《プリアポスへの奉獻に際して女装するヒュメナイオス》
1634-38年、サン・パウロ美術館



【図3-6】ルクー「神に捧げられた場所」1777-1814年



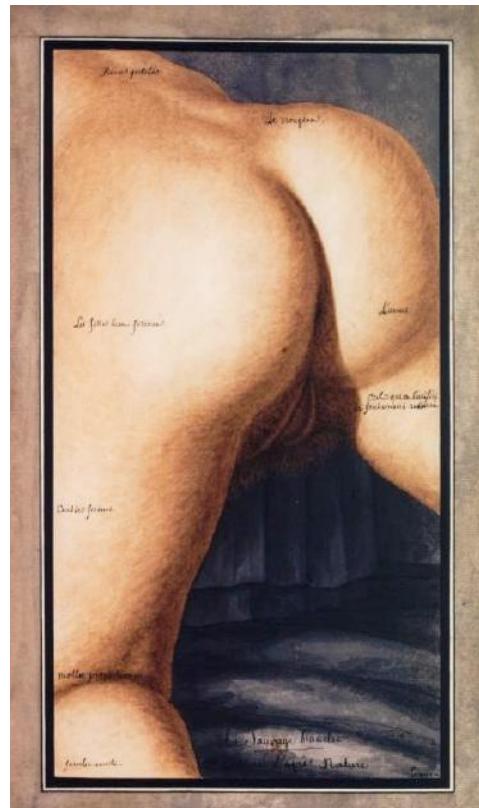
【図3-7】 ルドウ(スリエ彫版)「王立製塩所の実現された平面図」
半円の中心部に「監督官の館」が座す



【図3-8】 ジュゼッペ・フェリーニと(もしくは)クレメンテ・スジーニ、異常分娩の解剖学模型
1771年以後、蝋製、フィレンツェ、ガリレオ科学史博物館

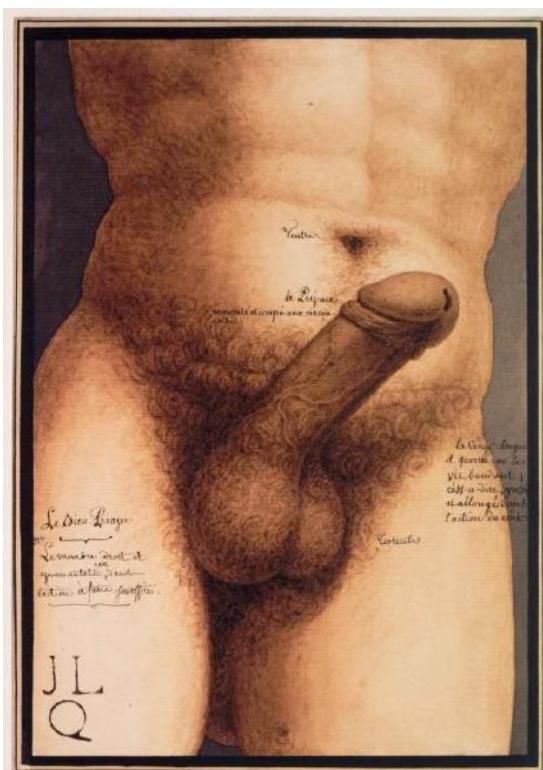


【図3-9】 ルクー「白い野生、自然に基づき描く」1779-1795年



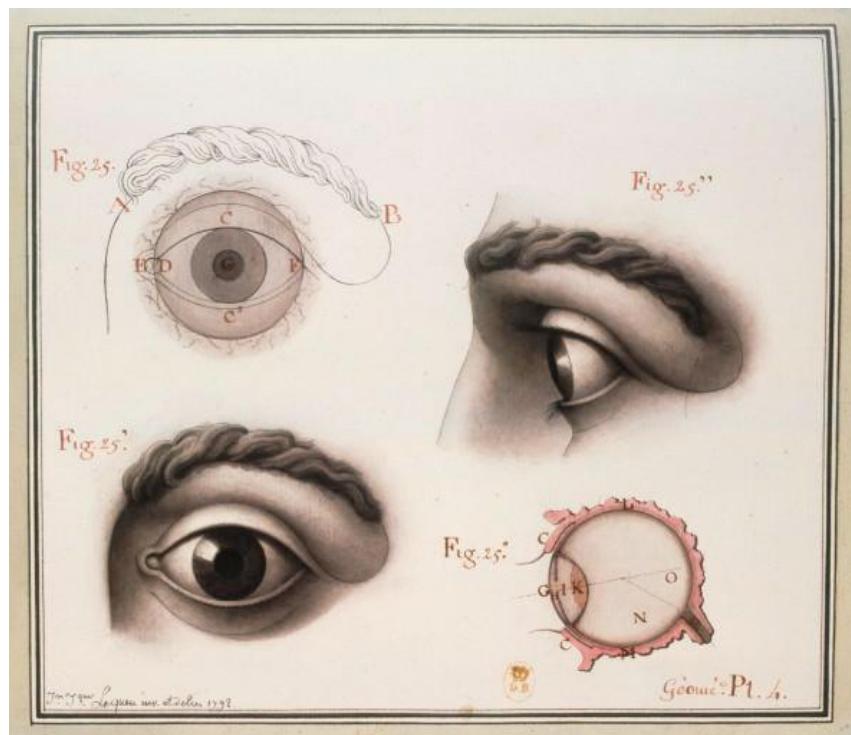
Source gallica.bnf.fr / Bibliothèque nationale de France

【図3-10】 ルクー「プリアポス神」1779-95年



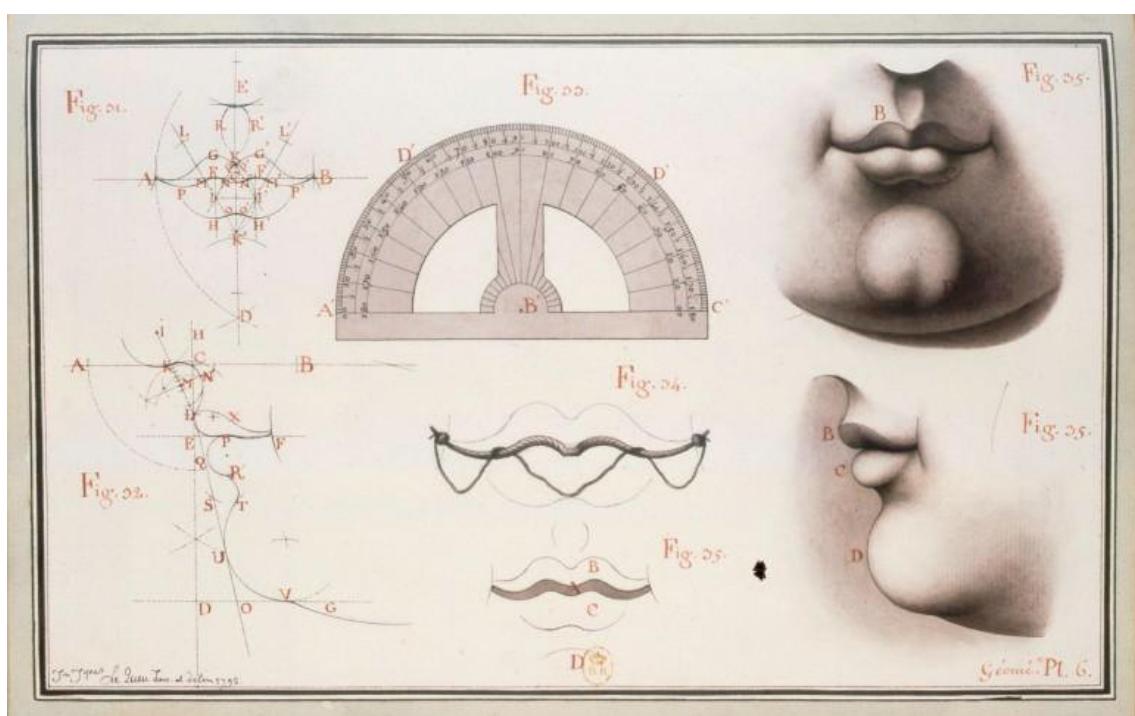
Source gallica.bnf.fr / Bibliothèque nationale de France

【図3-11】 ルクー「目の習作」1792年



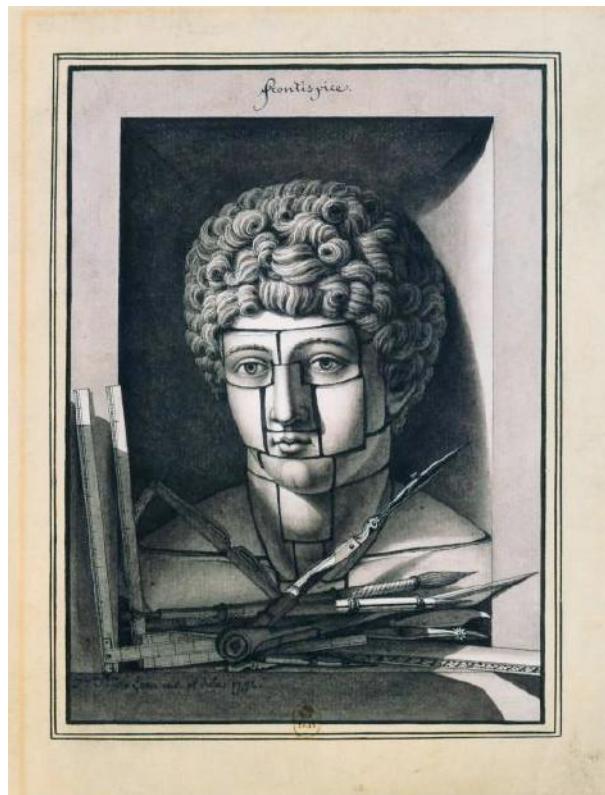
Source gallica.bnf.fr / Bibliothèque nationale de France

【図3-12】 ルクー「唇の習作」1792年



Source gallica.bnf.fr / Bibliothèque nationale de France

【図3-13】 ルクー「フロンティスピース」1792年

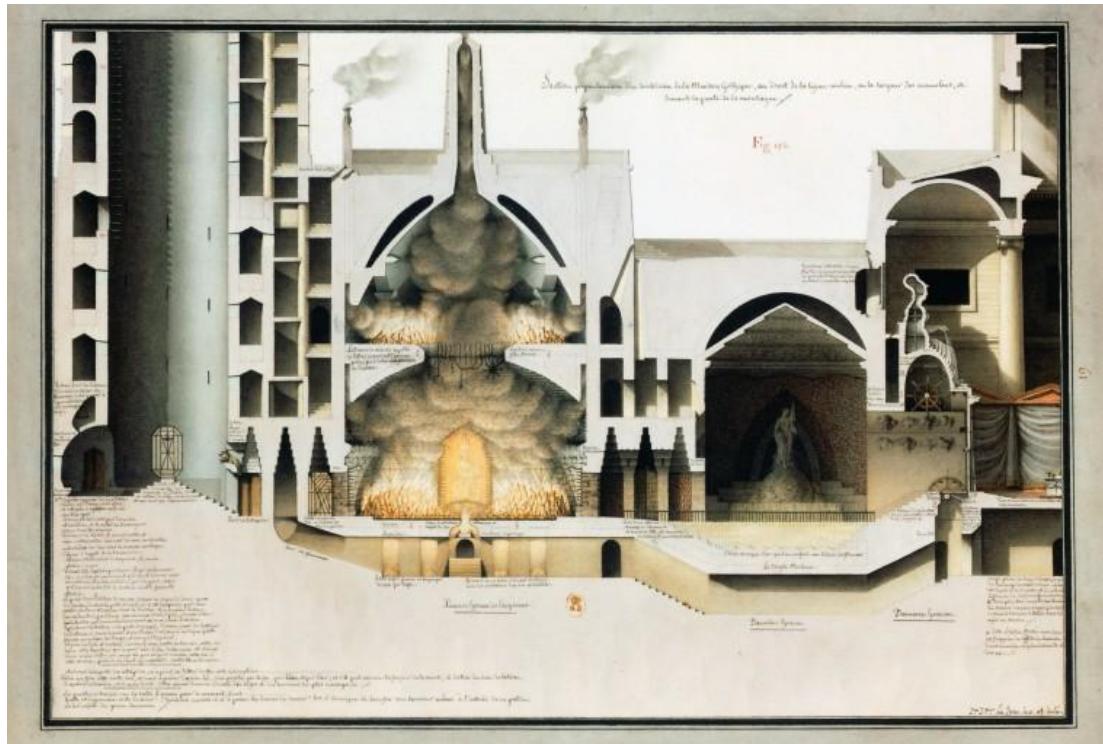


Source gallica.bnf.fr / Bibliothèque nationale de France

【図3-14】 テオドール・ジェリコー《手足の習作》1818-19年

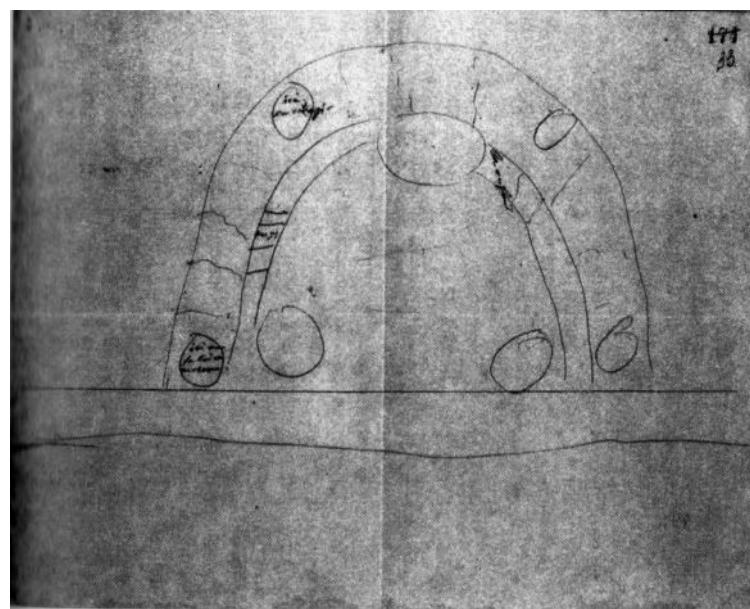


【図3-15】 ルター「ゴシック住宅の地下」1777-1814年

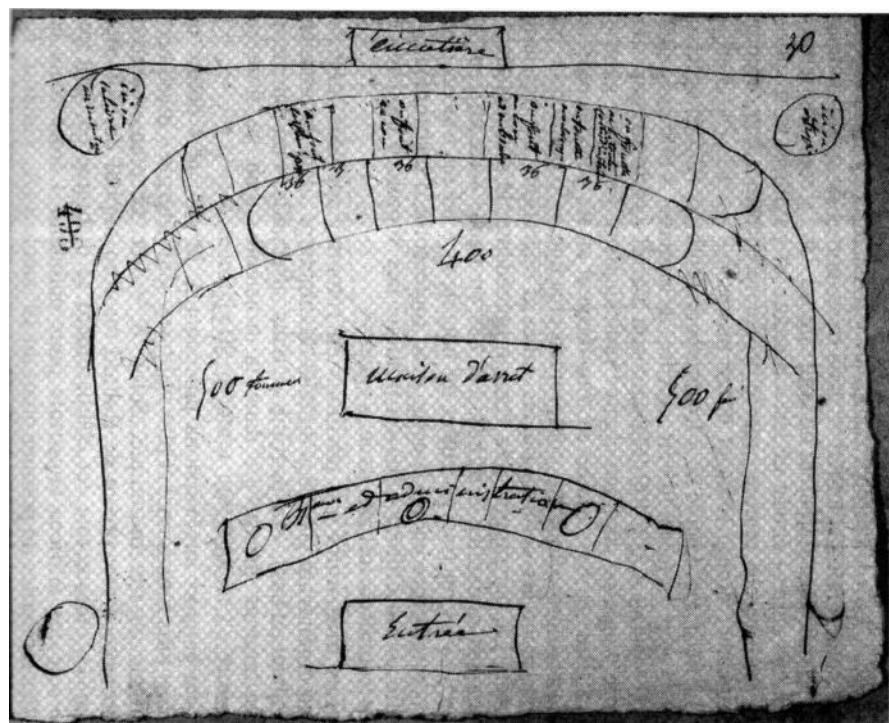


Source gallica.bnf.fr / Bibliothèque nationale de France

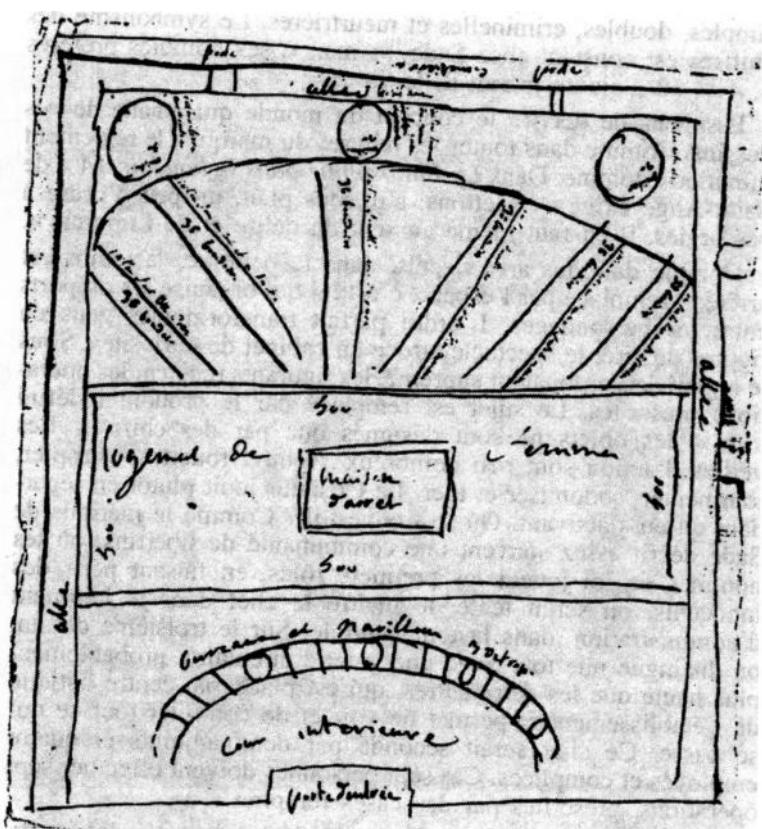
【図3-16】 サド「放蕩の館」第一案、年代未詳



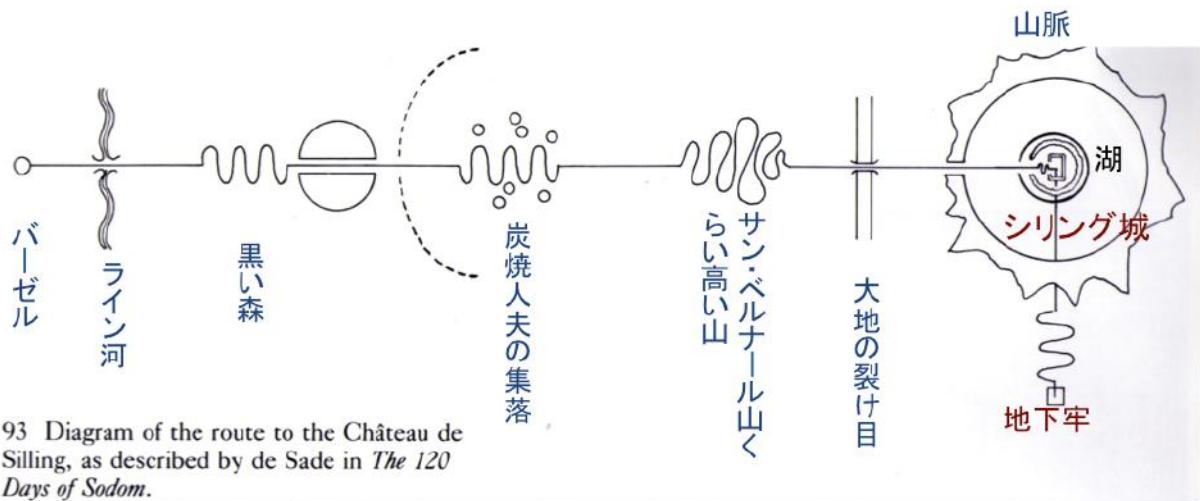
【図3-17】サド「放蕩の館」第二案、年代未詳



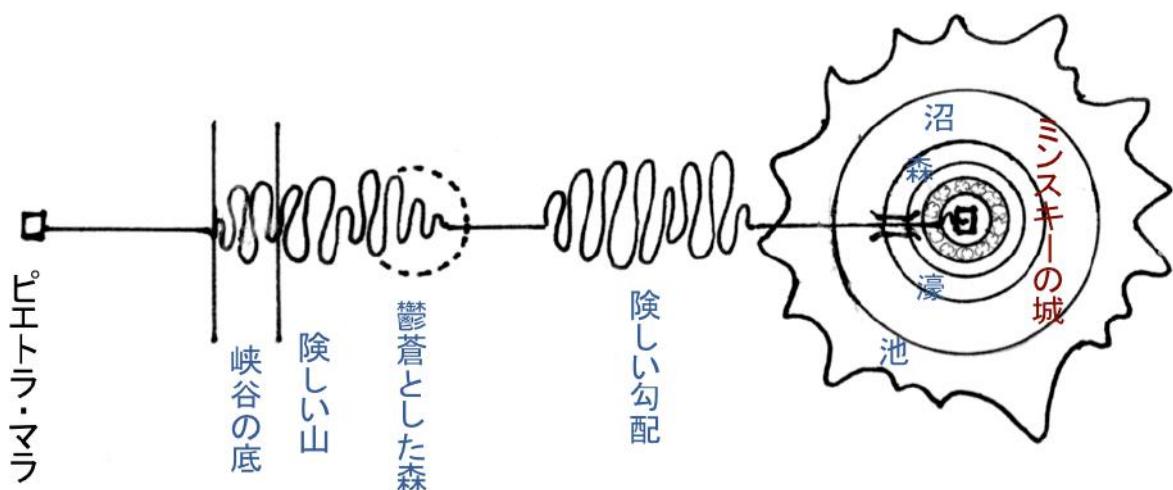
【図3-18】サド「放蕩の館」最終案、年代未詳



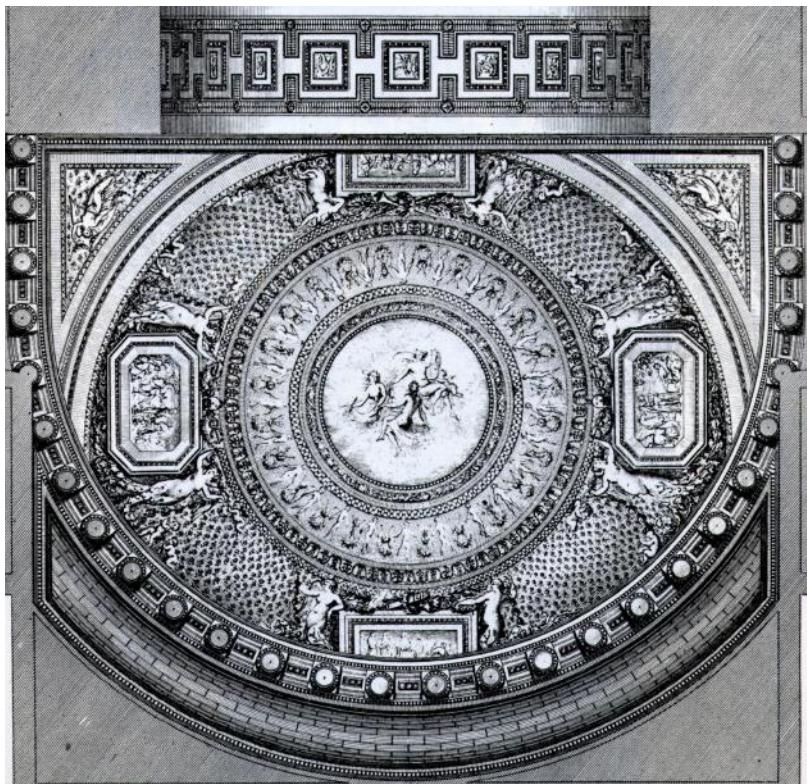
【図3-19】 サド『ソドムの百二十日』シリング城への道程のダイアグラム
アンソニー・ヴィドラー作成(日本語追記は筆者による)



【図3-20】 サド『ジュリエット物語』ミンスキーの城への道程のダイアグラム
筆者作成



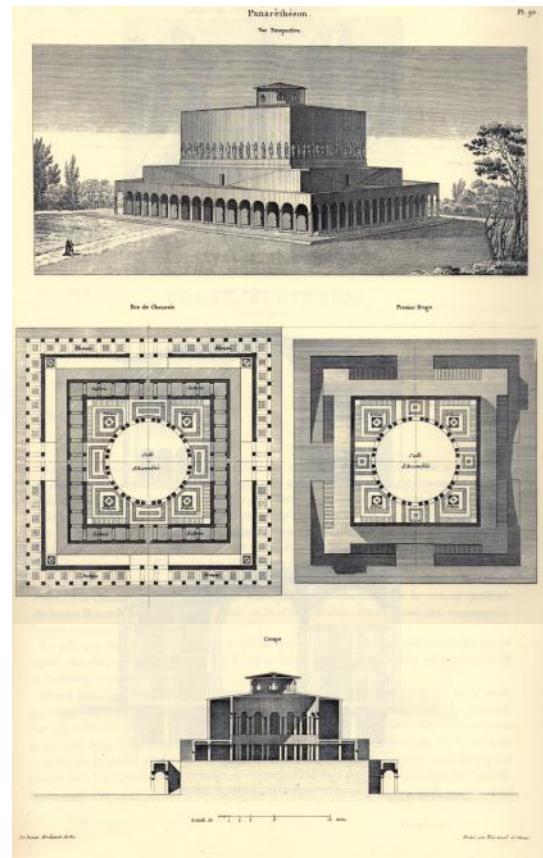
【図3-21】 ルドウ(彫版未詳)「ブザンソンの劇場の天井画」(部分図)『建築論』1804年



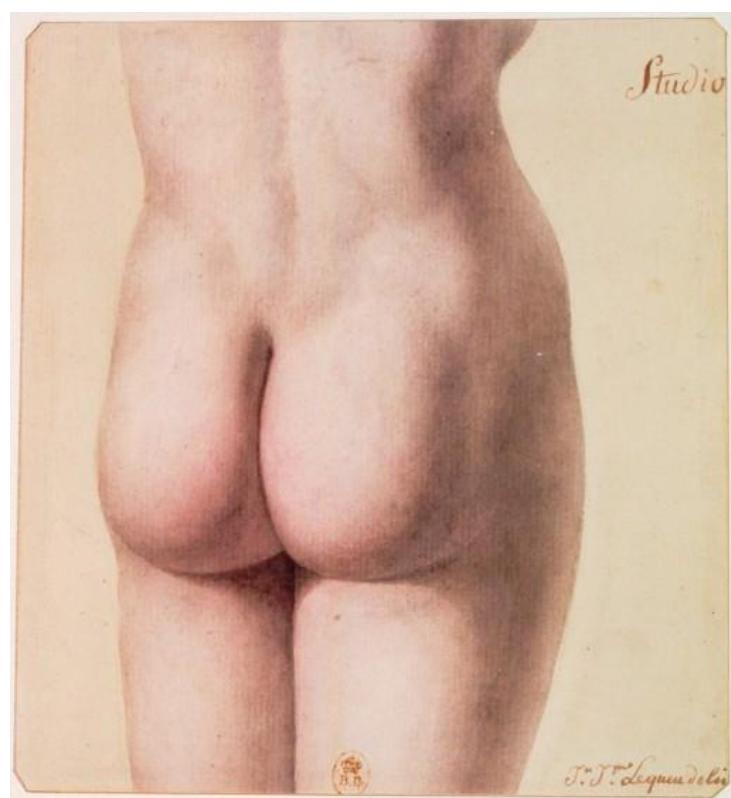
【図3-22】 ルドウ(ヴァン・マエルとマイエ彫版)「教育の館」『建築論』1804年所収



【図3-23】 ルドウ(ヴァン・マエルとシモン彫版)「パナレテオン」『建築論』1804年所収

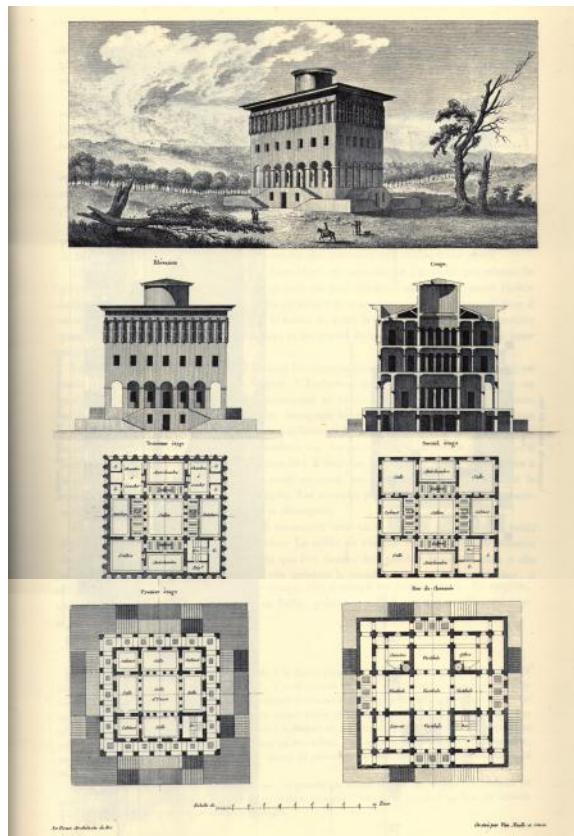


【図3-24】 ルクー「工房(Studio)」1779-1795年

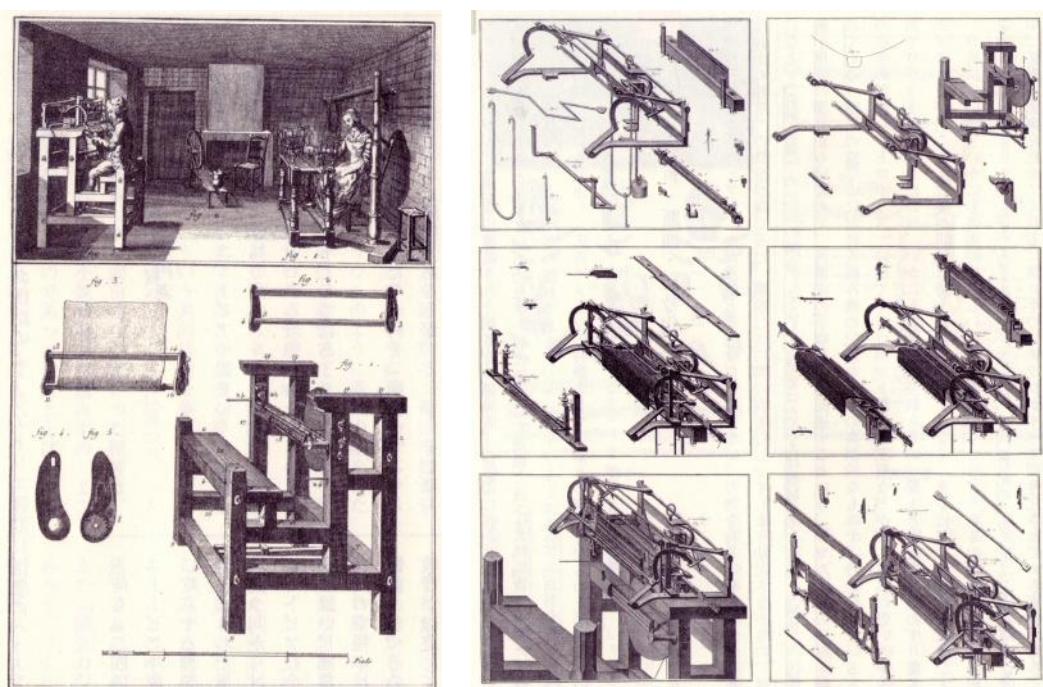


Source gallica.bnf.fr / Bibliothèque nationale de France

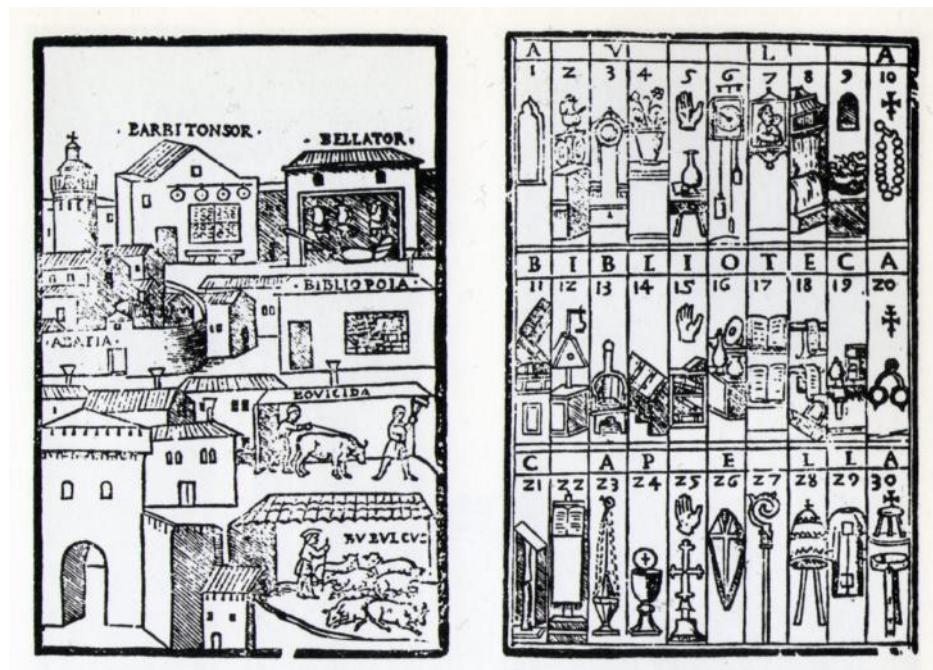
【図3-25】 ルドウ(ヴァン・マエルヒシモン彫版)「団結の館」『建築論』1804年所収



【図3-26】 靴下編機の図解（左：全景、右：部品の図解）『百科全書』



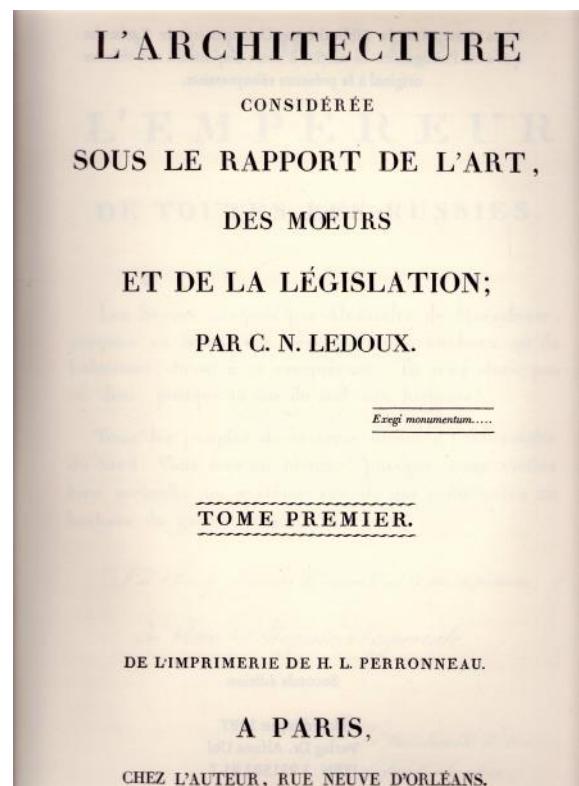
【図4-1】ヨハネス・ロンベルヒ『記憶術集成』1533年
修道院の建築物のイメージを利用した記憶術



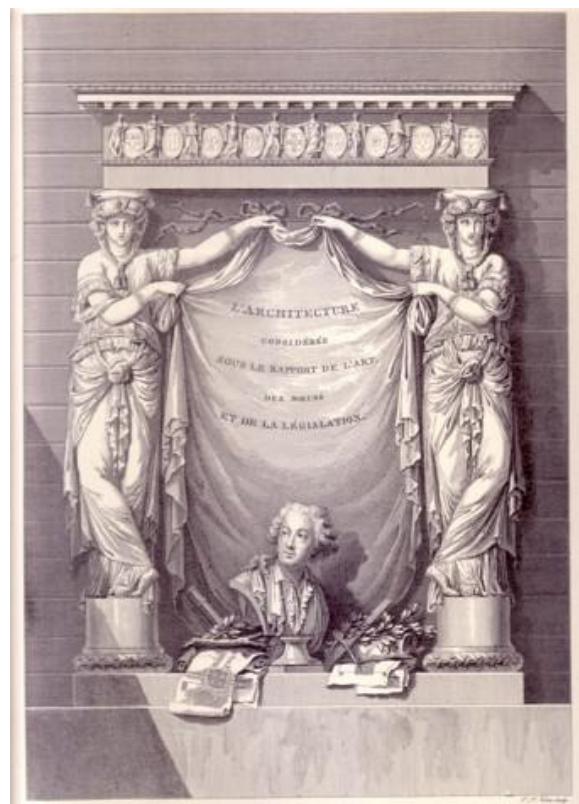
【図4-2】フランチェスコ・コロンナ(伝)『ポリフィロの狂恋夢』1499年挿図



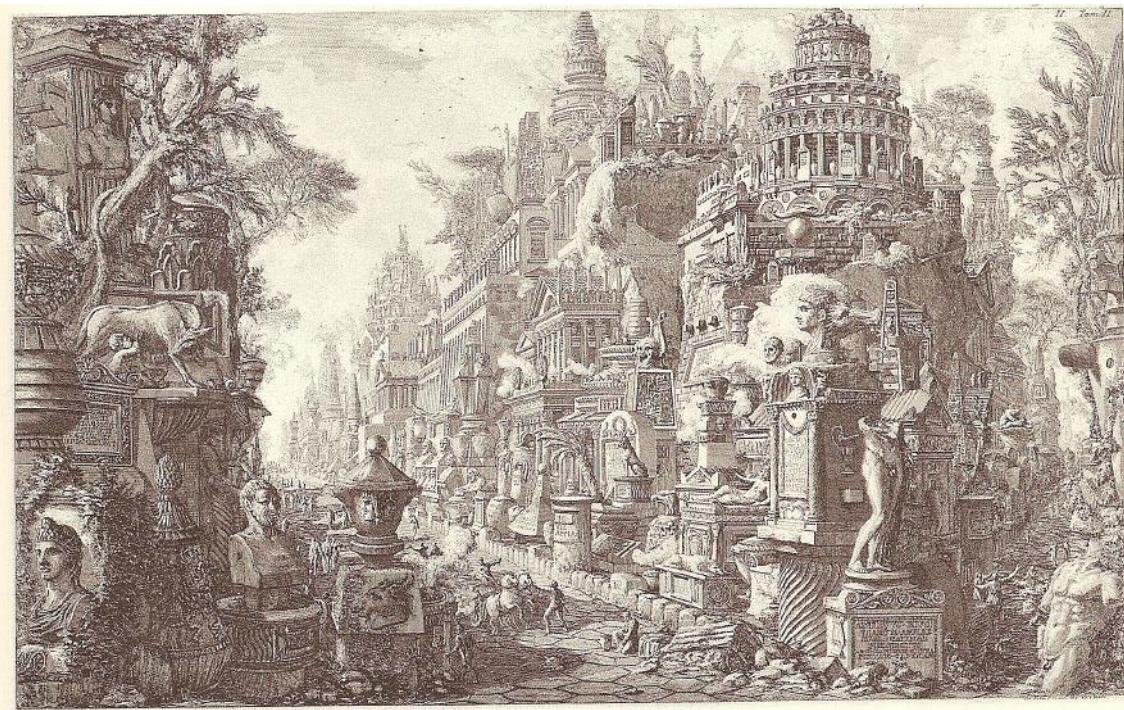
【図4-3】 ルドゥ『建築論』1804年、タイトルページ



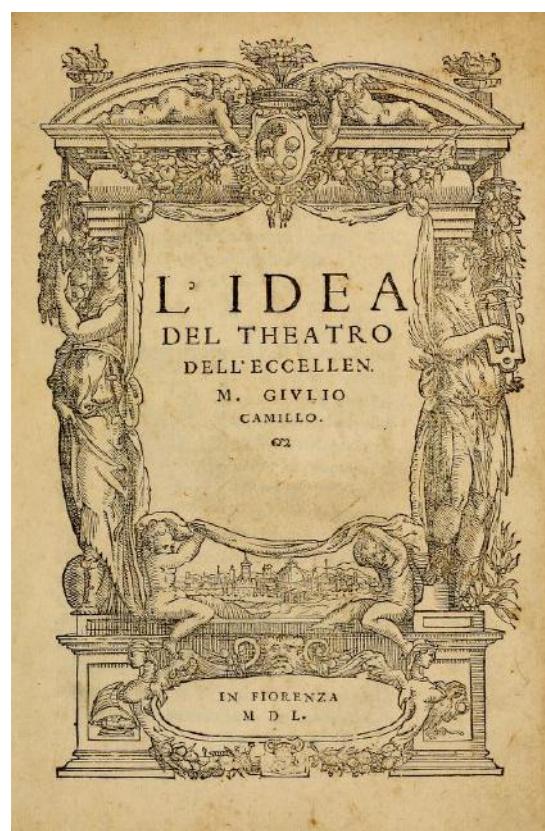
【図4-4】 ルドゥ『建築論』フロンティスピース(C.-N.ヴァラン彫版)



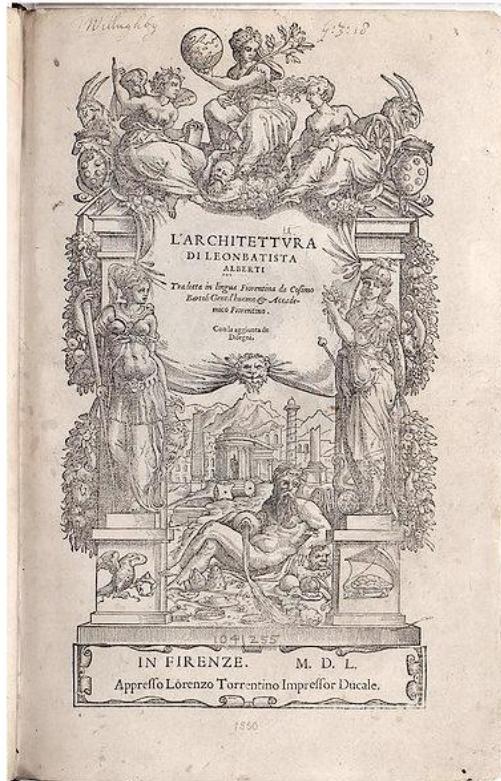
【図4-5】 G.B.ピラネージ「古代アッピア街道とアルデアティーナ街道の交差点」
『ローマの古代遺跡』第2巻フロンティスピース、1756年



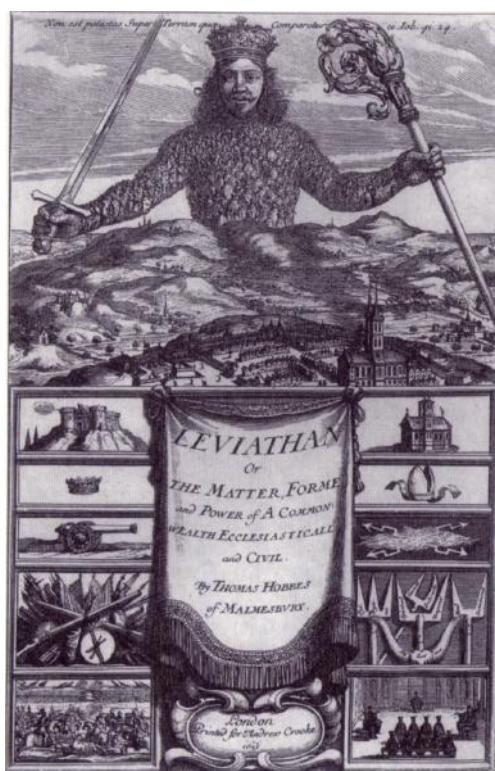
【図4-6】 ジュリオ・カミッロ『劇場のイデア』1550年のフロンティスピース
書題の書かれた緞帳の下部が捲られ、フィレンツェと思しき街並がその向こうに広がる



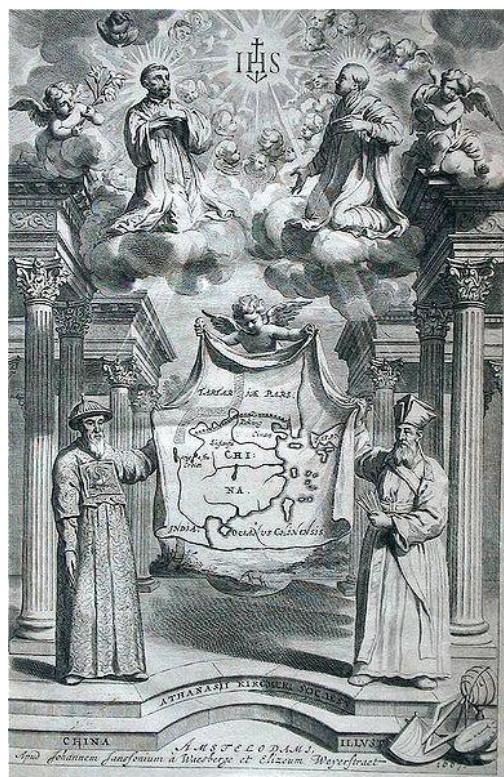
【図4-7】アルベルティ『建築論』(初版1485年)1550年版のフロンティスピース
両脇のカリアティド(女人柱)、書題の書かれた綾帳、下部のから覗く透視図法による遠景



【図4-8】ホップズ(アブラム・ボス作画)『リヴィアイアサン』フロンティスピース、1651年



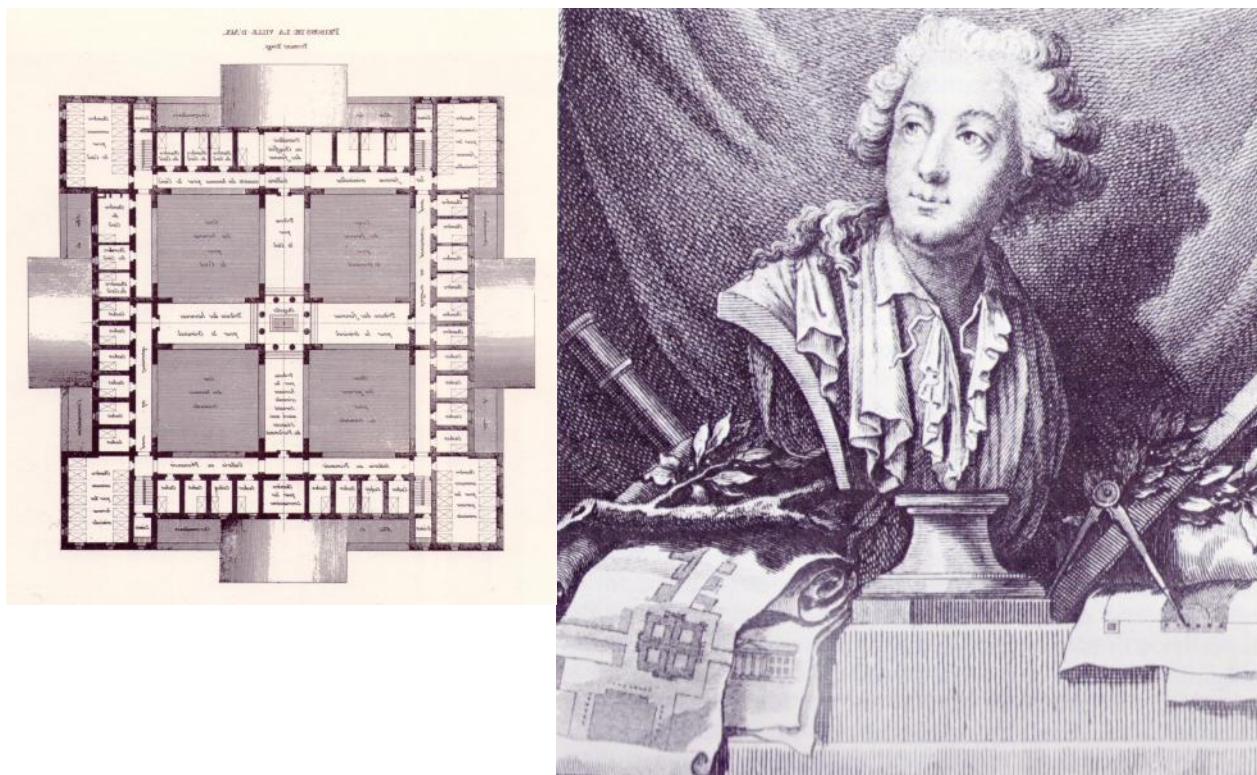
【図4-9】キルヒヤー『シナ図絵』1667年のフロントスピース
建築物の示唆するヴィスタを、中国(この書が扱うテーマ)の地図の描かれた布が覆い隠す



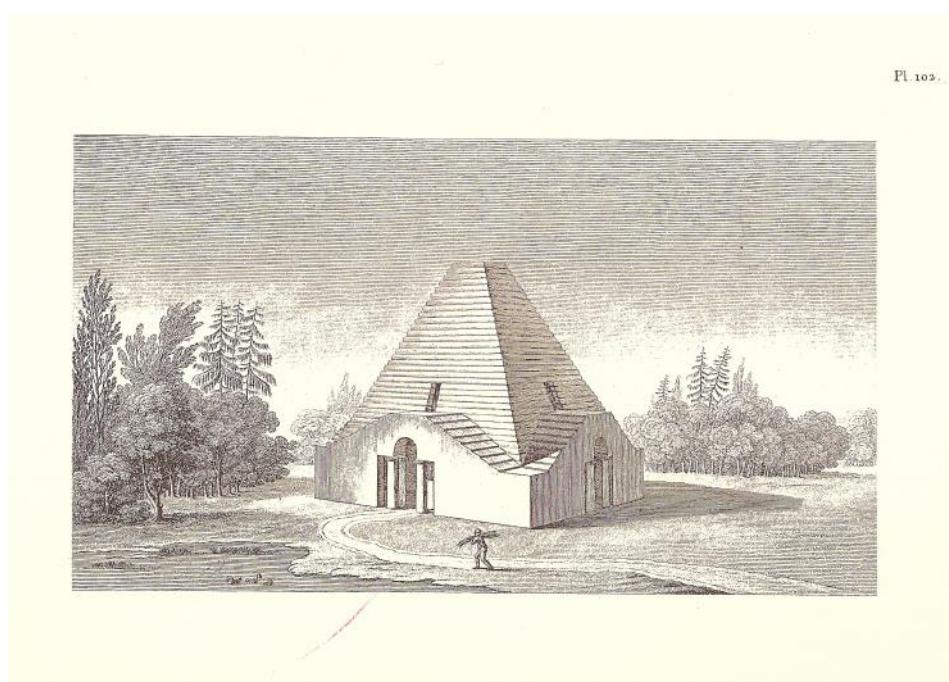
【図4-10】ルドウ設計、ダンフェール・ロシュローの市門
フレーズのレリーフ



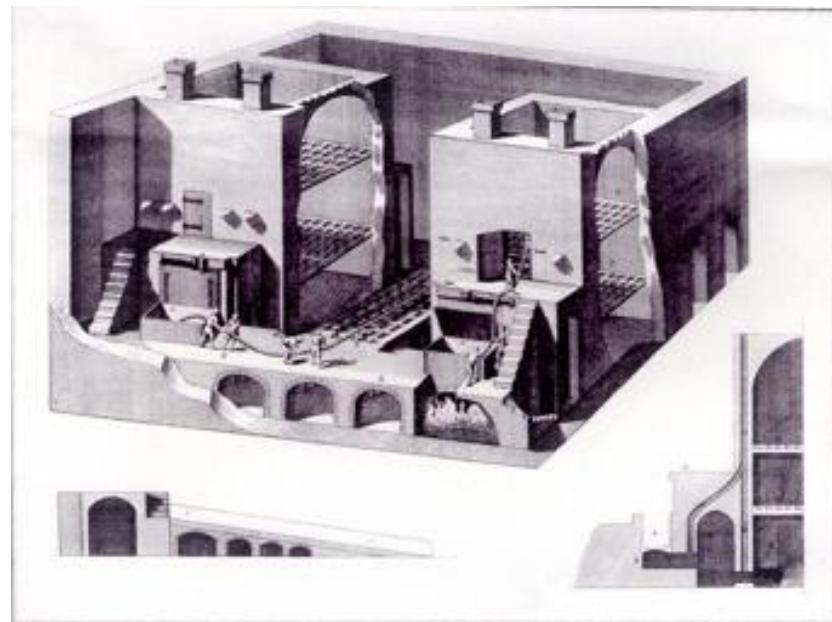
【図4-11】 「エクスの監獄」2階平面図、ラメ版『ルドゥの建築論』1847年
右:『建築論』フロンティスピース部分拡大図



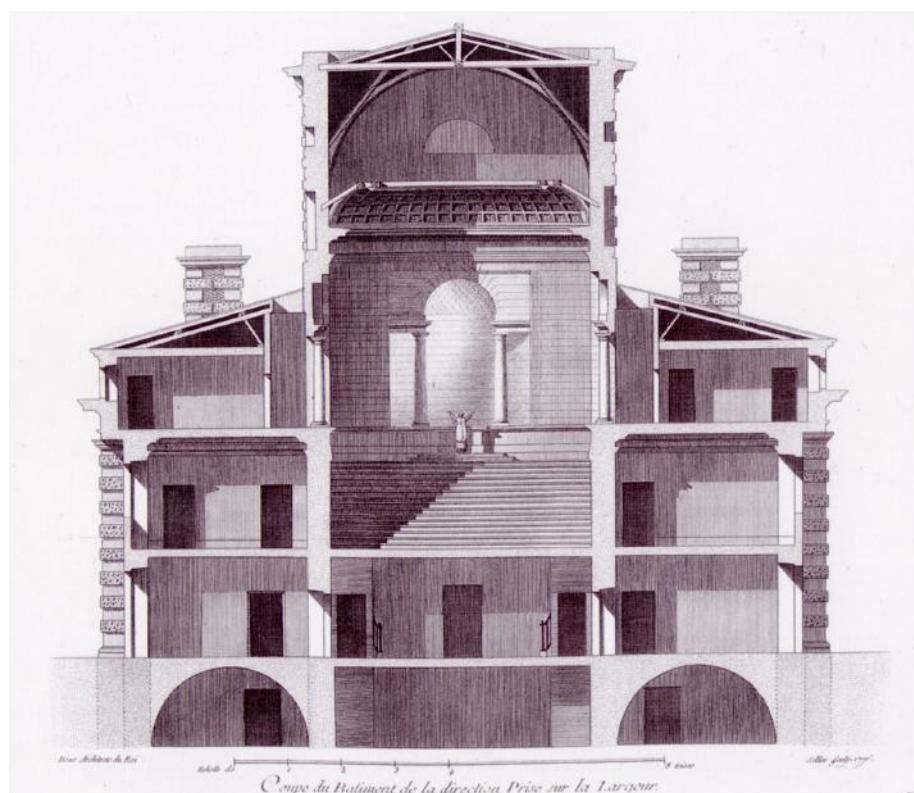
【図4-12】 ルドウ(彫版未詳)「樵夫の家」『建築論』1804年



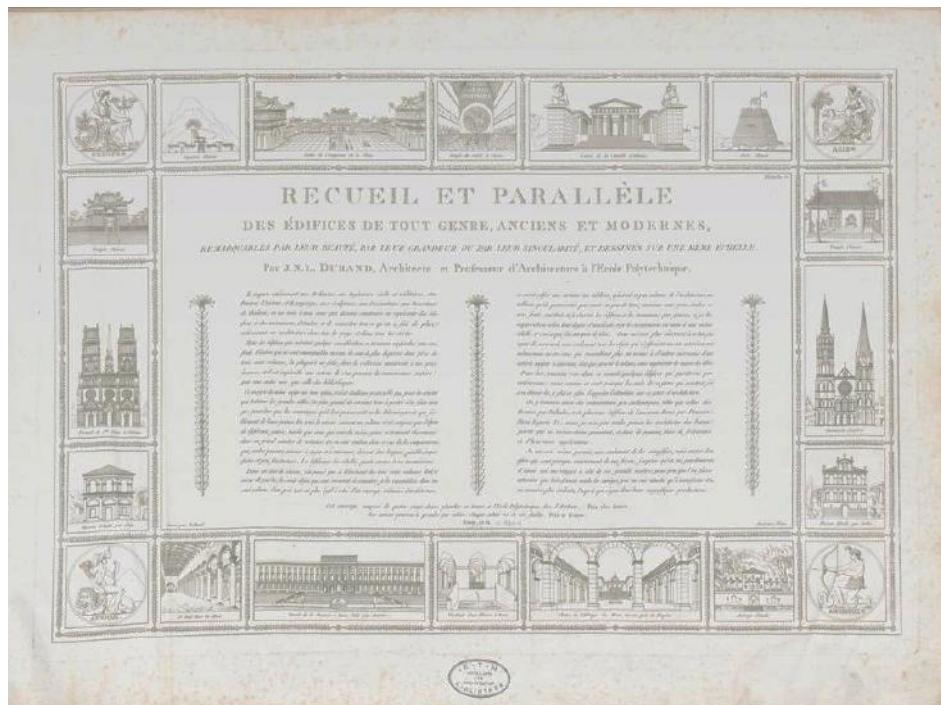
【図4-13】 ルイ=ジャック・グーシエ(ペランの下絵に基づく)「ロシュフォールの造船所」
『百科全書』



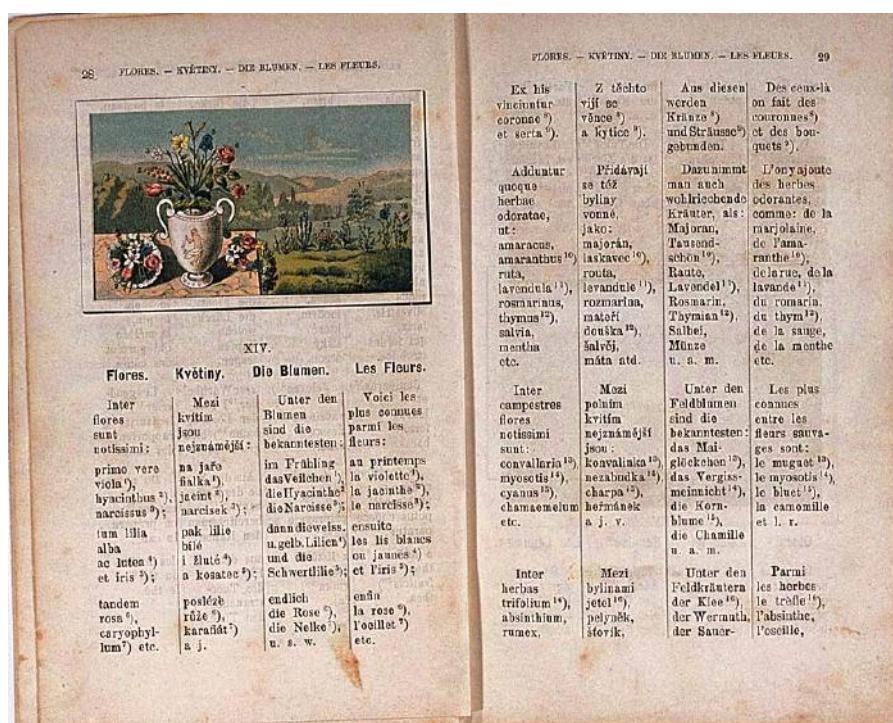
【図4-14】 ルドゥ(スリエ彫版)「監督官の館」短辺方向の断面図、1776年
『建築論』1804年



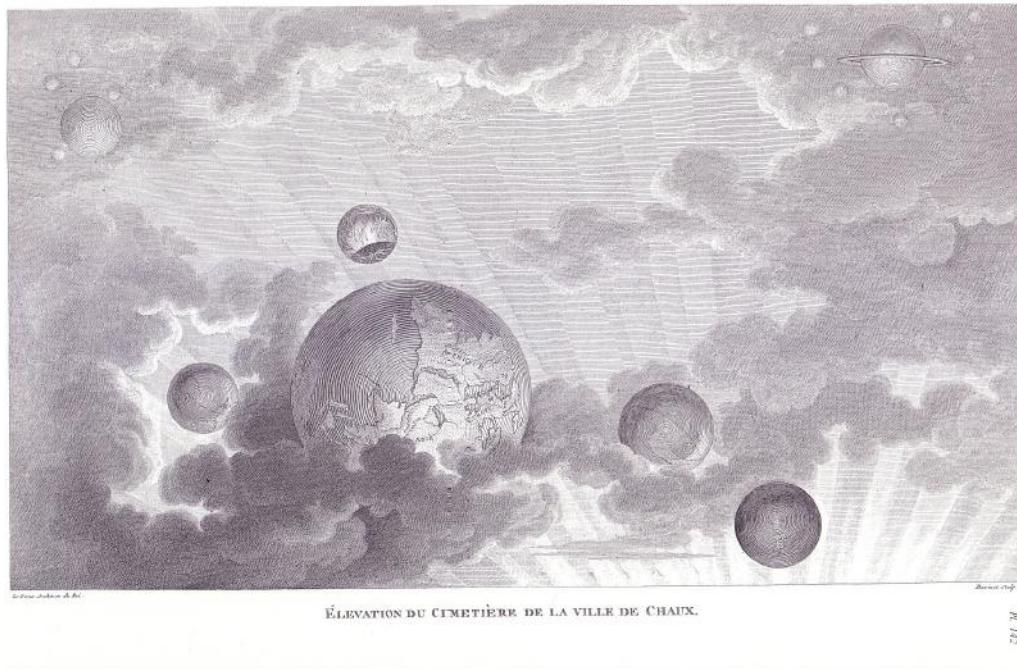
【図4-15】 J.N.L. デュラン『比較建築図集』第1巻、1800年



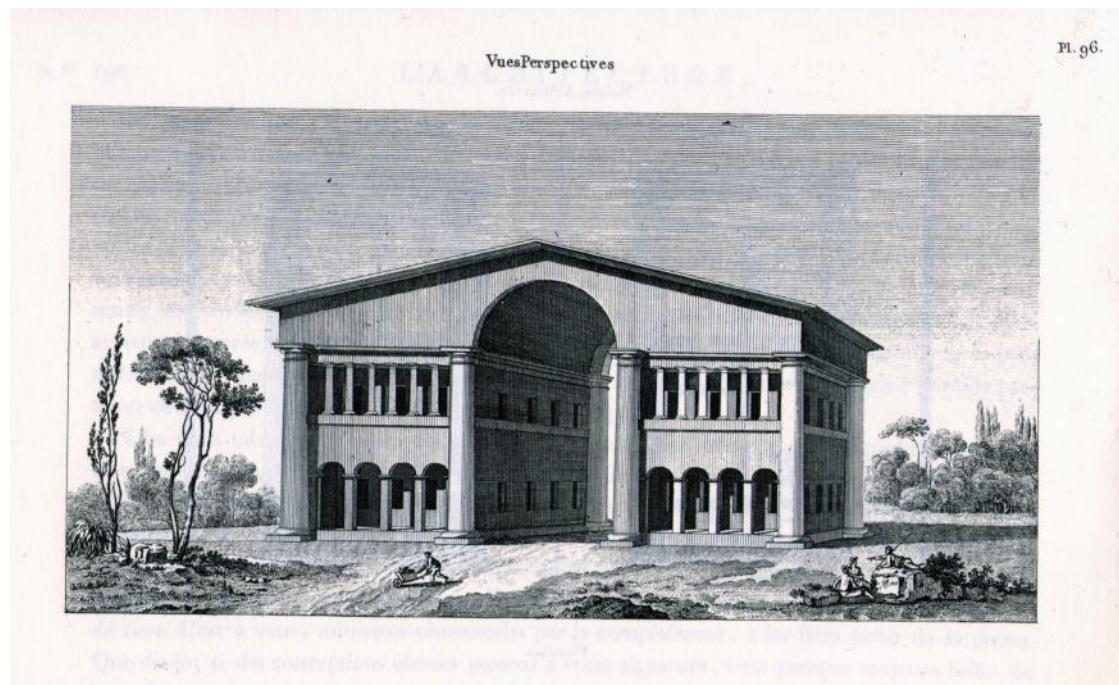
【図4-16】 J.-A. コメニウス『世界図絵』四力国語版、1883年



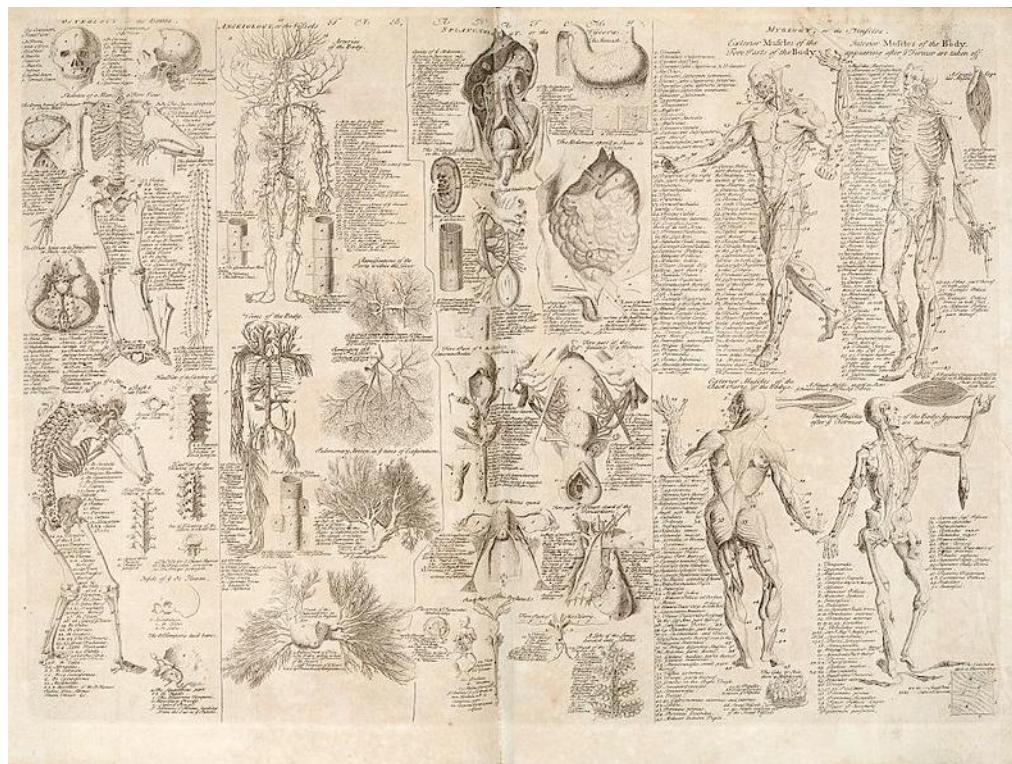
【図4-17】 ルドゥ(ボヴィネ彫版)「ショーの都市の墓地、立面図」
『建築論』1804年



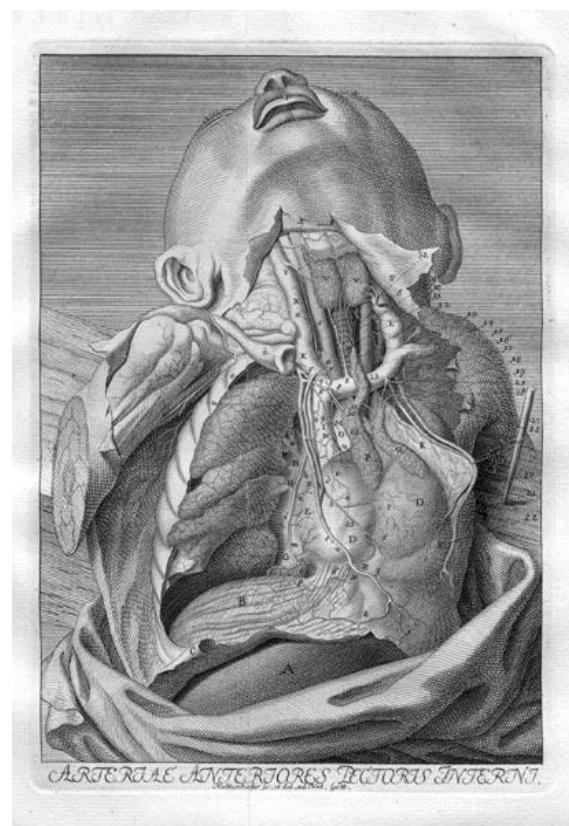
【図4-18】 ルドゥ(ヴァラン彫版)「二人の芸術家のための家、透視図」
『建築論』1804年所収



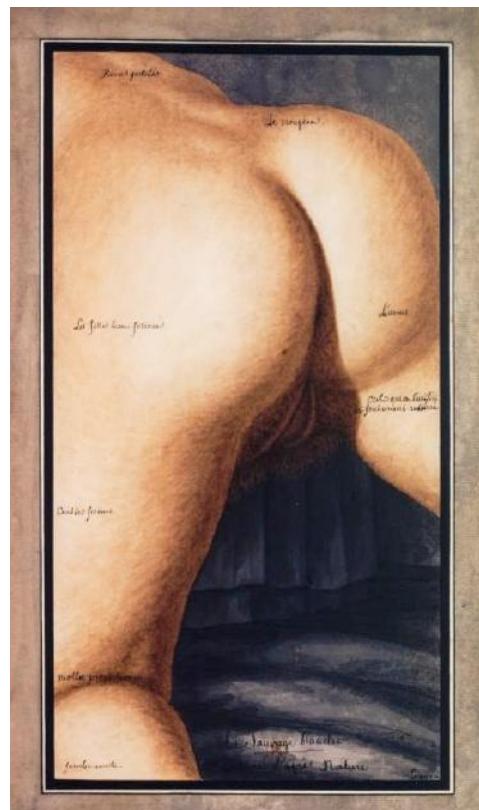
【図4-19】「解剖学のチャート」、イーフレイム・チェンバーズ『サイクロペディア』第1巻、1728年



【図4-20】 ハラー『解剖図 (Icones anatomicae)』より、カルテンホファーによる版画
全8巻、1743-1756年



【図4-21】 ルクー「白い野生、自然に基づき描く」1779-1795年



Source gallica.bnf.fr / Bibliothèque nationale de France

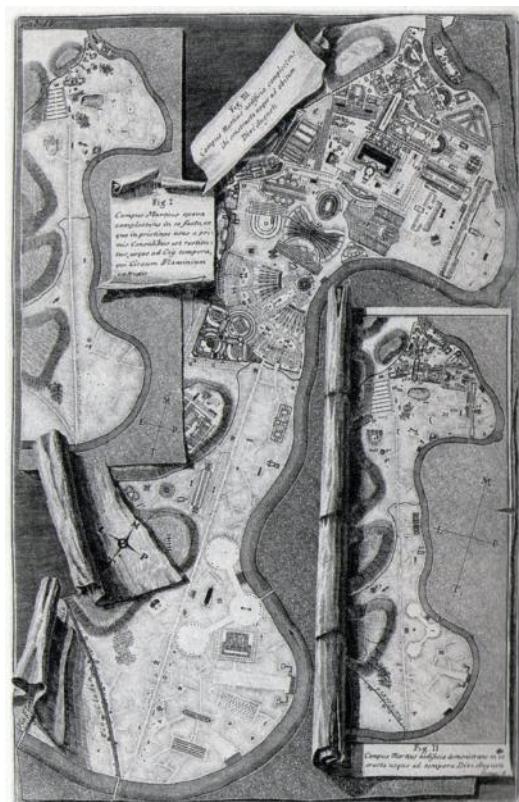
【図4-22】 G.B. ピラネージ《カンポ・ヴァッチーノの眺め》1772年



【図4-23】 G.B.ピラネージ「墓室の残骸のある風景」
『ローマの古代遺跡』第2巻、1756年



【図4-24】 G.B. ピラネージ「カンプス・マルティウスの3枚の地図」
『古代ローマのカンプス・マルティウス』1762年



【図4-25】 ルドウ『建築書』1804年、43ページ
「UN VOYAGEUR(一人の旅行者)」



UN VOYAGEUR.

Il y a depuis deux ans pour laisser le temps juppin à faire, que le 24 octobre 1911 sont des élections considérées dans une partie de la Franche-Comté.

Elle présente une sorte d'union à l'ame maternelle, un communisme à l'individu. Elle offre des idées pittoresques, des images qui parent forgeres propres au coq, et renvoient des goûts liquides qui nous appellent les prodiges du *Welsch*, et tout l'autre maternel de la nature. Assimilé par le sentiment des arts, je dirai sans gêne *Salomé*. Mais arrivé, il demande le rôle qu'en cette ville offrir d'intérêt. On me répondra à la salve : le discours guidé sur *carminis*.

On affirme des vaches sauvages qui jettent plus de fumier que de bœufs. Les rayons du soleil nous pousseraient, les parties des fleurs sauvages émettent le dessous dans des

et aussi sans pression, les grâces des leurs œuvres éclatent, et deviennent dans des œuvres profondes, accessibles aux seules personnes qui ont étudié la vie de St. André.

Le dévouement des voies d'une grande dimension qui se présente dans l'inspiration, laisse toujours une douceur, mais les voies de temps courtent et affûtent de toutes parts. La, au milieu de l'inspiration, signe ou analogie de siennes œuvres que modifieraient les œuvres éclairées, le corps, laissé à l'abandon, par la mort, par la disgrâce... je crois... que ce rôle l'œuvre inspirante qui pourra me servir de modèle, lorsque j'aurai à faire une œuvre de la sainte Sébastien, inspireront alors que, pour faire la bourse en son honneur, je fabriquerai de brutes des peintures, des cartouches dont le fond sera nécessairement noir et noirâtre. Telle chose en couvrira les murs intérieurs de la sacristie, et épousera les formes de l'autel, et de ses deux degrés propres que la restauration de l'édifice malheureusement de trop longtemps négligé.

La sacristie présente plusieurs objets religieux précieux, en particulier un très bel tableau de saint Sébastien, qui fait partie des choses égarées depuis longtemps, et qu'il n'a pas retrouvé.

Il y a dans la sacristie plusieurs objets religieux précieux, en particulier un très bel tableau de saint Sébastien, qui fait partie des choses égarées depuis longtemps, et qu'il n'a pas retrouvé.

Dans son enthousiasme, si petite mille se gemit, si poitrine se gemit, si visage écarquoya
à l'heure à peine le moyen de respirer.

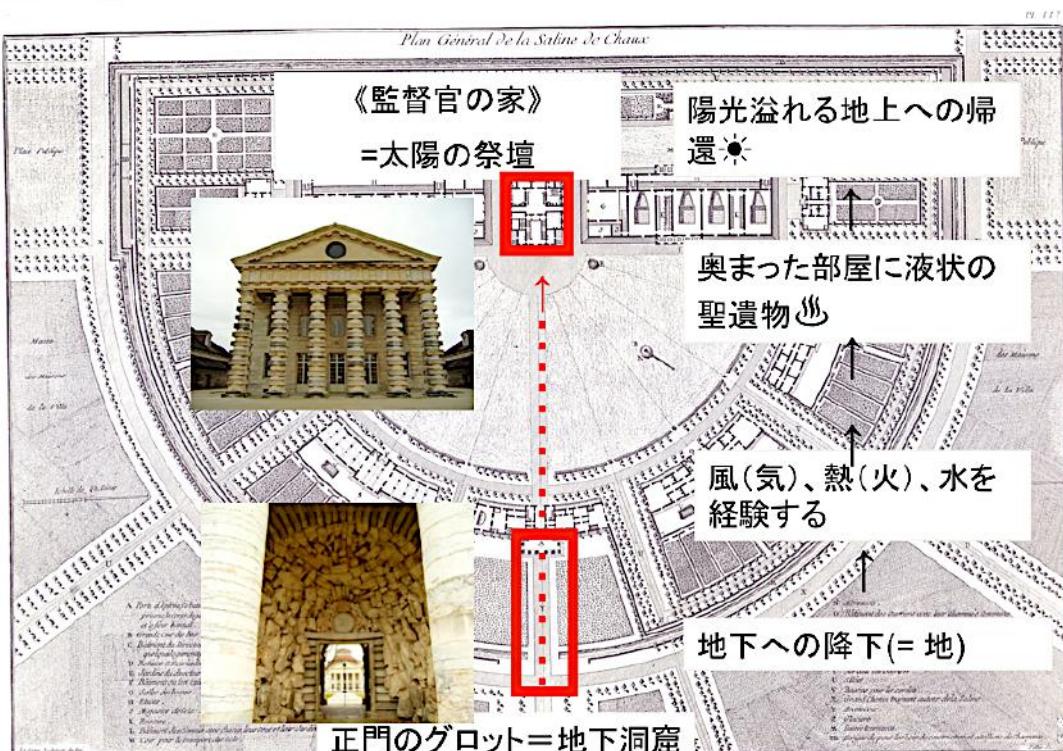
Ge n'est plus un mortel qui étudie ses pieds le sujet qui présente d'insolite les fleurs entourées; on a plus le sentiment des ressous serrés que soulèvent le rocher, pour l'assurer, depuis tant de siècles, des vases qui remplissent des cases inséparables; c'est un dessin qui évoque aussitôt d'un rouge que le road invisible, et dans toute la puissance de sa charge la rigueur supérieure. Il est dans son temps révolu, et dans toute la puissance merveilleuse, qu'il démontre en maître. C'est ainsi que l'heureux reçoit ses influences du sentiment qui domine.

Tel me croiront dans un hystérique insensé à la vie, qui, placé au moment d'un pressentiment, aurait repoussé la bourse sur la main tremblante de flambée.

En quittant l'apothicaire, je franchis des portes fermées pour me préserver du tumulte déchaîné qui ébranlait tout ce qui me précédaient. Les voleurs bâillonnés réveillèrent un vaste agitant sous la pierre noire, la fissure qui mit alors sous nos yeux, on ne sait pas pourquoi, une forme humaine qui fut à son tour pour envier la bourse du jeune, frapper ses yeux bénissons, qui furent à leur tour envier la terre, après tant d'émotions, je trouvai sous les semences du monde.

Le soleil couronna dans des cendrages infinies rebondies sur sol et ciel et nous

【図4-26】 ルドウ『建築論』第一日目の旅程のダイアグラム(筆者作成)



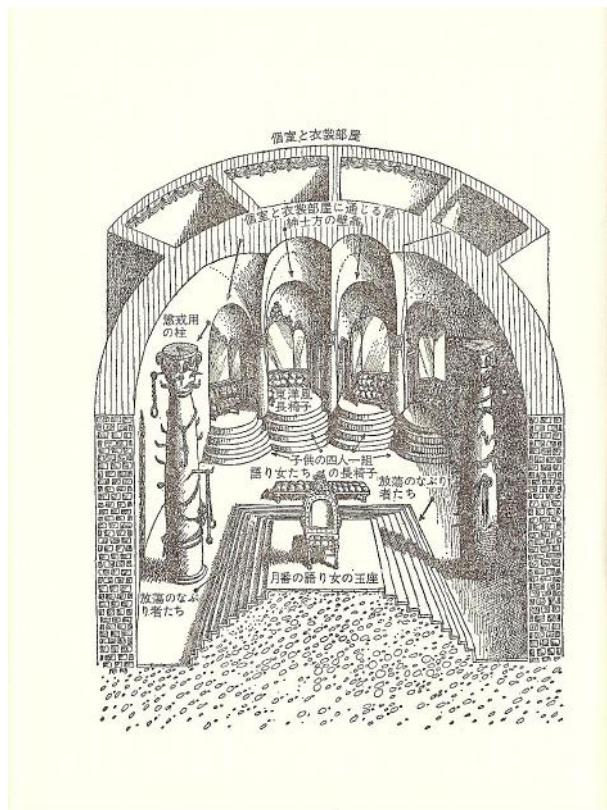
【図4-27】 ルドウ、王立製塩所の正門(グロット)
(門の延長線上に「監督官の家」が見える)



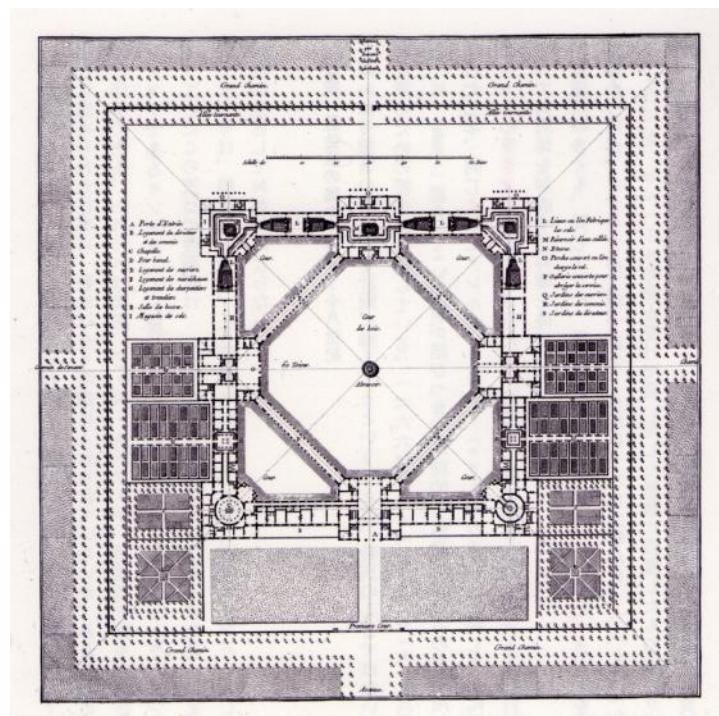
【図4-28】 ルドウ設計、王立製塩所の監督官の家



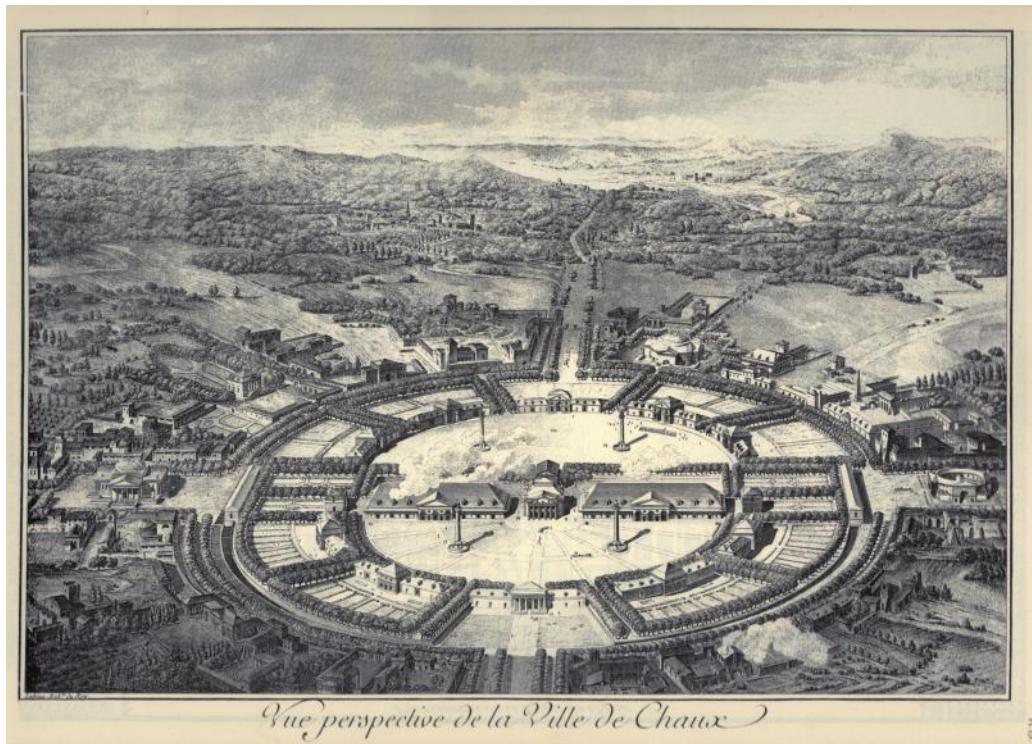
【図4-29】 ラモン・アレジャンドロ「ソドム百二十日』シリング城の集会の間の想像図】



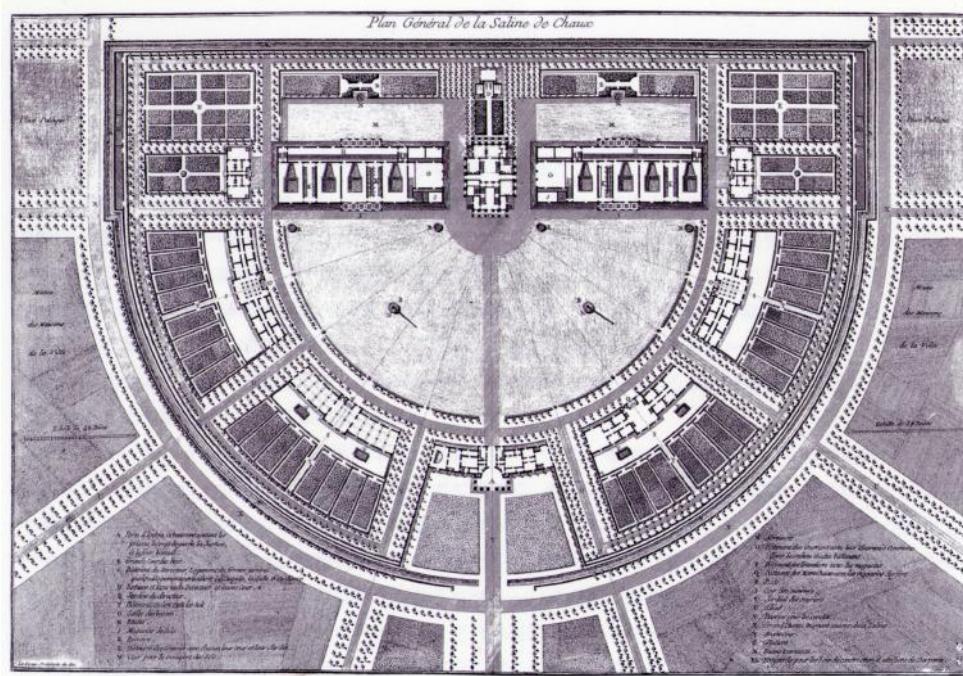
【図4-30】 ルドウ(スリエ彫版)「王立製塩所第一案」『建築論』1804年



【図4-31】 ルドウ(ベルトー彫版)「ショーの街の透視図」『建築論』1804年



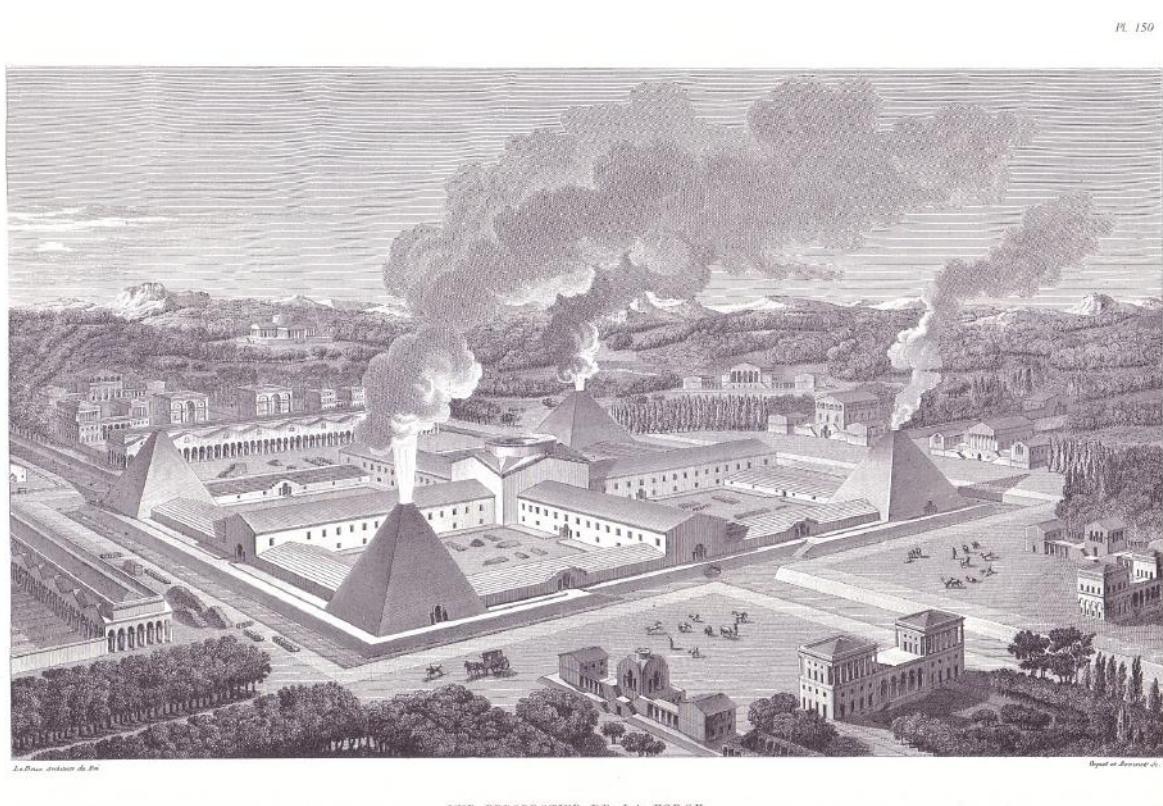
【図4-32】 ルドウ(スリエ彫版)「王立製塩所の実現された平面図」
『建築論』1804年



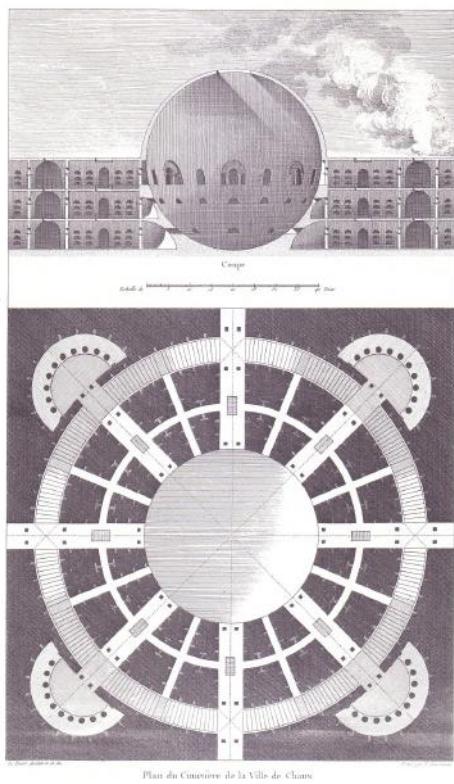
【図4-33】 ルドウ(デュピュイ彫版)「ショーの製塩所一帯の地図」
『建築論』1804年所収



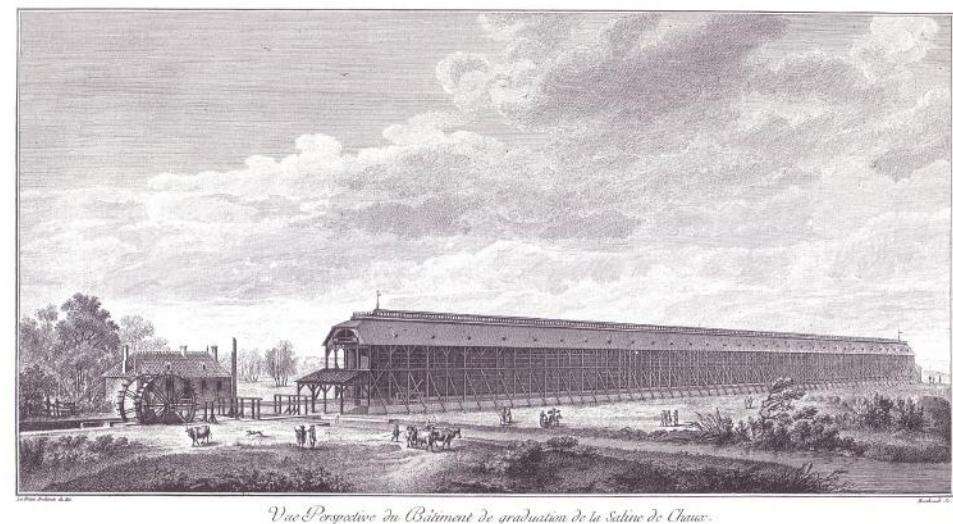
【図4-34】 ルドウ(コケとボヴィネ彫版)「大砲製造工場の透視図」『建築論』1804年



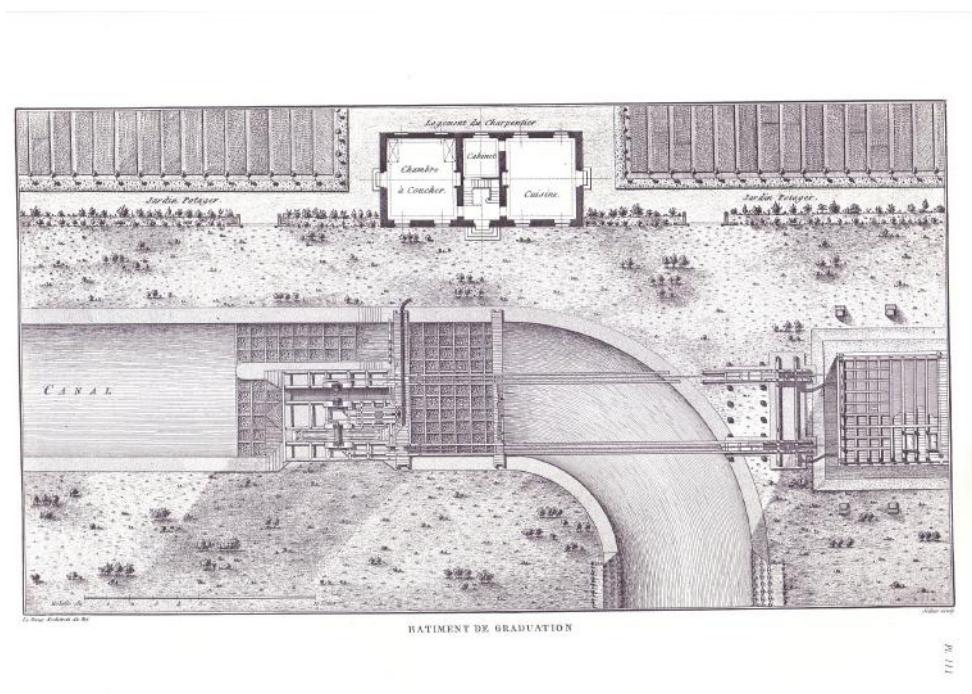
【図4-35】ルドウ(ラナゾネット彫版)「ショーの都市の墓地、断面図、平面図」
『建築論』1804年



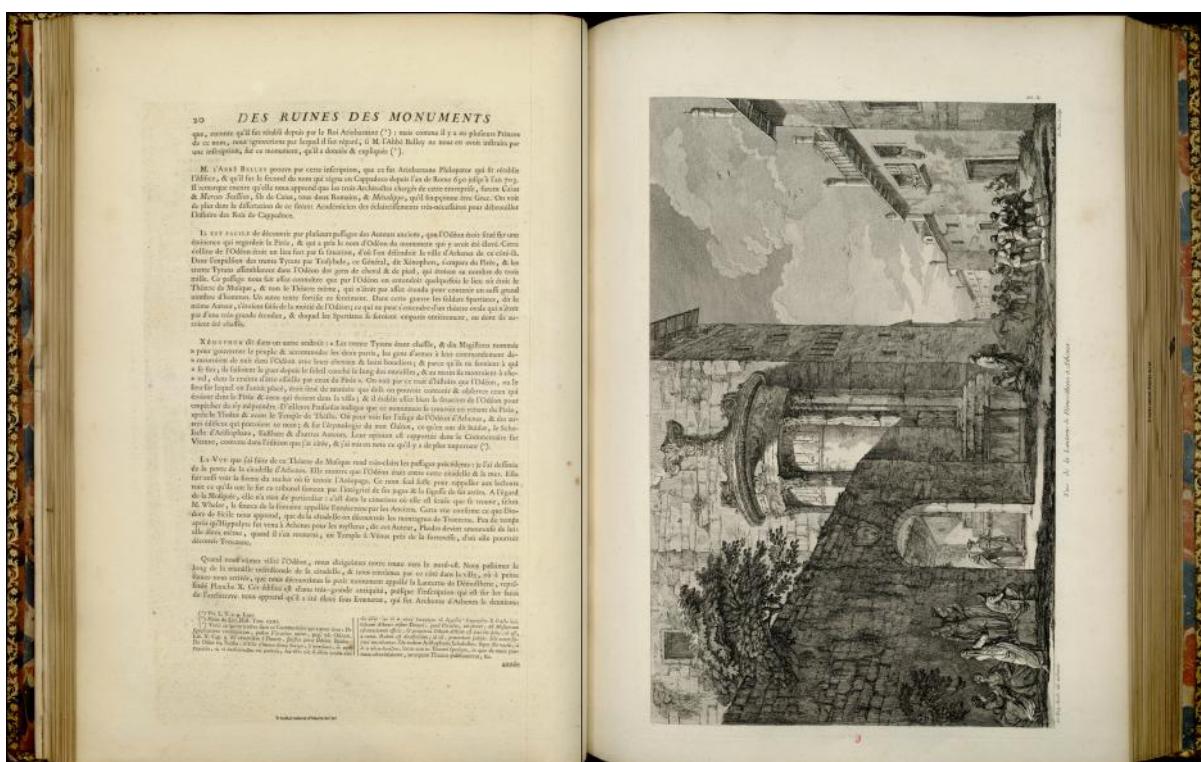
【図4-36】ルドウ(ベルト一彫版)「塩水濃縮工場の建物の透視図」『建築論』1804年



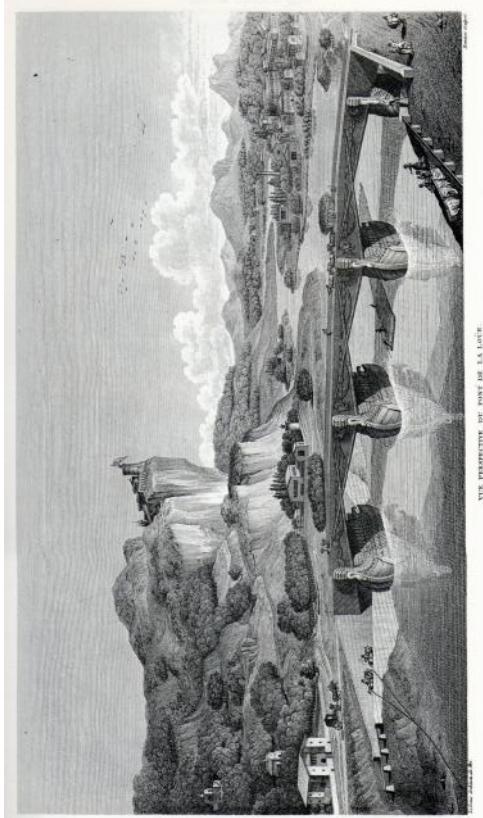
【図4-37】 ルドウ(スリエ彫版)「運河の揚水ポンプ平面図」『建築論』1804年



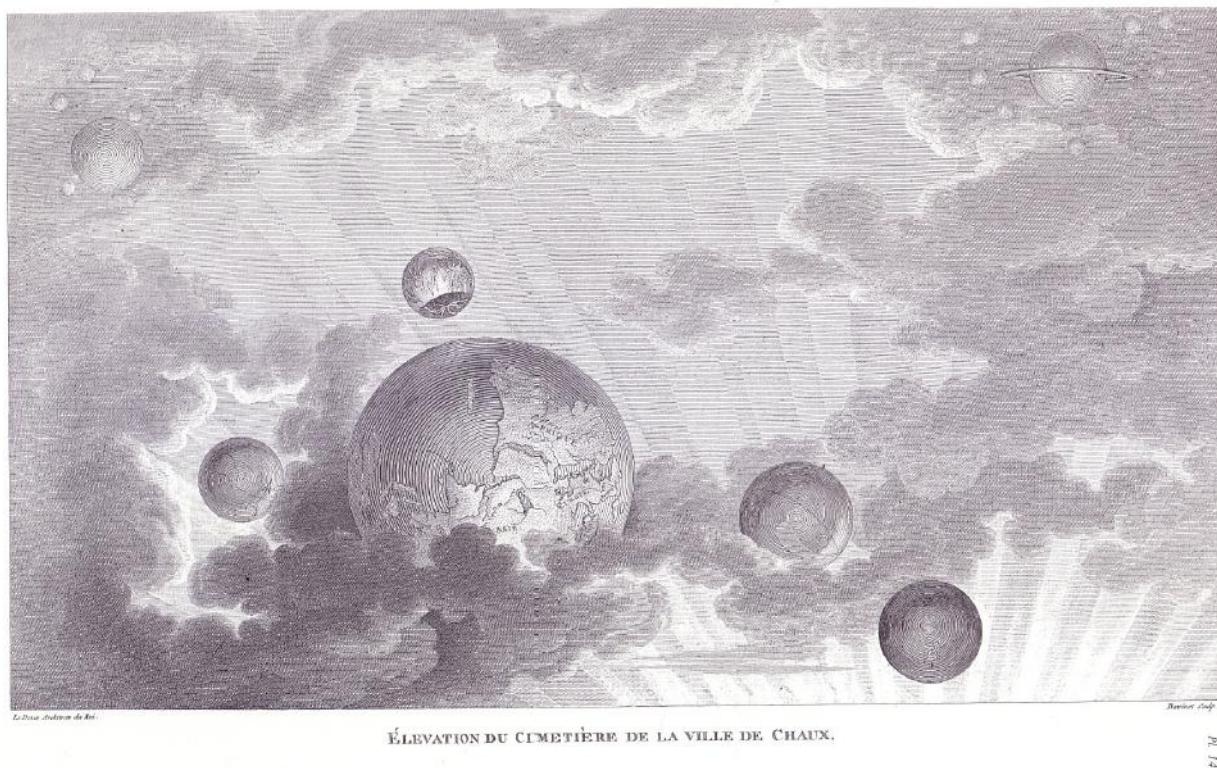
【図4-38】 ル・ロワ『ギリシア最美の遺跡の廃墟』1770年、20頁と図版10
「図版10に示す通り、私たちはデモステネスの頂塔と呼ばれる小さな遺跡を見つけた」



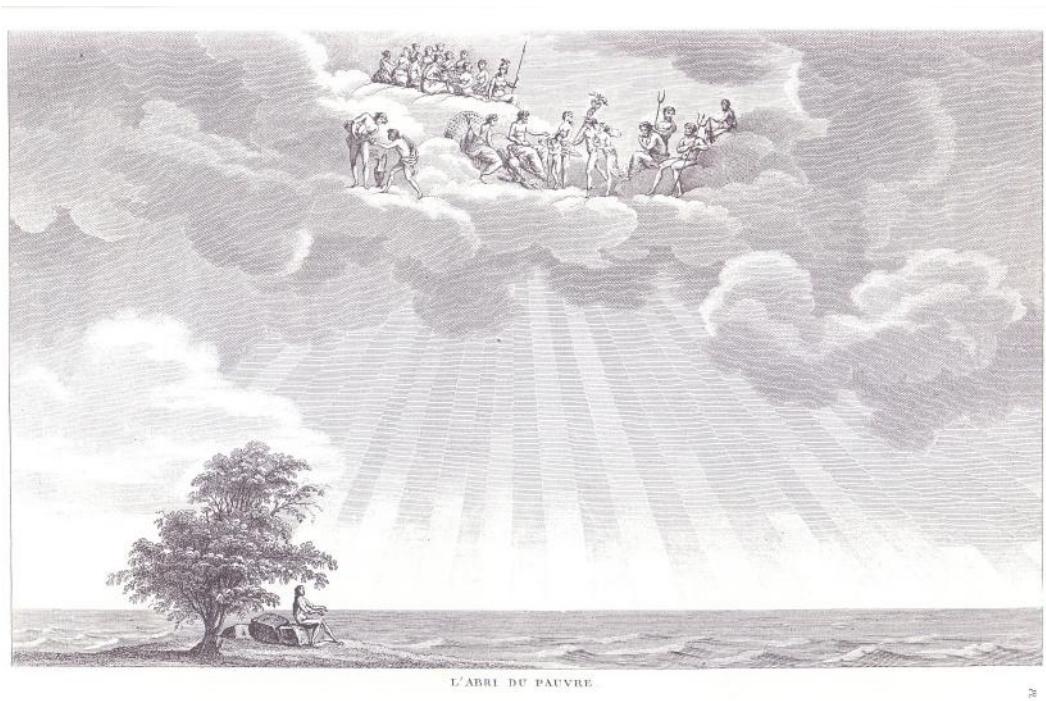
【図4-39】 ルドウ(ボヴィネ彫版)「ルー河に掛かる橋の透視図」『建築論』1804年
(書籍に挿入された通りの向き)



【図5-1】 ルドウ(ボヴィネ彫版)「シヨーの都市の墓地、立面図」
『建築論』1804年



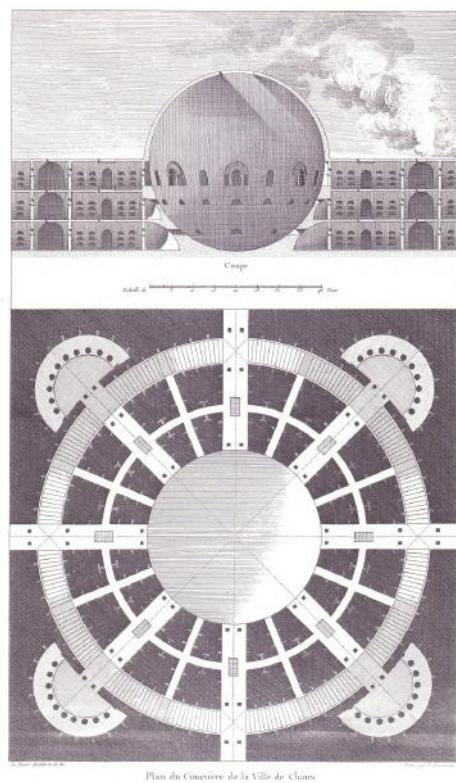
【図5-2】 ルドウ(彫版未詳)「貧者の家」『建築論』1804年所収



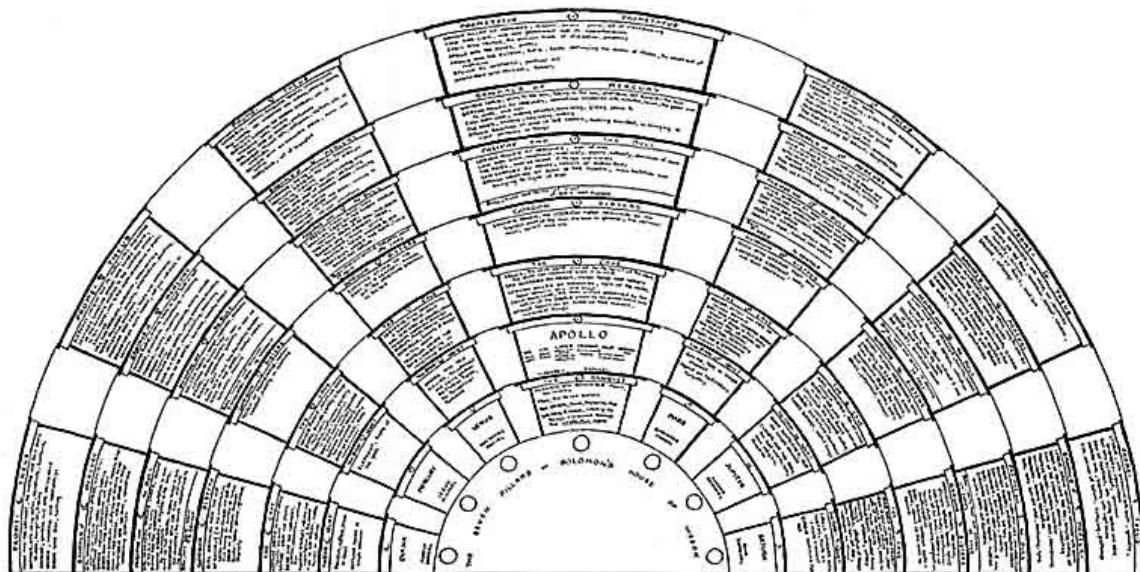
【図5-3】 マルク=アントワーヌ・ロージエ『建築試論』第2版、1755年
フロンティスピース(シャルルル・エゼン彫版)



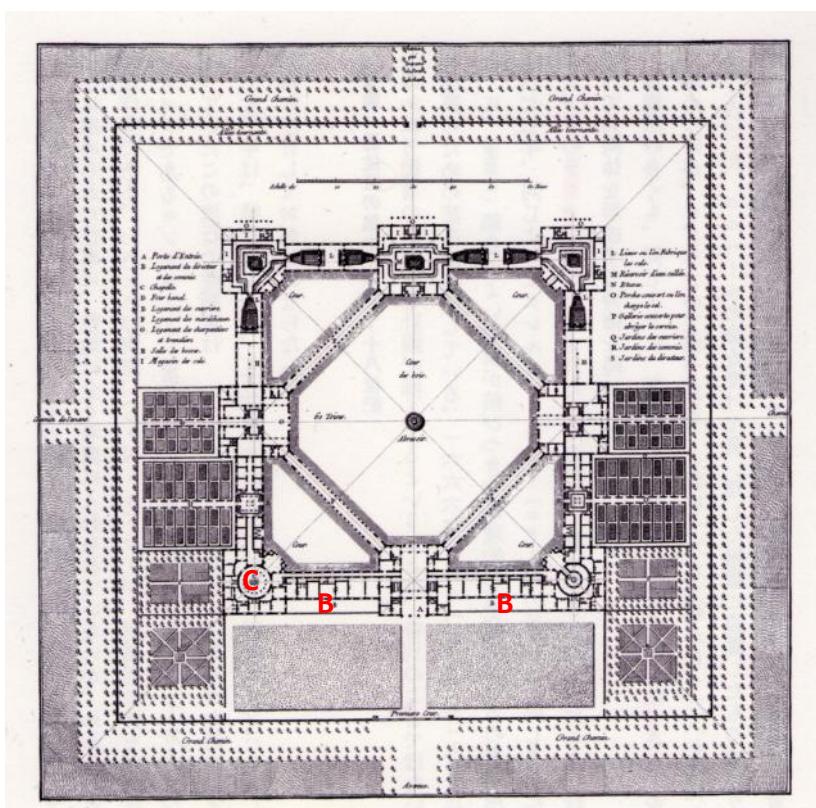
【図5-4】 ルドウ(ラナゾネット彫版)「ショーの都市の墓地、断面図、平面図」
『建築論』1804年



【図5-5】 ジュリオ・カミッロの記憶劇場、1533年建造
フランシス・イエイツによる再現

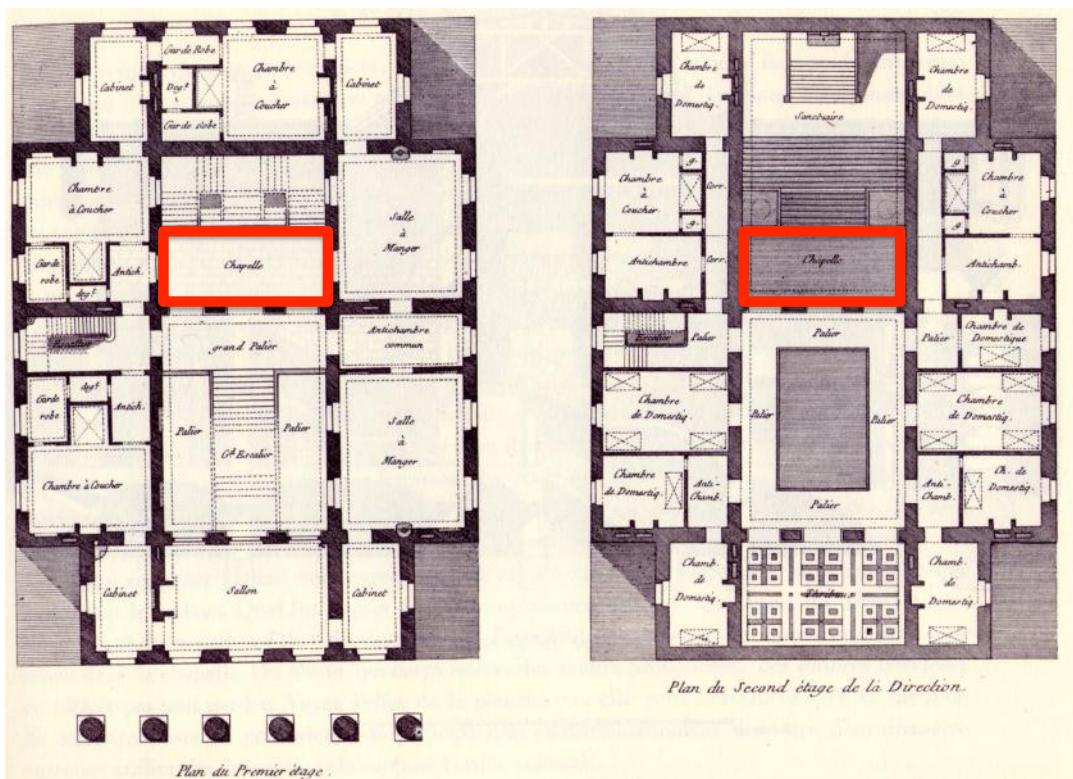


【図5-6】 ルドウ(スリエ彫版)「王立製塩所第一案」、『建築論』1804年所収
(図中の赤字追記は筆者による)

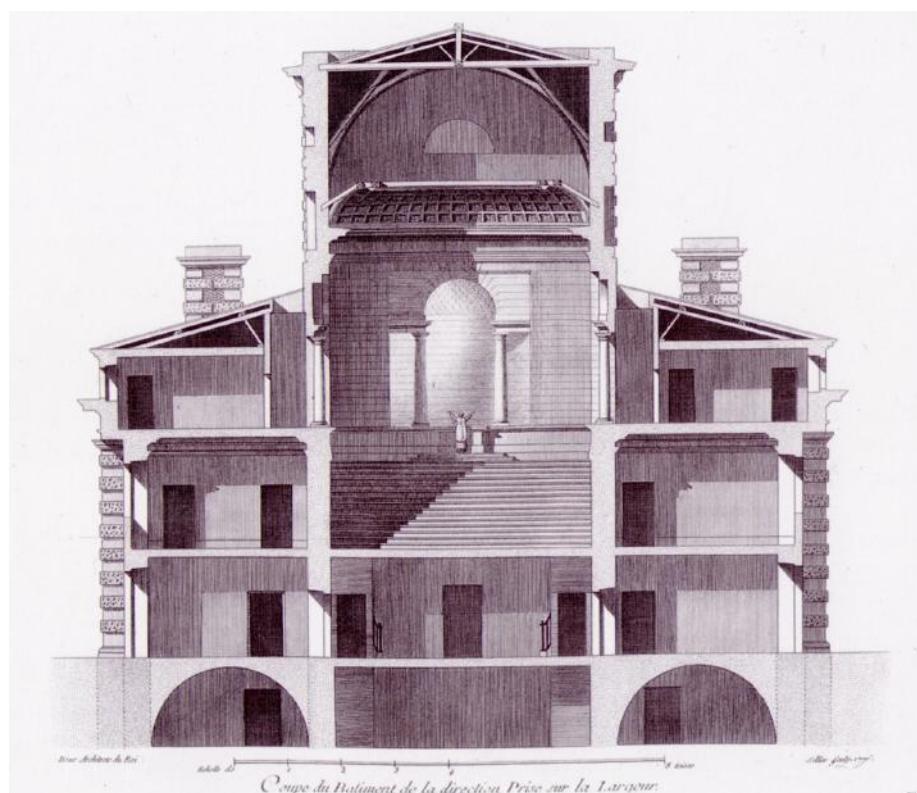


- A. 正門
- B. 工場長の館
- C. 礼拝堂
- D. 共同の竈
- E. 労働者の宿舎
- F. 蹄鉄工の宿舎
- G. 大工の宿舎
- H. 倉庫
- I. 塩の倉庫
- L. 製塩の場所
- M. 塩水の貯水池
- N. 乾燥室
- O. 塩を積み出す屋根付きボーチ
- P. 効率化のための屋根付き回廊
- Q. 労働者の庭
- R. 事務員の庭
- S. 工場長の庭

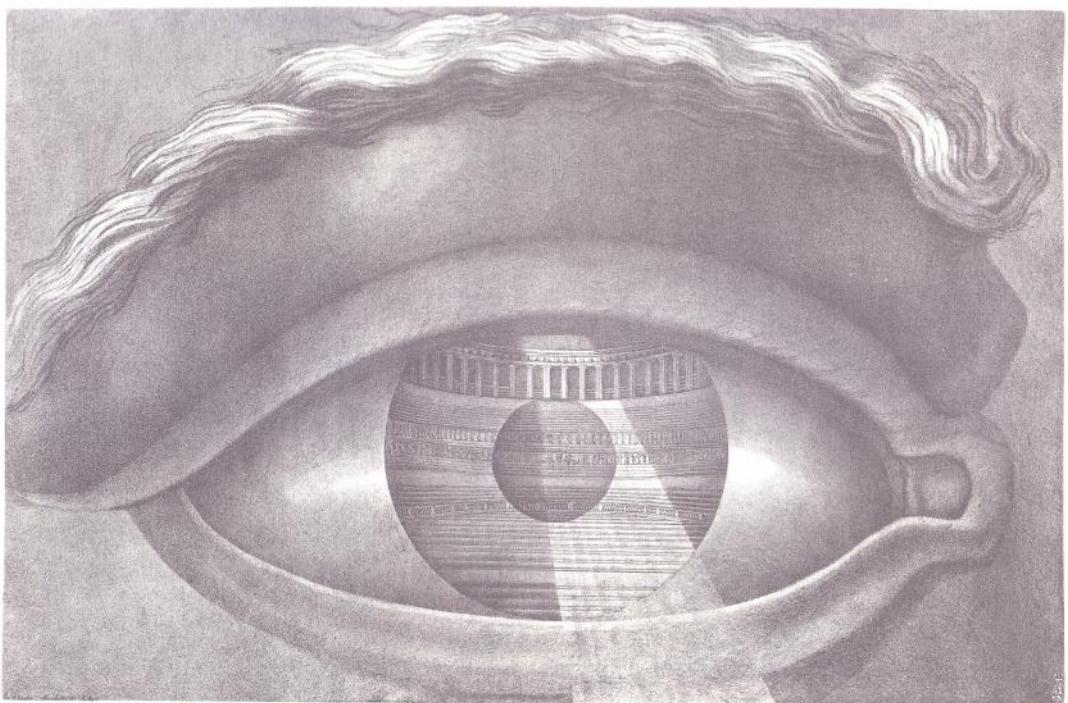
【図5-7】 ルドウ(スリエ彫版)「監督官の館 第2案平面図」『建築論』1804年
2階(左)と3階(右)
赤線で囲われた部分(筆者追記)が礼拝堂



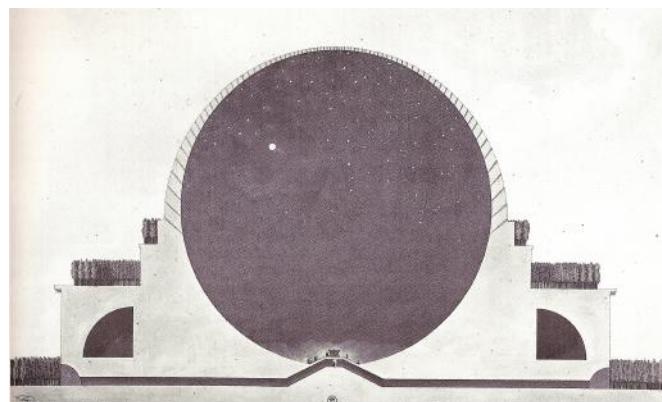
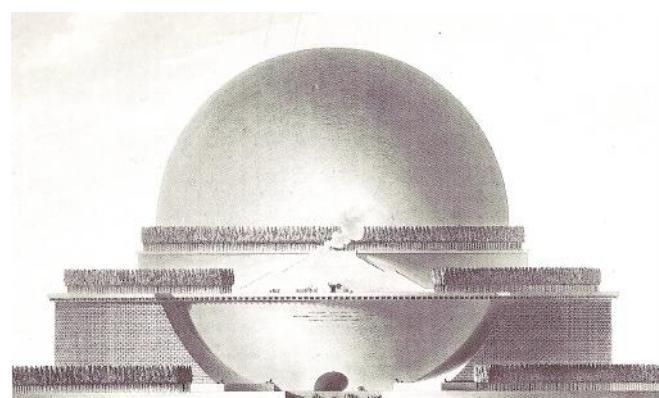
【図5-8】 ルドウ(スリエ彫版)「監督官の館」短辺方向の断面図、1776年、『建築論』1804年



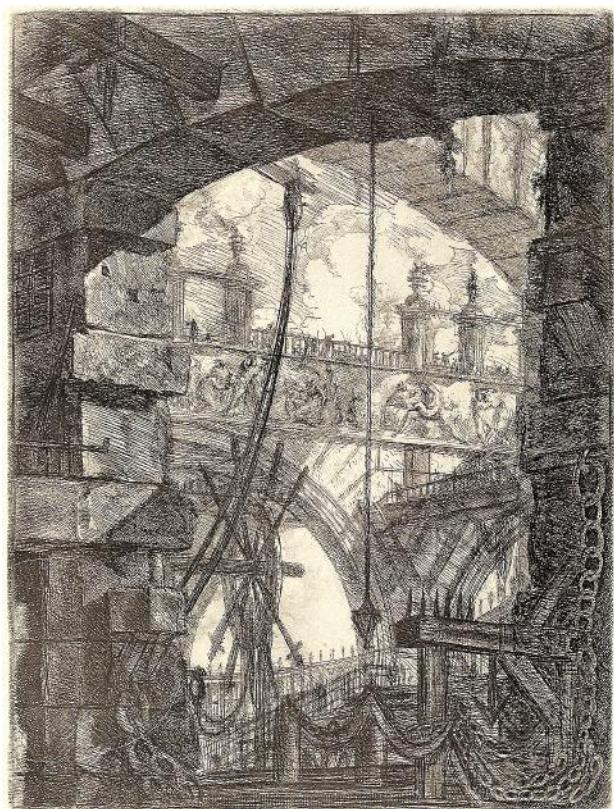
【図5-9】 ルドウ案(彫版未詳)「ブザンソンの劇場への一瞥」『建築論』1804年所収



【図5-10】 ブレ「ニュートンのセノタフ」1784年
上:立面図／下:断面図(夜の場面)



【図5-11】ピラネージ「大広場」「幻想の牢獄」第2刷、1761年頃



【図5-12】アルベルティによるエンブレム「翼のある眼」



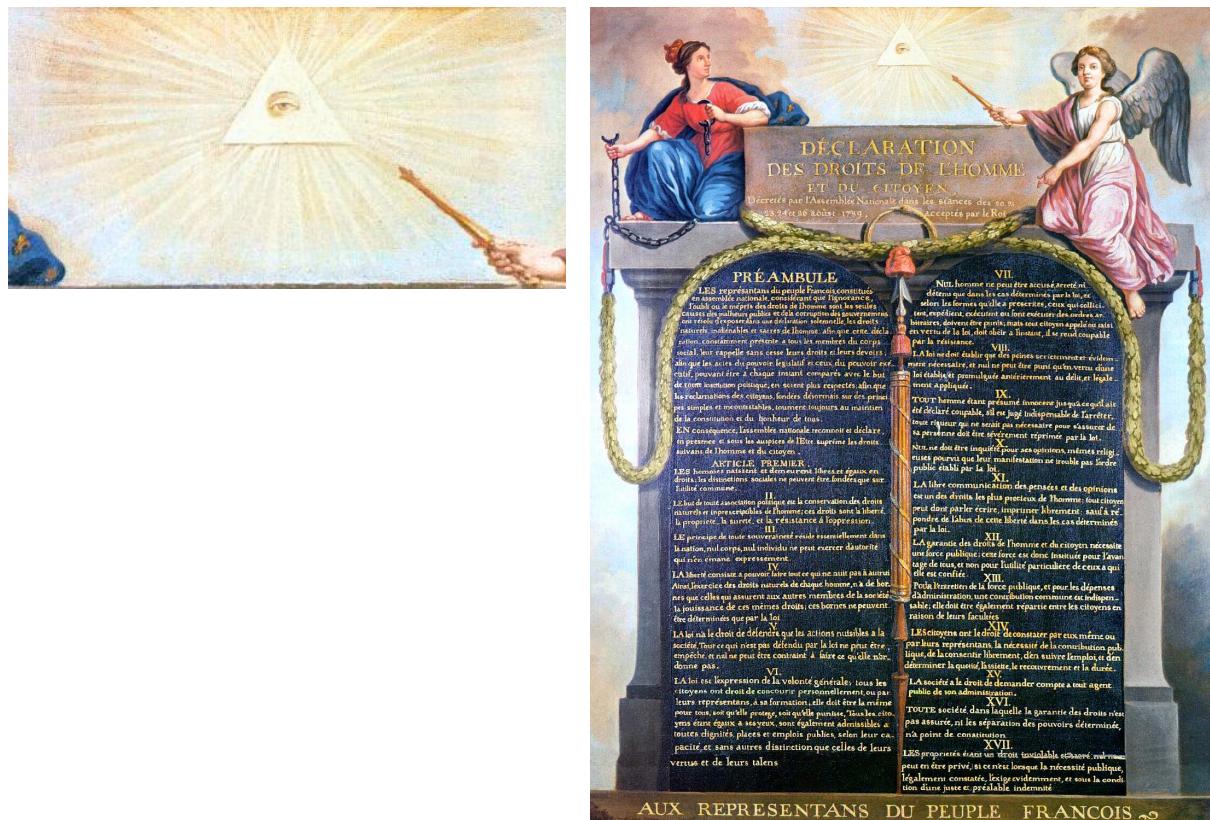
【図5-13】 マッテオ・デ・パステイ、アルベルティの肖像コイン、1450-55年、大英博物館



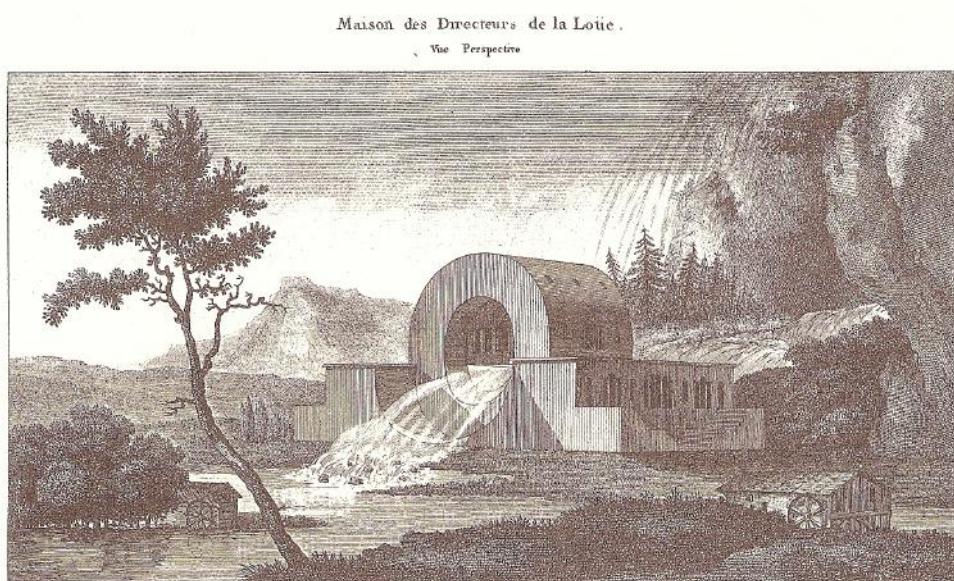
【図5-14】 イギリスのフリーメイソンの前掛け、1790年頃、イギリス連合ロッジ所蔵



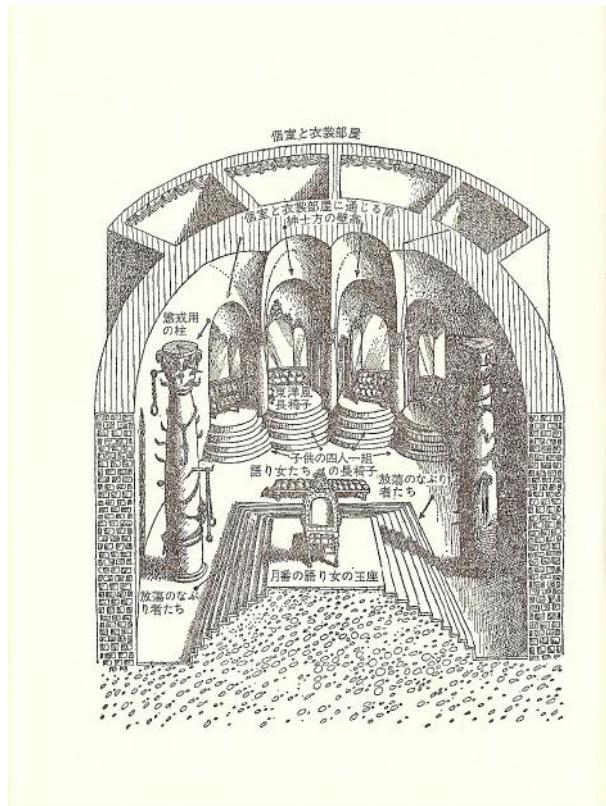
【図5-15】 ジャン=ジャック=フランソワ・ル・バルビエ、フランス人権宣言、1789年
カルナヴァッレ美術館



【図5-16】 ルドウ(ヴァン・マエルとマイエ彫版)「ルー河の水源監視人の家」
『建築論』1804年



【図5-17】ラモン・アレジャンドロ「『ソドム百二十日』シリング城の集会の間の想像図」



【図5-18】ピラネージ《アントニウス帝の浴場の遺跡》『ローマ風景』1748頃-78年



【図5-19】 ジョセフ・マイケル・ガンディ《イングランド銀行の鳥瞰図》1830年

